敏ナル性情ト規律嚴守ノ心情トヲ養ヒ且整齊ニシテ節度アル動作ニ慣レシムルヲ主眼トス	自主、自省、責任ノ觀念ヲ養ヒ判斷活用ノ能力ヲ練リ且身體ヲ輕快敏捷ニシ體力ヲ强健ナラシムルヲ主眼トス	集合、解散ハ特ニ機敏快活ノ性格ヲ練ルヲ主眼トス 整頓ハ特ニ規律、秩序ノ觀念ヲ養フヲ主眼トス 其ノ他一般ニ協同團結、規律節制ノ精神ヲ養フヲ主眼トス	衆心一致擧止恰モ一體ノ如ク行動スルコトニ慣レシメ以テ綱紀ヲ嚴守シ秩序ヲ重ンジ協同團結ヲ尙ブ習性ヲ陶冶スルヲ主眼トス
12		60	
駈歩間右(左)向 同後向 折敷、伏セ 速歩及駈歩間折敷、伏セ 地形地物ヲ利用スル前進、停止	執銃ヲ以テスル同上 目標發見 射撃目標ノ選定 地形地物ノ利用 照尺及照準點ノ選定 射撃ノ諸動作 突撃	分隊及小隊ノ編成 併列及伍ヲ以テスル 整頓 右(左)向、後向 半右(左)向 行進 分隊教練 集合、解散 整頓 右(左)向、後向 半右(左)向 側面行進(駈歩) 横隊行進(駈歩) 停止、行進間ノ方向變換 (側面縱隊、横隊) 停止、行進間ノ隊形變換 (側面縱隊、横隊) 停止、行進間ノ敬禮 閱兵 分列	執銃ヲ以テスル 分隊教練 (同上ノ課目) 小隊教練 (概ネ分隊教練ノ課目ニ準ズ)
			第一年ニ於ケル課目ハ單ニ其ノ概要ヲ會得セシムルニ止メ第二年以上ニ於テハ順序ヲ追ヒ確實ニ之ヲ實施スルモノトス

志氣ヲ旺盛ニシ自主、自省、責任ノ觀念ヲ養ヒ判斷活用ノ能力ヲ練リヨク長上ノ意圖ニ遵ヒ團體內ニ於テ各自ノ任務ヲ完全ニ遂行シテ團體ノ目的ヲ達成スル習性ヲ作リ且身體ヲ輕快敏捷ニシ體力ヲ强健ナラシムルヲ主眼トス	一列側面縱隊ノ前進、停止 不齊地ノ通過 横隊及側面縱隊ヨリ一列側面縱隊ノ作リ方 散開ノ方法(主トシテ一列側面縱隊ヨリ) 散兵ノ前進、停止 散兵ヨリ集合、併合	同上復習 記號ニヨル一列側面縱隊及散兵ノ運動 射撃ノ諸動作 突撃	分隊教練ハ確實ニ之ヲ實施シ小隊教練ハ其ノ概要ヲ會得セシムルニ止ム
30			

記憶力及理解力ヲ練リ責任觀念ヲ養ヒ且自他ノ意志思考ヲ簡明ニ發表傳達スルコトニ慣レシムルヲ主眼トス 注意力ト慧敏ナル性情トヲ練リ獻身的精神ト自主自律ノ性情トヲ養ヒ協同ノ美習ヲ助成シ且常ニ儒アルノ用意ヲ堅クセシムルヲ主眼トス 概ネ晝間ニ於ケルモノニ同一ナレドモ特ニ夜暗ニ慣レ剛膽沈着ノ性格ヲ養ヒ夜間ニ於ケル活動力ヲ增進セシムルヲ主眼トス	簡單ナル語句ヨリ稍々複雜ナル語句ノ傳達、文書ノ送達 停止間ノ遞傳 行進間ノ遞傳、連絡 斥候ノ前進要領 目標ノ發見報告 喪哨(二人哨)ノ動作 停止間ノ遞傳 喪哨ノ動作	横隊ヨリ疎開ノ方法(二線、一線) 側面縱隊ヨリ疎開ノ方法 疎開ノ接敵運動 火線ノ構成(火線ト援隊) 火線ノ攻撃運動 集合、併合	適宜各種地形地物(道路、河、森林、橋梁等)ノ偵察報告及地圖、磁針、星ニ依ル方位ノ判定ヲ課スルコトヲ得 對空監視ノ概念ヲ會得セシム
70			

精神的薰化ヲ興ヘ軍事常識ヲ養成シ且教練ノ各課目ノ目的精神ヲ理解セシムルヲ主眼トシ努メテ他ノ各課目トノ連絡ニ留意ス	適當ノ機會ヲ利用シ逐次程度ヲ高メテ實施スルモノトス 時數ハ實働時間トス但シ一回概ネ四時間以上ヲ計上セザルモノトス	步測(概ネ五百米迄) 步測ノ復習 目測(概ネ千米迄) 創ノ處置、繃帶法、止血法 急病ノ處置 人工呼吸法	陸軍平時團隊ノ配置、各兵科ノ性能、武官ノ階級、軍隊生活、服役ノ大意、典令範中必要ノ事項等 海軍ニ關シテハ海軍ノ任務、海軍軍人ノ階級、艦船ノ種類及性能、主要兵器ノ概略、海軍生活等海軍ニ關スル一般常識
20			

男體ノ正常ナル發達ヲ圖リ精神ヲ鍛錬シ潑剌ナル氣風ヲ養成スルト共ニ教練ノ修習ヲ容易ニシ其ノ成果ノ向上ニ資セシムルヲ主眼トス 心身ヲ鍛錬シ尙武ノ氣象ヲ涵養シ禮節ヲ重ンズル氣風ヲ振作スルヲ主眼トス	第一年及第二年ニ於テハ主トシテ基本體操、應用體操ノ初步、小藏技ヲ授ケ年ノ進ムニ從ヒ應用體操、團體競技ヲ增加ス 劍道等 基本動作、試合等ヲ適宜實施ス		
50			

キ標準時數ヲ示スモノトス
保存法、地圖ノ見解、地形ノ識別ヲ適宜課シ且之ガ爲各個教練ヨリ特ニ十時間以內ヲ割キテ充當スルコトヲ得
徒ヲシテ助教、助手及分隊長ノ動作ヲ爲サシメ衆ヲ統御スル能力ヲ養ヒ且規律節制、協同團結ノ必要ナル所以ヲ會得セシム(指揮法)
令及射撃教範ニ、旗信號ハ陸軍所定ノ制式ニ據ルモノトス
練ヲ本位トスルモ土地ノ情況ニ依リ徒手教練ヲ課スルコトヲ得
徒ノ心身ノ發達情況ニ應シ學校體操教授要目中中學校及男子實業學校ニ關スル教材竝ニ其ノ他ノ教材中ヨリ適宜取捨選擇シ體操ノミヲ授クルトキノ外教練實施ノ前後又ハ指導方法ヲ適切ナラシムルモノトス
ヲ課セザルコトヲ得

○青年學校專修科ニ關スル件

（昭和十年十月十九日
收社教第一一四二號通牒）

學務部長ヨリ青年學校長宛

青年學校ノ普通科、本科又ハ研究科ノ生徒ニシテ同時ニ其ノ專修科ノ課程ヲ兼修スル者ニ對シテ普通科、本科又ハ研究科ニ於テ課スル修身及公民科ヲ以テ專修科ニ於テ課スベキ修身及公民科ニ充ツルコトハ差支無之旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度依命通牒候也

○青年學校教練指導員選定ニ關スル件

（昭和十一年十二月十六日
發社教第一〇八八號通牒）

學務部長ヨリ市町村長青年學校長宛

青年學校教練ノ指導員ニ其ノ人ヲ得ルト否トハ直ニ青年ノ教養訓練ニ至大ノ關係ヲ有シ若シ之ヲ誤ルトキハ青年學校存立ノ本旨ニ副ハサルノ嫌ナキヲ保シ難候處往往ニシテ人的要素ニ缺陷ヲ認ムルモノアルハ遺憾ニ付爾今一層其ノ取扱方ニ關シ帝國在鄉軍人會當事者等ト協調ヲ保持シ且ツ左記各項ニ依リ愼重ニ取扱ハルル樣致度及通牒候也

記

一、青年學校長ハ教練指導員候補者ヲ陸海軍在鄉軍人ヨリ選定セントスルトキハ成ルヘク其ノ在營年限永ク且階級教育程度、竝德望高キ者ヨリ其ノ他ノ者ニ在リテハ適當ト認ムル者ヨリ之ヲ銓衡スルモノトス

二、青年學校長ハ教練指導員ノ補充ヲ考慮シ左記樣式ニ依ル青年學校教練指導員候補者名簿ヲ作成シ毎年一月末日迄ニ其ノ二通ヲ知事ニ提出スルモノトス

昭和　年度　何　青年學校教練指導員候補者名簿

徵集年	兵科	階級	氏名	學歷ノ大要	補充順

三、青年學校長前項教練指導員候補者名簿ヲ作成スルニ當リテハ青年學校管理者及帝國在鄉軍人分會長ト協議ヲ遂ケ豫メ本人ノ承諾ヲ經ルモノトス

四、青年學校教練指導員候補者名簿中銓衡等必要アリト認メタルトキハ知事ハ帝國在鄉軍人會金澤支部長ト協議ノ上變更セシムルコトアルヘシ

五、現役在營中將來教練指導員タラシムベキ者ニ對シ特別ノ教育ヲ施サルヘキヲ考慮シ青年學校長ハ本人在營中能ク連絡ヲ保チ優良ナル指導員ヲ得ルコトニ着意スルモノトス

○公立青年學校旗制竝公立青年學校男子職員及生徒服制

（昭和十年六月一日　石川縣告示第百六十四號）

公立青年學校旗制竝ニ公立青年學校男子職員及生徒服制ヲ左ノ通定ム

附　則

石川縣青年訓練所旗制竝ニ石川縣青年訓練所職員生徒服制ハ之ヲ廢止ス

公立青年學校旗制

制式圖

制式

地色—白無地　地質—鹽瀨　日章及光線—紅

錢波—白　海—青紺　縁—平織金線

總及緒—黃色絲繩目綯

旗竿—樫千段卷黑塗八長サ一米八〇

竿頭章—金色金屬製三面櫻花章（各面内ニ學校略名ヲ入ルルコトヲ得）

旗鐏—金屬製

備考　青年學校旗取扱ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

公立青年學校男子職員及生徒服制

品目＼區分	職員	生徒
帽 地質	國防色絨	國防色絨又ハ同防水綾織綿布
帽 前章	金屬製トシ形狀制式圖ノ如シ	
帽 眼庇	黑革	
帽 頤紐	黑革紐ニ金色櫻花形側章ヲ附ス	
帽 制式	天井嵌出部及鉢卷ハ帽ト共地トシ嵌出部下部ニ鳩目小孔二個ヲ穿ツ形狀ハ陸軍軍帽ニ準ズ	陸軍軍帽ニ準ズルモノ
帽 地質	國防色「セル」又ハ絨	國防色綿布
帽 釦	金色金屬製トシ大釦徑二糎・小釦徑一、五糎トス	
衣 物入	外部ヨリ縫ヒ著ケ中央ニ襞ヲ附ス	
衣 襟章	左襟ニ金屬製學校名ノ略稱ヲ附ス形狀制式圖ノ如シ	左襟同上、右襟ニ金屬製ノ科別ヲ附ス形狀制式圖ノ如シ
衣 紐釦	ナシ	左後方ニ一個ヲ附ス
衣 制式 折襟形	形狀制式圖ノ如シ	立折襟形
衣 制式 立折襟形		
袴 地質	衣ニ同シ	
袴 物入	兩側物入ノ外右臀部ニ襞ヲ附シタルモノ一個ヲ縫ヒ著ク	
袴 制式	形狀制式圖ノ如シ	

脚絆 地質	國防色綿厚織又ハ絨
脚絆 制式	卷脚絆
靴 地質	皮革、「ゴム」又ハ「ズック」
靴 制地	靴上又ハ深「ゴム」靴トス（地下足袋ヲ代用スルコトヲ得）
雨具 地質	防水國防色綿布又ハ絨
雨具 制式	陸軍將校用「マント」形ニ準ズ　陸軍防雨外套ニ準ズ

備考　本制服著用ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

公立青年學校男子職員及生徒服制

制式圖

帽章

襟章（金色金屬）
學校名略稱
縦一糎

襟章（金色金屬）
科別
縦一糎

徽章（金色金屬）
縦　幅　職員用　一、八糎　生徒用　二、〇糎
縦　五糎　三、〇糎

區分
- 縣關係職員・紫色綬
- 設立者―黄色綬
- 學校長―緑色綬
- 教職員―赤色綬
- 生徒―綬ヲ除ク

裏面ニ「石川縣」ヲ刻ス

職員服
衣前面

職員服
生徒服
衣背面

生徒服
衣前面

職員服
生徒服
袴右側面

○公立青年學校旗取扱規則

（昭和十年六月一日
石川縣訓令甲第十一號）

市町村長
町村學校組合長
公立青年學校長

第一條　青年學校旗ニ對シテハ常ニ尊崇ノ念ヲ以テ之ニ接スルモノトス

第二條　青年學校旗ハ日常ノ教授及訓練或ハ儀式又ハ其ノ學校ヲ表現スル場合之ヲ樹ツルモノトス

第三條　青年學校長ハ生徒一名ヲ選拔シ旗手ヲ命ジ之ヲ捧持セシムルモノトス

第四條　青年學校旗ニ對シ儀禮ヲ行フトキハ之ヲ隊列又ハ式場ノ中央前ニ誘導シ一同捧銃又ハ注目ノ敬禮ヲ爲スヲ例トス

第五條　青年學校旗ノ敬禮ヲ爲スハ天皇、皇族、軍旗、貴賓其ノ他公務上臨場シタル長上ニ對スルトキ並ニ拜神、遙拜、詔勅又ハ令旨奉讀式等ノ場合トス

第六條　青年學校旗ノ捧持及禮式左ノ如シ

㋑　青年學校旗ヲ捧持スルニハ旗鐓ヲ右股ニ當テ右肘ヲ後ニ、其ノ拳ヲ肩ノ高サニシ旗頭ヲ僅ニ前方ニ傾カシム

㋺　敬禮ノ爲ニハ右手ヲ旗竿ニ沿ヒテ眼ノ高サニ上ゲ旗鐓ヲ右股ヨリ離スコトナク右手ヲ十分前ニ伸バシ旗ヲ垂ル

㋩　旗手ノ敬禮動作（目迎目送又ハ注目）ハ青年學校旗ノ敬禮ヲ爲ストキニ限リ之ヲ行フ

第七條　青年學校旗ノ定位置概ネ左ノ如シ

㋑　一般整列ノトキ
青年學校長ノ右側（學校長ハ隊列ノ右翼ニ列ス）

㋺　拜神、遙拜、奉讀式等ノトキ
隊列中央前指揮者ノ右側

㋩　行軍又ハ遠足ノトキ
隊列ノ先頭

㋥　數青年學校合同シテ整列ノトキ
其ノ都度總指揮者ニ於テ適宜之ヲ定ム

第八條　青年學校旗ニ關係アル記念授與ハ必要ニ應ジ之ヲ竿頭ニ附著スルコトヲ得

附　則

公立青年學校旗制ニ依ル制式ト異ルモノト雖モ當分ノ間之ヲ用フルコトヲ得

石川縣青年訓練所旗取扱規則ハ之ヲ廢止ス

○公立青年學校男子職員及生徒服裝規則

（昭和十年六月一日
石川縣訓令甲第十二號）

市町村長
町村學校組合長
公立青年學校長

第一條　青年學校男子職員及生徒服制ニ依ル制服ハ執務中或ハ教授及訓練從事中又ハ其ノ身分ヲ表ハストキ之ヲ著用シ日常ニ在リテモ著用スルコトヲ得

第二條　教授科擔任ノ指導員ニ在リテハ執務中軍服ヲ著用スルヲ本則トス但シ短期現役兵出身ノ者ニ限リ前條ノ職員制服ヲ著用スルコトヲ得

第三條　帶刀本分ニ非ザル教練科擔任ノ指導員ト雖モ小隊長以上ノ職ヲ執ルトキニ限リ指揮刀ヲ佩用スルコトヲ得

第四條　縣關係職員及青年學校設立者ハ第一條ノ職員制服ヲ著用スルコトヲ得

第五條　青年學校男子職員及生徒並ニ前條關係者ハ上衣ノ右胸部ニ所定ノ徽章ヲ佩ブルモノトス

附　則

普通科ノ生徒ニ限リ本規則ニ依ラザルコトヲ得

公立青年學校男子職員及生徒服制ニ依ル制服ト異ナルモノト雖モ當分ノ間之ヲ著用スルコトヲ得

石川縣青年訓練所職員生徒服裝規則ハ之ヲ廢止ス

○公立青年學校徽章類授與並ニ佩用規程

（昭和十一年二月十二日
石川縣訓令甲第二十四號）

市役所
町村役場
町村學校組合
公立青年學校

第一條　青年學校生徒ノ出席ヲ眞好ナラシムル爲必要アル時ハ別記圖式ノ精勤章ヲ設クルコトヲ得

第二條　精勤章ハ本科ニ在リテハ青年學校規程第八條第三號表ニ依ル各教授及訓練科目ノ教授及訓練時數ノ當該科ニ於ケル總時數（普通學科及職業科ノ時數ハ之ヲ通算ス）又研究科ニ在リテハ當該學校學則ノ定ムル總時數ノ各八割以上ヲ修メタル男子生徒ニ對シ年一回ヲ限リ學校長之ヲ授與シ又毎年重ネテ授與スルコトヲ得

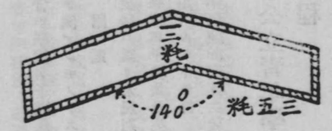
第三條　精勤章ハ青年學校制服左腕外側ニシテ肩ノ縫目最高位置ヨリ十糎ヲ下リ其ノ頂部ヲ置キ之ヲ縫著シ二個以上ノトキ其ノ間隔二糎ヲ置キ逐次下方ニ重ヌルモノトス

第四條　青年學校關係ノ諸徽章ハ特ニ定ムルモノノ外右胸部ニ於テ左記ノ順序ニ依リ佩用スルモノトス但シ帝國在鄉軍人會所定ノ諸徽章ト同列ニ佩用スル場合ハ其ノ下位トシ又軍服ニ佩用スル場合ニ在リテハ青年學校ノ業務ニ從事スル時ニ限ル

青年學校表彰徽章（直屬系統ノ順位ニ依ル）
其ノ他表彰徽章
青年學校職員生徒徽章
青年學校記念諸徽章
其ノ他ノ徽章

別記

精勵章



精勵章製式

表　緋絨

裏　茶褐色棉布

附則

本規程ハ昭和十一年四月一日ヨリ施行ス

○青年學校ニ使用スル軍用銃及火藥類ノ保管出納等ニ關スル件

（昭和二年一月八日
收學第二六八八號通牒）

學務部長ヨリ青年訓練所主事實業補習學校長宛

青年訓練所竝青年訓練所規程第六條ノ認定ヲ受ケタル實業補習學校ニ於テ教練ヲ授クルニ當リ射擊發火演習等ハ必スシモ之ヲ爲サシムルノ趣旨ニ無之處青年訓練所又ハ青年訓練所規程第六條ノ認定ヲ受ケタル實業補習學校ニ於テ或ハ軍用銃ヲ使用セシメ更ニ射擊發火演習等ヲモ實施セラルル向アルヤニ聽キ及ヒタルニ付爾今右ノ如キコトアル場合ハ特ニ左記各項御了知ノ上取扱相成度此段依命通牒候也

記

一、軍用銃保管倉庫ノ窓、扉、鎖鑰等ハ堅牢ナル構造ト爲シ盜難等ニ備ルノ虞ナカラシムル樣注意スルコト

二、銃用實包、空包等ノ取扱ニ關スル事項

(一)　銃用實包ハ成ルヘク使用當日ニ拂下軍衙又ハ讓渡人ヨリ交付ヲ受クルコト

(二)　拂下ヲ受ケ又ハ讓受ケタル銃用實包ハ當日中之ヲ使用シ數量ノ多寡ニ拘ハラス剩餘ヲ生セシメサル樣注意スルコト但シ已ムヲ得ス使用殘ヲ生シタル場合ニ於テハ必ス直ニ軍衙又ハ火藥商ニ之カ保管ヲ委託スルコト

(三)　銃用空包、火藥、雷管付藥莢ノ拂下ヲ受ケ又ハ購入ヲ爲ス場合ニ於テモ成ルヘク使用殘ヲ生セサル樣其ノ使用量ヲ見込ミ事情ノ許ス限リ使用當日ニ軍衙又ハ讓渡人ヨリ交付ヲ受クルコト若シ已ムヲ得ス使用殘ヲ生シタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ措置スルコト

甲　使用殘ノ火藥類ハ成ルヘク軍衙又ハ火藥商ニ保管ノ委託ヲ爲スヘキコト但シ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條第一號、第三號及第四號ノ各號ノ一ニ該當スル數量ナルトキハ盜難又ハ爆發等ノ虞ナキ安全ナル場所ニ貯藏スルモ差支ナキコト此ノ場合ニ於テハ銃砲火藥類取締法施行細則第二十七條ノ規程ヲ遵守スルコト

乙　使用殘ノ火藥類ニシテ前號但書ニ揭クル數量ヲ超ユルモノニ付テハ必ス直ニ軍衙又ハ火藥商ニ其ノ保管ヲ委託スルコト

○石川縣立青年學校教員養成所學則

（昭和十二年三月十七日
石川縣令第五十二號）

第一章　總則

第一條　本所ハ青年學校教員養成所令ニ依リ青年學校教員タルベキ者ヲ練成スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ハ石川縣立松任農學校ニ併設ス

第三條　生徒ノ定員ハ三十名トス

第四條　修業年限ハ二年トス

第五條　授業料ハ之ヲ徵收セズ

第二章　學年、學期及休業日

第六條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第七條　學年ヲ左ノ學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第八條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　祝日、大祭日及日曜日

二　創立記念日

三　夏季休業　八月ニ於テ十五日

四　冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第九條　成績考査、生徒入所等ノ爲學年ノ終始ヲ通シテ十四日以內教授ヲ缺クコトヲ得

第十條　所長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得但シ急施ヲ要スル場合ハ施行後速ニ知事ノ承認ヲ受クベシ

第三章　學科課程及毎週教授時數

第十一條　學科課程及毎週教授時數ハ別表ニ依ル

第四章　入所、退所及休學

第十二條　入所セシムベキ生徒ノ員數及入所出願期日等ハ其ノ都度知事之ヲ告示ス

第十三條　入所志願者ハ身體强健、品行方正且本縣内ニ於テ青年學校教員タラントスル志望確實ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者トス

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ實業學校又ハ之ト同程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者

二　師範學校又ハ中學校ヲ卒業シタル者

三　前各號ニ掲グル者ニ準ズベキ學力アル者

第十四條　入所志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歴書(第二號書式)戸籍謄本、最終學校ノ成績證明書及身體檢査書ヲ添ヘ所長ニ差出スベシ

第十五條　入所ヲ許可スベキ者ハ身體檢査、人物考査及學科試驗ニ依リ所長之ヲ決定ス

試驗ノ期日及科目ハ知事之ヲ告示ス

第十六條　入所ヲ許可セラレタル者ハ入所ノ日ヨリ七日以内ニ二名ノ保證人ヲ定メ連署ノ上誓約書(第三號書式)ヲ所長ニ差出スベシ

保證人ハ石川縣内ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者ニシテ内一名ハ養成所所在地又ハ其ノ附近ニ居住スル者タルベシ

保證人ハ其ノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度所長ニ届出ヅベシ

所長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ保證人ヲ變更セシムルコトアルベシ

第十七條　所長ニ於テ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ卒業ノ見込ナシト認メタル者ニハ退所ヲ命ズルコトヲ得

第十八條　生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退所スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ所長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第十九條　所長ニ於テ前二條ニ依リ生徒ヲ退所セシメタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第二十條　所長ハ疾病等ノ爲三月以上修學スルコト能ハズト認メタル生徒ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ命ズルコトヲ得

休學ヲ命ジタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第五章　課程ノ修了及卒業

第二十一條　學年ノ課程ノ修了及全課程ノ卒業ノ認定ハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ試驗ヲ行フコトヲ得

試驗及成績考査ニ關スル細則ハ所長之ヲ定メ知事ニ開申スベシ

第二十二條　所長ハ所定ノ課程ヲ卒ヘタリト認メタル者ニハ卒業證書(第四號書式)ヲ授與スベシ

第六章　褒賞及懲戒

第二十三條　所長ハ生徒中學業、操行、體位優秀ナル者又ハ其ノ進歩顯著ナル者ヲ褒賞スルコトヲ得

第二十四條　所長ハ生徒ニ對シ教育上必要ト認メタルトキハ左ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一　戒飭

二　謹慎

三　放所

懲戒ヲ加ヘタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第七章　服務及償還義務

第二十五條　卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間本縣ニ於テ青年學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

特別ノ事由アルトキハ前項ノ服務義務ノ履行ヲ猶豫シ又ハ免除スルコトアルベシ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルベシ

一　第二十四條ニ依リ放所ニ處セラレタル者

二　第十七條ニ依リ退所ヲ命ゼラレタル者

三　第十八條ニ依リ退所ヲ許可セラレタル者

四　前條ノ服務義務ヲ盡サザル者及自己ノ便宜ニ依リ服務義務ヲ免除セラレタル者

五　服務義務期間内ニ於テ懲戒免職ニ處セラレタル者

授業費償還ノ金額及期日ハ知事之ヲ指定ス

第八章　塾舍

第二十七條　生徒ハ總テ塾舍ニ入ルモノトス但シ所長ニ於テ必要ト認メタルトキハ知事ノ指揮ヲ受ケ期間ヲ定メ通學ヲ命ズルコトヲ得

第九章　講習科

第二十八條　青年學校ノ男子教員其ノ他青年教育ニ從事スル男子ノ爲ニ講習科ヲ開設スルコトアルベシ

講習科ニ關スル要項ハ開設ノ都度之ヲ公告ス

第十章　補則

第二十九條　本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ所長之ヲ定メ知事ニ開申スベシ

附則

第三十條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十一條　大正七年二月十六日石川縣令第二十號石川縣立青年學校教員養成所規則ハ之ヲ廢止ス

別表

石川縣立青年學校教員養成所學科課程

學科目	第一學年 課程 毎週教授時數 前期	第一學年 課程 毎週教授時數 後期	第二學年 課程 毎週教授時數 前期	第二學年 課程 毎週教授時數 後期
修身及公民科	道德ノ要領竝ニ法制上、經濟上及社會上ノ事項	三	同上	三
教育	教育學、心理學	三	教授法、教育史、社會教育、青年學校經營	三

國語、漢文	講讀、作文	四	三	同上	四	三
國史	國史	一	一	同上　鄉土史	一	一
地理	既修知識ノ整理補充	—	一	同上　鄉土地理	—	一
數學	應用數學	二	一	同上	一	一
音樂	歌曲、樂典	一	一	同上	一	—
職業科　農業經濟		—	—	農業經濟　農業政策	四	四
作物	普通作物	一	二	工藝作物　育種學	—	三
園藝	蔬菜	一	二	果樹、花卉	一	二
農藝化學	土壤、肥料	二	二	植物生理	一	一
病蟲害	病理、害蟲	—	二	同上	—	二
畜産、水産	畜産	一	二	畜産、水産	—	二
養蠶	栽桑、飼育	—	二	蠶體生理病理	—	二
農産加工	農産加工各論	—	二	農産加工通論	—	一
林業	林學大意	—	一	同上	—	一
農業土木	測量	一	一	土木	一	—
工作		—	—	木工	—	二
體操	體操、武道、教練	四	四	同上	四	四
合計		二四	三三		二四	三四
實驗實習	農學實驗　農業實習	五回	三回	同上	五回	三回

備考　一、前期ハ四月一日ヨリ十月三十一日迄後期ハ十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

二、實驗實習ニ關シテハ本表時數外ニ延長シ又必要ニ應ジ特ニ之ヲ課スルコトアルベシ

第一號書式（用紙美濃紙）

入所願

私儀本縣青年學校教員志望ニ付御所ニ入所致度候間御許可相成度別紙履歷書、戶籍謄本成績證明書、身體檢査書相添ヘ此段御願候也

年　月　日　本籍

住所

本人氏名　印

本籍

住所

親權者又ハ後見人氏名　印

石川縣立青年學校教員養成所長氏名殿

第二號書式（用紙美濃紙）

履　歷　書

氏　　名

生年月日

一　學　　業

修業ノ場所　學科　年月日等

一　免　許　狀

教員免許狀ノ種類　年月日等

一　樂　　務

職名　年月日等

一　兵　　役

服役ニ關スル事項

一　賞　　罰

賞罰ノ事由　年月日等

右之通候也

年　月　日

右　氏　名印

第三號書式

誓　約　書

印紙

私儀在所中ハ所定ノ御規則等堅ク相守リ且卒業後ハ成規ノ服務義務ヲ完了可致尚御規定ニ依リ授業費償還ヲ命セラレタルトキハ保證人ト連帶ノ上其ノ責務ヲ完濟可致候依テ誓約書差出候也

年　月　日

本籍
住所
本人　氏　　生年月日　名印

本籍
住所
保證人　氏　　生年月日　名印

本籍
住所
保證人　氏　　生年月日　名印

石川縣立青年學校教員養成所長　氏　名殿

第四號書式

卒業證書

印所印

氏　名

生年月日

右者本所ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年　月　日

石川縣立青年學校教員養成所長位勳爵　氏　名　㊞

第　號

○石川縣女子青年學校教員養成所學則

（昭和十二年三月三日
石川縣令第四十七號）

第一章　總　則

第一條　石川縣立女子青年學校教員養成所ハ青年學校教員養成所令ニ依リ青年學校教員タルベキ女子ヲ練成スルヲ以テ目的トス

第二條　生徒ノ定員ハ二十五名トス

第三條　修業年限ハ二年トス

第四條　授業料ハ之ヲ徴收セズ

第二章　學年、學期及休業日

第五條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條　學年ヲ左ノ學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　祝日、大祭日及日曜日

二　皇后陛下御誕辰

三　創立記念日

四　夏季休業　八月ニ於テ十五日

五　冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第八條　成績考査、生徒入所等ノ爲學年ノ終始ヲ通ジテ十四日以内教授ヲ缺クコトヲ得

第九條　所長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得但シ急施ヲ要スル場合ハ施行後速ニ知事ノ承認ヲ受クベシ

第三章　學科課程及毎週教授時數

第十條　學科課程及毎週教授時數ハ別表ニ依ル

第四章　入所、退所及休學

第十一條　入所セシムベキ生徒ノ員數及入所出願期日等ハ其ノ都度知事之ヲ告示ス

第十二條　入所志願者ハ身體强健、品行方正且本縣内ニ於テ青年學校教員タラントスル志望確實ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ配偶者ナキ者トス

一　尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校又ハ之ト同程度ノ實業學校ヲ卒業シタル者

二　師範學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

三　前各號ニ掲グル者ニ準ズベキ學力アル者

第十三條　入所志願者ハ願書（第一號書式）ニ履歷書（第二號書式）戸籍謄本、最終學校ノ成績證明書及身體檢査書ヲ添ヘ所長ニ差出スベシ

第十四條　入所ヲ許可スベキ者ハ身體檢査、人物考査及學科試驗ニ依リ所長之ヲ決定ス

試驗ノ期日及科目ハ知事之ヲ告示ス

第十五條　入所ヲ許可セラレタル者ハ入所ノ日ヨリ七日以內ニ二名ノ保證人ヲ定メ連署ノ上誓約書（第三號書式）ヲ所長ニ差出スベシ

保證人ハ石川縣內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者ニシテ內一名ハ養成所所在地又ハ其ノ附近ニ居住スル者タルベシ

保證人其ノ住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度所長ニ屆出ヅベシ

所長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ保證人ヲ變更セシムルコトアルベシ

第十六條　所長ニ於テ疾病其ノ他ノ事由ニ因リ卒業ノ見込ナシト認メタル者ニハ退所ヲ命ズルコトヲ得

第十七條　生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退所スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ所長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限リニ在ラズ

第十八條　所長ニ於テ前二條ニ依リ生徒ヲ退所セシメタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第十九條　所長ハ疾病等ノ爲三月以上修學スルコト能ハズト認メタル生徒ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ命ズルコトヲ得

休學ヲ命ジタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第五章　課程ノ修了及卒業

第二十條　學校ノ課程ノ修了及全課程ノ卒業ノ認定ハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ試驗ヲ行フコトヲ得

試驗及成績考査ニ關スル細則ハ所長之ヲ定メ知事ニ開申スベシ

第二十一條　所長ハ所定ノ課程ヲ卒ヘタリト認メタル者ニハ卒業證書（第四號書式）ヲ授與スベシ

第六章　褒賞及懲戒

第二十二條　所長ハ生徒中學業、操行、體位優秀ナル者又ハ其ノ進步顯著ナル者ヲ褒賞スルコトヲ得

第二十三條　所長ハ生徒ニ對シ教育上必要ト認メタルトキハ左ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一　戒飭
二　謹慎
三　放所

懲戒ヲ加ヘタルトキハ事由ヲ具シ知事ニ開申スベシ

第七章　服務及償還義務

第二十四條　卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ一年間本縣ニ於テ青年學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

特別ノ事由アルトキハ前項ノ服務義務ノ履行ヲ猶豫シ又ハ免除スルコトアルベシ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルベシ

一　第二十三條ニ依リ放所ニ處セラレタル者
二　第十六條ニ依リ退所ヲ命セラレタル者
三　第十七條ニ依リ退所ヲ許可セラレタル者
四　前條ノ服務義務ヲ盡サザル者及自己ノ便宜ニ依リ服務義務ヲ免除セラレタル者

五　服務義務期間內ニ於テ懲戒免職ニ處セラレタル者

授業費償還ノ金額及期日ハ知事之ヲ指定ス

第八章　塾舍

第二十六條　生徒ハ總テ塾舍ニ入ルモノトス但シ所長ニ於テ必要ト認メタルトキハ知事ノ指揮ヲ受ケ期間ヲ定メ通學ヲ命ズルコトヲ得

第九章　講習科

第二十七條　青年學校女子教員其ノ他青年教育ニ從事スル女子ノ爲講習科ヲ開設スルコトアルベシ

講習科ニ關スル要項ハ開設ノ都度之ヲ公告ス

第十章　補則

第二十八條　本則施行ニ關シ必要ナル細則ハ所長之ヲ定メ知事ニ開申スベシ

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

學科課程

學科目＼學年	課程	第一學年		第二學年	
	教授時數	課程	每週教授時數	課程	每週教授時數
修身及公民科	道德ノ要領竝ニ法制上經濟上及社會上ノ事項	二	同上	二	同上
教育	心理學、教育學	三	教育學、教授法、青年學校ノ經營	三	同上
國語、漢文	講讀、作文	三	同上	三	同上
國史、地理	國史、地理	二	同上	二	同上
數學	應用數學	一	同上	一	同上
體操	體操、遊戲	二	同上	二	同上
音樂	音樂	一	同上	一	同上
家事	既修知識ノ整理補充及生活改善及實習	六	同上、青年學校家事科ノ教材研究及實習	六	同上、青年學校家事科ノ教材研究及實習
裁縫	既修知識ノ整理補充及實習	八	同上、青年學校裁縫ノ教材研究及實習	八	同上、青年學校裁縫ノ教材研究及實習
手藝	手藝	二	同上	二	同上
農業科	農業概論、園藝普通作物	三	農產加工、特用作物農村經營	三	同上
計		三三		三三	
實習	農業實習、教育實習	二周	同上	二周	同上

備考　實驗實習ニ關シテハ本表時數外ニ延長シ又必要ニ應ジ特ニ之ヲ課スルコトアルベシ

第一號書式（用紙美濃紙）

入所願

私儀本縣青年學校教員志望ニ付御所ニ入所致度候間御許可相成度別紙履歴書、戸籍謄本成績證明書、身體檢査書相添ヘ此段御願候也

年　月　日

本籍
住所
本人　氏　名印
本籍
住所
親權者又ハ後見人　氏　名印

石川縣立女子青年學校教員養成所長　氏　名殿

第二號書式（用紙美濃紙）

履歴書

氏　名
生年月日

一　學業
修業ノ場所學科年月日等
一　免許狀
教員免許狀ノ種類年月日等
一　業務
職名年月日等
一　賞罰
賞罰ノ事由年月日等

右之通候也

年　月　日

右
氏　名印

第三號書式

誓約書

印紙

私儀在所中ハ所定ノ御規則等堅ク相守リ且卒業後ハ成規ノ服務義務ヲ完了可致尚御規定ニ依リ授業費償還ヲ命セラレタルトキハ保證人ト連帶ノ上其ノ責務ヲ完濟可致候依テ誓約書差出候也

年　月　日

本籍
住所
本人　氏　名印
生年月日
本籍
住所
保證人　氏　名印
生年月日

石川縣立女子青年學校教員養成所長　氏　名殿

第四號書式

卒業證書

所印

氏　名
生年月日

右者本所ノ課程ヲ卒業セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年　月　日

第　號　石川縣立女子青年學校教員養成所長位勳爵　氏　名印

○石川縣立女子青年學校教員養成所設置

（昭和十二年三月三日石川縣告示第六百九十八號）

本縣立女子青年學校教員養成所左ノ通設置ス

一　名稱　石川縣立女子青年學校教員養成所
一　位置　河北郡津幡町字加賀爪
一　開所　昭和十二年四月

第五編　縣立諸學校

○石川縣師範學校規則

（大正十四年十一月二日
石川縣令第四十七號）

（改正）大正一五年石川縣令第四四號、昭和二年同第五號、四年同第一三號、五年同第一二號、六年同第二八號、七年同第四號、八年同第六九號、同第二四號、九年同第六二號

第一章　總則

第一條　石川縣師範學校及石川縣女子師範學校ニ本科第一部、本科第二部及專攻科ヲ置ク

第二條　本科第一部第二部ノ生徒ハ其ノ半數ヲ私費生トス

第三條　生徒定員及學級編制左ノ如シ

石川縣師範學校

本科第一部　四百人トシ之ヲ十學級ニ編制ス

本科第二部　八十人トシ之ヲ二學級ニ編制ス

專攻科　八十人トシ之ヲ二學級ニ編制ス

石川縣女子師範學校

本科第一部　二百人トシ之ヲ五學級ニ編制ス

本科第二部　八十人トシ之ヲ二學級ニ編制ス

專攻科　四十人トシ之ヲ一學級ニ編制ス

第二章　學年、學期及休業日

第四條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　一學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第六條　休業日左ノ如シ但シ第三號ハ石川縣女子師範學校ニ限ル

一　日曜日

二　祝日及大祭日

三　皇后陛下御誕辰

四　學校創立記念日

五　夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

六　冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

學年ノ終始ニ於テハ試驗成績考査、生徒入學等ノ爲各七日以內教授ヲ缺クコトヲ得

第七條　前條ノ外必要アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第三章　學科課程及每週教授時數

第八條　本科第一部及本科第二部ノ生徒ニ課スヘキ學科目、學科課程及其ノ每週教授時數ハ石川縣師範學校ニ在リテハ甲號表ニ石川縣女子師範學校ニ在リテハ乙號表ニ依ル

第八條ノ二　專攻科ノ生徒ニ課スヘキ學科目、學科課程及其ノ每週教授時數ハ丙號表ニ依ル

第四章　成績考査及卒業證書

第九條　石川縣師範學校ニ於テ生徒各學年ノ課程ヲ終了又ハ全學年ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

石川縣女子師範學校ニ於テ生徒各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ學校長ニ於テ必要アリト認メタル學科目ニ就キテハ其ノ全部又ハ一部ノ試驗ヲ行フコトヲ得

第十條　成績考査ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第十一條　本科又ハ專攻科ノ卒業者ニ授與スヘキ卒業證書ハ（第一號書式）ニ依ル

第五章　入學、退學及休業

第十二條　入學セシムヘキ生徒ノ種類員數等ハ其ノ都度知事之ヲ告示ス

第十三條　入學志願者ハ師範學校規程第四十八條所定ノ外在學中及服務年限中家事ニ係累ナク且教職ニ從事セムトスル志操確實ナル者タルコトヲ要ス

女子ニ在リテハ前項ノ外配偶者ナキ者タルコトヲ要ス

第十四條　入學志願者ハ入學願書（第二號書式）ニ履歷書（第三號書式）及戸籍謄本ヲ添ヘ學校長ニ願出ツヘシ

第十五條　入學志願者ノ檢定ハ生徒入學ノ際試驗ニ依リ學校長之ヲ行フ

試驗ノ學科目及其ノ程度ハ本科第一部ニ在リテハ修業年限二年ノ高等小學校ノ教科目及其ノ卒業ノ程度、本科第二部ニ在リテハ中學校若ハ修業年限四年ノ高等女學校ノ學科目及其ノ卒業ノ程度ニ依リ知事ニ於テ其ノ都度之ヲ定ム

第十六條　本科第二部ノ入學志願者ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル者ハ男子ニ就キテハ之ヲ中學校卒業者、女子ニ就キテハ之ヲ修業年限四年ノ高等女學校卒業者ト看做ス

一、專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

二、專門學校入學者檢定規程ニ依リ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得ル者

三、修業年限五年ノ高等女學校第四學年ノ課程ヲ修了シタル者

第十七條　入學者ノ許否ハ學校長之ヲ決ス

第十八條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ二名ノ保證人ヲ定メ誓約書（第四號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ男子ニシテ本縣內ニ居住シ直接國稅五圓以上ヲ納メ生徒ノ身上ニ關スル一切ノ事件ヲ引受ケ得ル者タルヘシ

第十九條　保證人中學校所在地ニ居住スル者ナキトキハ學校所在地ニ於テ一名ノ代理保證人ヲ定メ保證人代理保證人及生徒連署ノ上學校長ニ届出ツヘシ

第二十條　保證人死亡シ若ハ第十八條第二項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ誓約書ヲ差出スヘシ

代理保證人變更ノ必要ヲ生シタルトキハ更ニ代理保證人ヲ定メ學校長ニ届出ツヘシ

保證人及代理保證人氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ轉シタルトキハ其ノ都度之ヲ學校長ニ届出ツヘシ

第二十一條　學校長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ保證人又ハ代理保證人ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十二條　學校長ハ疾病等ノ爲三月以上修學スルコト能ハスト認メタル生徒ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ命スルコトヲ得

第六章　學資及授業費

第二十三條　公費生徒ニハ每月左記月額ノ學資ヲ支給ス但シ八月ニ限リ之ヲ支給セズ

本科生徒	參圓
專攻科生徒	五圓
自宅ヨリ通學スル生徒ニハ其ノ期間第一項ノ月額ノ十分ノ二ヲ減ズ	

第二十四條　八月中學校ノ都合ニ依リ特ニ在校ヲ命シタルトキハ前條第一項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ在校日數ニ應シ日割ヲ以テ學資ヲ支給ス

第二十五條　休學者ニハ學資ヲ支給セス但シ休學ノ當月ハ其ノ命令ノ當日迄日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第二十六條　在學者死亡シ退學又ハ放校ニ處セラレタルトキハ其ノ當日マテ日割ヲ以テ學資ヲ支給ス

第二十七條　修學上必要ノ器具ニシテ學校ニ備付ケタルモノハ生徒ニ貸付ス

故意又ハ過失ニ因リ貸付品ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ之ヲ辯償セシム

第二十八條　師範學校規程第六十條第二項及第六十八條ノ授業費ハ生徒一人ニ付年額五十圓トス

第二十九條　學資支給及器具貸付ニ關スル細則ハ知事ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

第七章　寄宿舍及生徒取締

第三十條　生徒ハ之ヲ寄宿舍ニ收容ス但シ學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ知事ノ指揮ヲ受ケ期間ヲ定メ通學ヲ命スルコトヲ得

第三十一條　學校ノ休業中ハ學校長ニ於テ歸鄉ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　生徒服裝規程ハ知事ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

第三十三條　寄宿舍及生徒取締ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第八章　懲戒、學資償還及卒業後ノ服務

第三十四條　學校長ニ於テ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ左ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭

二、謹慎

三、放校

第三十五條　卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間本縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但シ師範學校規程第六十二條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事スルコトヲ得

一、第一部公費生タル卒業者ニアリテハ三年私費生タル卒業者ニアリテハ二年半

二、第二部公費生タル卒業者ニアリテハ一年半私費生タル卒業者ニアリテハ一年

三、專攻科卒業者ニシテ本科ノ服務義務ヲ有スル者ノ服務義務年限ハ本科ノ服務義務年限ヲ了リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第三十六條　師範學校規程第六十七條第一號乃至第三號ノ一ニ該當スル者ニハ授業費及在學中支給シタル學資ノ全部ヲ償還セシム但シ情狀ニ

依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

第三十七條　師範學校規程第六十四條及第六十五條ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由及服務ノ經歷ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

第三十八條　師範學校規程第六十六條ニ該當スル者ニハ義務ヲ猶豫シ又ハ免除スルコトアルヘシ

前項ニ依リ猶豫又ハ免除ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由、猶豫又ハ免除ノ期間及服務ノ經歷ヲ具シ知事ニ願出ツヘシ

第三十九條　前條ニ依リ義務ヲ免除セラレタル者ニ對シテハ其ノ義務ヲ盡ササル期間ノ義務年限ニ對スル率ニ依リ授業費及在學中支給シタル學資ヲ償還セシムルコトアルヘシ

師範學校規程第六十二條ノ義務ヲ了リタル者ニ對シテハ前項償還金十分ノ一ヲ減ス

第四十條　學資及授業費ヲ償還スヘキ者之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ在學中ノ保證人ニ於テ代納スヘシ

第九章　附屬小學校及附屬幼稚園

第四十一條　石川縣女子師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置ク

幼稚園ニ入園スルコトヲ得ル者ハ滿四歲ヨリ尋常小學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼兒トス

第四十二條　附屬小學校ノ學年、學期及休業日ハ第二章ノ規定ニ依リ幼稚園ノ休業日ハ附屬小學校ノ例ニ依ル

毎日ノ教授及保育終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ム

第四十三條　附屬小學校兒童ノ定員ハ石川縣師範學校ニ在リテハ凡六百人トシ石川縣女子師範學校ニ在リテハ凡四百五十人トシ幼稚園幼兒ノ定員ハ凡六十人トス

學級編制ハ知事ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ム

第四十三條ノ二　附屬小學校各學年ノ教科目、教授ノ程度及毎週教授時數ハ丁號表ニ依ル

幼稚園ノ保育課程ハ戊號表ニ依ル

第四十三條ノ三　保姆ニ依リ保育シ難シト認メタル幼兒ハ學校長ニ於テ之ニ退園ヲ命スルコトヲ得

第四十三條ノ四　保育期間ハ二年トス

二年ノ保育期間中第一年ヲ乙期、第二年ヲ甲期トス

一年ノ保育期間ヲ左ノ三期ニ分ツ

第一期　自四月一日至七月三十一日

第二期　自八月一日至十二月三十一日

第三期　自一月一日至三月三十一日

保育日數ハ一年約二百五十日トス

第四十四條　附屬小學校兒童ノ授業料ハ當分ノ内尋常科ニアリテハ一人ニ付一箇月參拾錢、高等科ニアリテハ一人ニ付一箇月六拾錢ヲ徵收ス

保育料ハ一人ニ付一箇月壹圓トス

第四十五條　兒童及幼兒ノ出席停止又ハ附屬小學校及幼稚園ノ休業半月ニ及フトキハ當月ノ授業料又ハ保育料ハ其ノ半額ヲ徵收シ全月ニ及フトキハ之ヲ徵收セス

第四十六條　一家ノ兒童同時ニ二人以上在學スルトキハ上級學年ノ一人ハ全額ヲ徵收シ其ノ他ハ半額ヲ徵收ス

小學校令施行規則第百八十條ノ二第一項ニ規定セル事項ニ該當スル者ニ對シテハ授業料ヲ免除ス

前二項ノ規定ハ保育料ニ之ヲ準用ス

第四十七條　小學校令施行規則第百八十條ノ二第二項ニ規定セル事項ニ該當スル者ニ對シテハ授業料又ハ保育料ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

前項ニ該當スルモノアリタルトキハ學校長ニ於テ事實ヲ調査シ之ヲ決スヘシ

第四十八條　授業料及保育料ハ毎月之ヲ徵收ス

徵收期日、徵收方法ハ學校長之ヲ定ム

第四十九條　學校長ハ毎年四月ニ於テ入學又ハ入園セシムヘキ兒童及幼兒ノ員數等ヲ定メ豫メ公告スヘシ但シ缺員アルトキハ臨時ニ入學又ハ入園セシムルコトヲ得

第五十條　兒童ノ入學、退學及幼兒ノ入園、退園及始業終業ノ時刻等ニ關スル規定ハ學校長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スル學科目及其ノ毎週教授時數等ニ就キテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ學校長ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

本令施行前卒業シタル者ノ服務義務及學資償還等ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

○昭和六年縣令第二十八號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目、學科課程及其ノ毎週教授時數ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニハ第二十三條ノ學資支給月額竝ニ第三十五條ノ服務義務ヲ左表ノ如ク定ム

入學年度		學資支給月額						服務義務			
		本科第一部			本科第二部			本科第一部		本科第二部	
		男	女		男	女		男	女	男	女
昭和二、三、四年度入學者		九円	七円		一	一		四年	四	四	一
昭和五年度入學者	七	六	六		一	一		四	四	一	一年半

○昭和七年縣令第四號附則

本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ對スル第二十三條ノ學資支給ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

○昭和八年縣令第六十九號附則

本令ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ハ全部公費生トシ其ノ學資支給月額竝ニ第三十五條ノ服務義務ヲ左表ノ如ク定ム

入學年度		學資支給月額		服務義務	
		第一部科	第二部科	第一部科	第二部科
		男	女	男	女
昭和四年入學		七円	六円	四年	一年
昭和五年入學		五	五	三	一
昭和六年入學		四	四	三	一年半

表及書式（省略）

○石川縣立中學校規則

（大正九年二月六日石川縣令第九號）

（改正）大正一〇年石川縣令第九號、一三年同第一六號、一五年同第五〇號、昭和三年同第二號、同第三四號、五年同第三號、六年同第二七號、九年同第六四號

第一章　生徒定員、學年學期及休業日

第一條　本縣立中學校ノ生徒定員ハ左ノ如シ

石川縣立金澤第一中學校	千　名
石川縣立金澤第二中學校	七百五十名
石川縣立金澤第三中學校	七百五十名
石川縣立七尾中學校	七百五十名
石川縣立小松中學校	七百五十名
石川縣立大聖寺中學校	五百名
石川縣立羽咋中學校	五百名
石川縣立輪島中學校	五百名
石川縣立飯田中學校	二百五十名

第二條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條ノ二　一學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第三條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

祝日及大祭日　日曜日　學校創立記念日

夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第四條　學年ノ終始ニ於テハ成績調査、入學準備等ノ爲十四日以內教授ヲ缺クコトヲ得

第五條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲナスコトヲ得

第二章　學科課程、教授時數、課程ノ選修、成績考査及卒業

第六條　學科課程及每週教授時數ハ甲號表又ハ乙號表ニ依リ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

學校長ハ每年四月十日現在ニヨリ第一種及第二種課程選修者ノ數ヲ調査シ知事ニ開申スヘシ

第七條　中學校令施行規則第四十四條ノ成績考査ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第八條　中學校令施行規則第四十六條ニ依リ授與スヘキ卒業證書ハ第一號書式ニ依ル

第三章　入學、退學及休學

第九條　入學ヲ志願シ得ヘキ者ハ本縣ニ本籍ヲ有シ若ハ寄留スル者ニ限ル

第十條　入學志願者ハ入學願書（第二號書式）ニ入學手數料ヲ添ヘ其ノ最終在學小學校長又ハ師範學校長ヲ經テ志望中學校長ニ提出スヘシ

前項ノ小學校長又ハ師範學校長ハ入學志願者ニ關スル調査書（第四號書式）及最終二學年ノ身體檢査票（大正九年七月文部省令第十六號ノ

樣式）ヲ作製シ入學願書及入學手數料ト共ニ之ヲ中學校長ニ提出スヘシ

第十一條　（削除）

第十二條　入學セシムヘキ員數及場所其ノ他ノ要項ハ豫メ公告ス

第十三條　中學校令施行規則第三十九條ニ依ル檢定ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第十四條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ヲ定メ誓約書（第三號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ

保證人ハ本縣內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者タルヘシ

保證人中一人ハ學校所在地ニ居住スル者ニ限ル

學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十五條　生徒疾病ニ罹リ三ケ月以上修學スルコト能ハスト思慮スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ休學ヲ出願スルコトヲ得

學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第十六條　生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

第四章　褒賞及懲戒

第十七條　生徒中學業操行優秀ナル者又ハ其ノ進歩顯著ナル者ハ學校長之ヲ褒賞スルコトヲ得

第十八條　（削除）

第十九條　學校長ハ左ノ區別ニ從ヒ生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭

二、停學

第五章　授業料及入學料

第二十條　授業料ハ生徒一人ニ付一箇月金四圓トス

第二十一條　入學志願者ハ其ノ出願ト共ニ入學手數料トシテ金參圓ヲ納ムヘシ但シ他ノ本縣立中學校ヨリ轉學スル者又ハ再入學ノ者ハ此ノ限リニ在ラス

第二十二條　一旦納入シタル授業料又ハ入學手數料ハ之ヲ返還セス

第二十三條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第六章　寄宿舍

第二十四條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル生徒ハ總テ寄宿舍ニ入ラシムル但シ當分人員ヲ限リテ收容スルコトヲ得

第七章　補則

第二十五條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第九條乃至第十三條ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科課程並每週教授時數ニ關シテハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

明治三十四年三月石川縣令第二十九號石川縣中學校規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

表及書式（省略）

○公立中學校及高等女學校授業料入學料ニ關スル規則

（明治三十三年七月二十一日　石川縣令第八十七號）

（改正）明治三四年石川縣令第六〇號、三七年同第一四號、同第五三號、三八年同第四五號、四〇年同第一四號、四三年同第三六號、四四年同第一四號、大正二年同第一二號、三年同第五七號、七年同第一八號、八年同第一〇號、九年同第一〇號、一〇年同第一〇號、一三年同第一五號、昭和三年同第三五號、五年同第二二號

第一條　授業料ハ生徒一人ニ付一箇月金七拾錢以上四圓以下トス

第二條　授業料ハ生徒出席ノ有無又ハ授業日數ノ多少ニ關セス每月所定ノ日ニ其ノ月ノ全額ヲ納ムヘシ

入退學者ノ授業料ハ在籍ノ日數ニ拘ハラス其ノ月ノ全額ヲ徵收スヘシ

第三條　學校ノ休業全月ニ及フトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セス休學又ハ停學全月ニ及フ者ハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收セス但休學停學ノ月及其解除ノ月ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二　（削除）

第三條ノ三　戰時事變ニ際シ出征又ハ應召ノ軍人又ハ公務ニ依リ從軍シタル軍屬等ノ同籍內ニ在ル子女弟妹ニ對シテハ出願ニ依リ時局ノ終結ニ至ルマテ授業料ヲ免除ス

軍人軍屬等ノ戰地ニ於ケル勤務ニ起因シテ死去シタル者ノ同籍內ニ在ル子女弟妹及軍人軍屬ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癒疾トナリ增加恩給ヲ受クル者ノ同籍內ニ在ル子女弟妹ニ對シテハ出願ニ依リ授業料ヲ減免スルコトアルヘシ

前二項ニ依リ授業料減免ノ出願アリタルトキハ當該學校長ニ於テ詳細事實ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ知事ニ進達スヘシ

第三條ノ四　明治三十七八年戰役ニ關シ前條第一項ニ依リ授業料免除ノ者ニ對シテハ明治三十九年三月マテ引續キ授業料ヲ免除ス

第四條　入學料ハ金貳拾錢以上參圓以下トス

第五條　授業料入學料ノ定額及其ノ徵收期日竝ニ徵收ニ關スル手續ハ當該學校ノ學則ニ於テ之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本令ノ規定ニ該當スル者ニシテ本令發布前已ニ授業料ノ免除ヲ受ケタル者ハ出願ヲ要セス本令ニ依リ免除セラレタルモノト看做ス

○石川縣立高等女學校規則

（大正十年二月二十六日　石川縣令第二十二號）

（改正）大正一二年石川縣令第九號、一三年同第一七號、一五年同第一九號、同第五一號、昭和三年同第三號、五年同第四號、同第二六號、七年同第六號、八年同第七〇號

第一章　修業年限及生徒定員

第一條　本縣立高等女學校ノ修業年限ヲ定ムルコト左ノ如シ

石川縣立金澤第一高等女學校　五年

石川縣立金澤第二高等女學校　五年
石川縣立大聖寺高等女學校　四年
石川縣立小松高等女學校　四年
石川縣立松任高等女學校　四年
石川縣立七尾高等女學校　四年
石川縣立飯田高等女學校　四年
石川縣立羽咋高等女學校　四年
石川縣立輪島高等女學校　四年
石川縣立津幡高等女學校　四年

第一條ノ二　本縣立高等女學校ノ生徒定員左ノ如シ

石川縣立金澤第一高等女學校　七百五十名
石川縣立金澤第二高等女學校　七百五十名
石川縣立大聖寺高等女學校　二百名
石川縣立小松高等女學校　四百名
石川縣立松任高等女學校　四百名
石川縣立七尾高等女學校　四百名
石川縣立飯田高等女學校　二百名
石川縣立羽咋高等女學校　四百名
石川縣立輪島高等女學校　二百名
石川縣立津幡高等女學校　二百名

第二章　學年、學期及休業日

第二條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條　一學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第四條　休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝日及大祭日
二、皇后陛下御誕辰
三、日曜日
四、學校創立記念日
五、夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
六、冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第五條　學年ノ始終ニ於テハ成績考査入學準備等ノ爲十四日以内教授ヲ缺クコトヲ得

第六條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第三章　學科目、學科課程、教授時數

第七條　學科目、學科課程及每週教授時數ハ第一號表及第二號表第三號表ニ依ル

第八條　學科目中外國語ハ隨意科目トス

第四章　（削除）

第九條及第十條　（削除）

第五章　成績考査及卒業

第十一條　各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

成績考査ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第十二條　高等女學校令施行規則第五十條ニ依リ授與スヘキ卒業證書ハ第一號書式ニ依ル

第六章　入學、退學及休學

第十三條　入學ヲ志願シ得ヘキ者ハ本縣ニ本籍ヲ有シ若ハ寄留スル者ニ限ル

第十四條　入學志願者ハ入學願書（第二號書式）ニ入學手數料ヲ添ヘ其ノ最終在學小學校長又ハ師範學校長ヲ經テ志望高等女學校長ニ提出スヘシ

前項ノ小學校長又ハ師範學校長ハ入學志願者ニ關スル調査書（第四號書式）及最終二學年ノ身體檢査票（大正九年七月文部省令第十六號ノ樣式）ヲ製成シ入學願書及入學手數料ト共ニ之ヲ高等女學校長ニ提出スヘシ

第十五條　入學セシムヘキ員數其ノ他ノ要項ハ豫メ公告ス

第十六條　（削除）

第十七條　高等女學校令施行規則第四十一條、第四十二條及第四十三條ニ依ル檢定ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第十八條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人ヲ定メ誓約書（第三號書式）ニ戸籍謄本ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

保證人ハ本縣内ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者タルヘシ

保證人學校所在地ニ居住セサルトキハ學校所在地ニ於テ代理保證人ヲ定メ保證人、代理保證人及生徒連署ノ上學校長ニ届出ツヘシ

保證人又ハ代理保證人其ノ住所族籍氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度學校長ニ届出ツヘシ

學校長ニ於テ保證人又ハ代理保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十九條　生徒疾病ニ罹リ三ケ月以上修學スルコト能ハスト思慮スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ休學ヲ出願スルコトヲ得

學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第二十條　生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

第七章　褒賞及懲戒

第二十一條　生徒中學業操行優等ナル者ハ學校長之ヲ褒賞スルコトヲ得

第二十二條　學校長ハ左ノ區別ニ從ヒ生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭
二、謹慎
三、停學

第八章　授業料及入學料

第二十三條　授業料ハ生徒一人ニ付一箇月金四圓トス

第二十四條　入學志願者ハ其ノ出願ト共ニ入學手數料トシテ金參圓ヲ納ムヘシ但シ本縣立高等女學校間ニ於テ轉學スル者又ハ再入學ノ者ハ此ノ限ニアラス

第二十五條　一旦納入シタル授業料又ハ入學手數料ハ之ヲ返還セス

第二十六條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第九章　寄宿舍

第二十七條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル生徒ハ總テ寄宿舍ニ入ラシム但シ當分人員ヲ限リテ收容スルコトヲ得

第十章　補　則

第二十八條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

附　則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科課程每週教授時數ニ關シテハ當分ノ內仍從前ノ例ニ依リ又ハ之ヲ斟酌スルコトヲ得

表及書式（省略）

○石川縣立工業學校規則

（大正十一年二月二十七日）
（石川縣令第八號）

（改正）大正二三年石川縣令第二〇號、昭和三年同第三六號、（六年同第三四號、同第六五號、八年同第七一號、一〇年同第五九號

第一章　總　則

第一條　本校ハ實業學校令及工業學校規程ニ依リ工業ニ從事セムトスル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本校ノ學科ヲ分チテ金工科、機織科、色染科、窯業科、漆工科、圖案繪畫科及木工科トス但シ金工科ハ當分之ヲ缺ク

窯業科ハ之ヲ製陶、陶畫ノ二部ニ漆工科ハ之ヲ擂金、髹漆ノ二部ニ分チ生徒ヲシテ各其ノ一ヲ選ヒテ之ヲ專修セシム

第三條　（削除）

第四條　各學科ノ修業年限ハ五年トス

第五條　本校ニ各學科ノ實習ヲ限リ選修セシムル爲選科生ヲ置ク

選科生ノ修業期間ハ二年以內トス

第六條　工業學校ヲ卒業シ特ニ工業ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ研究生トシテ在學セシムルコトアルヘシ

研究生ノ修業期間ハ一年以內トス

第七條　本科ノ生徒定員ハ四百二十名トス但シ選科生及研究生ハ定員外トス

第二章　學年、學期、休業日及式日

第八條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條　一學年中ノ學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條　一學年中休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝日及大祭日

二、日曜日

三、本校記念日（十月三十日）

四、夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間

五、冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル十四日間

第十一條　學年ノ終始ニ於テハ通シテ十四日以內教授ヲ缺クコトヲ得

第十二條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其他非常變災アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十三條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　學科課程、教授時數、成績考査及卒業

第十四條　各學科ノ學科目、學科課程及其ノ每週教授時數ハ第一號表乃至第六號表ニ依ル但シ學校長ニ於テ一學年ニツキ二月以內實習ノミヲ課シ又ハ必要ニ應シ休業期間ニ於テ實習ヲ課スルコトヲ得

第十五條　選科生ノ實習要項及研究生ノ指導要項ハ學校長之ヲ定ム

第十六條　各學年ノ課程修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

成績考査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十七條　各學科所定ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書（第一號書式）ヲ授與ス

選科生及研究生ニハ其ノ學業ノ成績ニ依リ選修證書（第二號書式）又ハ研究證書（第三號書式）ヲ授與ス

第四章　入學、退學、休學

第十八條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以內トス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

入學セシムヘキ員數其ノ他ノ要項ハ豫メ之ヲ公告ス

第十九條　第一學年ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一、尋常小學校ヲ卒業シタル者

二、年齡十二年以上ニシテ本校ノ入學檢定ニ合格シタル者

第二十條　前條ノ入學檢定ハ國語、算術、日本歷史、地理、理科、圖畫ノ各學科目ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ之ヲ施行ス

第二十一條　（削除）

第二十二條　第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ且前各學年修了程度ニ依ル檢定ニ合格シタルモノニ限ル

前項ノ入學許可ハ生徒ニ缺員アル場合ニ限ル

第二十三條　選科生トシテ入學ヲ許可スヘキ者ハ年齡十二年以上ニシテ其ノ學習セムトスル學科ニ關係アル業務ニ從事シタル者又ハ從事セムトスル者ニ限ル

第二十四條　選科生及研究生ノ志望者豫定ノ人員ニ超過シタルトキハ學校長ニ於テ其ノ學力及經歷ヲ査覈シ適當ト認ムル者ヨリ順次是ヲ許可スヘシ

第二十五條　本校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ二年以內ニ於テ再入學ヲ出願シタルトキハ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條　他ノ工業學校生徒ニシテ本校ニ轉學ヲ志願スル者又ハ他ノ工業學校卒業者ニシテ本校ニ入學ヲ志願スル者アルトキハ當該學校長ノ品行及學力ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ學校長ニ於テ檢定ヲ行ヒ又ハ檢定ヲ行ハスシテ相當ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條　入學志願者ハ入學願書（第四號書式）ニ入學手數料ヲ添ヘ最終在學小學校長又ハ師範學校長ヲ經テ工業學校長ニ差出スヘシ

前項小學校長又ハ師範學校長ハ入學志願者ニ關スル調査書（第五號書式）及最終二學年ノ身體檢査票（大正九年七月文部省令第十六號書式）

ヲ作製シ入學願書入學手數料ト共ニ之ヲ工業學校長ニ差出スヘシ
選科生及研究生入學志願者ハ入學願書（第四號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ

第二十八條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ七日以内ニ二名ノ保證人ヲ定メ誓約書（第六號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ
保證人ハ本縣ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者タルヘシ
保證人中一人ハ學校所在地ニ居住スル者ニ限ル
保證人其ノ住所、族稱、氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度學校長ニ屆出ツヘシ
學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十九條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ
一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ
二、學力、實習劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタルモノ
三、他人ノ嫌忌スヘキ疾病ニ罹リ容易ニ快復ノ見込ナシト認メタルモノ
四、正當ノ理由ナクシテ引續一箇月以上缺席シタルモノ
五、出席常ナラサルモノ

第三十條　生徒退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

第三十一條　生徒兵役ニ服スルトキ及疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハスト思慮スルトキハ休學ヲ出願スルコトヲ得但シ疾病ニ因ル者ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス
學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第五章　褒賞懲戒及生徒心得

第三十二條　生徒中學業操行優秀ナル者又ハ其ノ進歩顯著ナル者ハ學校長之ヲ褒賞スルコトヲ得

第三十三條　學校長ハ必要ト認メタル場合ニ於テ左ノ區別ニ從ヒ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
一、戒飭
二、謹慎
三、停學

第六章　入學手數料及授業料

第三十四條　生徒心得ニ關スル事項ハ學校長之ヲ定ム

第三十五條　入學志願者ハ其ノ出願ト共ニ入學手數料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ但シ再入學ノ者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　授業料ハ生徒一人ニ付一箇月金參圓五拾錢トス但シ研究生ハ一人ニ付一月金壹圓トス
授業料ノ徴收期日及徴收ニ關スル手續ハ學校長之ヲ定ム

第三十七條　一旦納入シタル授業料又ハ入學手數料ハ之ヲ返還セス

第三十八條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第三十九條　前各條ノ外授業料ニ關シテハ明治三十三年石川縣令第八十七號ノ規定ヲ準用ス

第七章　講習科

第四十條　本校ハ工業ニ關スル事項ヲ授クル爲講習科ヲ開設ス
講習ニ關スル要項ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第四十一條　講習生ハ尋常小學校ヲ卒業シ若ハ學齢ヲ經過シタル男子ニ限ル

第四十二條　講習科ノ教授ハ夜間ニ於テ之ヲ行フ但シ必要アルトキハ晝間ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第四十三條　學校長ハ講習生ニ對シ其ノ成績ニ依リ修了證書ヲ授與スルコトヲ得

第四十四條　講習生ニ對シテハ入學料及授業料ハ當分之ヲ徴收セス

第四十五條　講習科ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第八章　寄宿舍

第四十六條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル生徒ハ凡テ之ヲ寄宿舍ニ入ラシム但シ當分人員ヲ限リテ收容スルコトヲ得

第四十七條　寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第九章　工業教育諮問員

第四十八條　工業教育上重要ノ事項ヲ諮問スル爲本校ニ工業教育諮問員若干名ヲ置ク

第四十九條　工業教育諮問員ハ縣内實業家ニ就キ知事之ヲ委囑ス

第五十條　工業教育諮問員ノ任期ハ二年トス但シ知事ニ於テ隨時其ノ委囑ヲ解クコトアルヘシ

第五十一條　工業教育諮問ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ修業年限ハ仍從前ノ規程ニ依ル

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スル學科目、學科課程並教授時數ニ關シテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル但シ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得
本令施行ノ際從前ノ規程ニ依ル工藝諮問員ハ本令ニ依ル工業教育諮問員ト看做シ其ノ任期ハ工藝諮問員ノ職ニ就キタル日ヨリ之ヲ計算ス
書式及表（省略）

○石川縣立農業學校規則

（大正十五年三月十三日　石川縣令第十號）

（改正）　昭和三年石川縣令第三七號、六年同第三五號、八年同第七二號、九年同第六五號、一〇年同第五一號、同第五八號、同第六號、一一年同第六一號

第一章　總　則

第一條　石川縣立農業學校ハ實業學校令及農業學校規程ニ依リ農業林業實業ニ從事セムトスル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ目的トス

第二條　石川縣立松任農學校ノ學科ヲ分テ農科農林科及專修科トス
農科ヲ分テ農科第一種及農科第二種トス
石川縣立津幡農學校ノ學科ヲ農科及專修科トス

第三條　石川縣立農業學校各學科ノ修業年限左ノ如シ

石川縣立松任農學校		
農科	第一種	五年
農科	第二種	三年
農林科		三年

専修科　一年

石川縣立津幡農學校

農科　三年

専修科　一年

第四條　石川縣立農業學校ニ於テハ主トシテ農業林業畜産業ニ關スル事項ヲ授クル爲講習ヲ開設スルコトアルヘシ

講習開設ノ要項ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第五條　農業學校ヲ卒業シ特ニ農業林業畜産ニ關スル事項ヲ研究若ハ補習セムトスル者アルトキハ研究生トシテ在學セシムルコトアルヘシ

研究生ノ修業期間ハ一年以内トス

研究生ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　石川縣立農業學校ノ生徒定員左ノ如シ

石川縣立松任農學校

農科農林科　五百五十名

専修科　四十名

石川縣立津幡農學校

農科　百五十名

専修科　二十名

第二章　學年、學期、休業日及式日

第七條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　一學年中ノ學期ヲ左ノ如ク定ム

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第九條　一學年中ノ休業日ヲ左ノ如ク定ム但シ夏季休業中ハ生徒ヲ數組ニ分チ交互ニ實習ヲ課ス

一、祝日及大祭日

二、日曜日

三、學校創立記念日

四、夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間

五、冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル十四日間

第十條　學年ノ終始ニ於テハ通シテ十四日以内教授ヲ缺クコトヲ得

第十一條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十二條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　學科課程、教授時數、成績考査及卒業

第十三條　石川縣立實業學校各學科ノ學科目、學科課程及其ノ毎週教授時數ハ第一號表乃至第五號表ニ依ル

第十四條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

成績考査ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十五條　各學科所定ノ課程ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書（第一號書式）ヲ授與ス

第四章　入學、退學及休學

第十六條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始メヨリ三十日以内トス

但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

入學セシムヘキ生徒ノ員數其ノ他ノ要項ハ豫メ之ヲ公告ス

第十七條　石川縣立松任農學校農科第一種第一學年ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一、尋常小學校ヲ卒業シタル者

二、年齢十二年以上ニシテ學力檢定ニ合格シタル者

前項第二號ノ學力檢定ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ノ各學科目ニ就キ尋常小學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ

第十八條　石川縣立松任農學校農科第二種並同校農林科又ハ石川縣立津幡農學校農科ノ第一學年ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一、修業年限二年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者

二、修業年限三年ノ高等小學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者

三、中學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者

四、尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル農業學校第二學年ノ課程ヲ修了シタル者

五、年齢十四年以上ニシテ學力檢定ニ合格シタル者

前項第五號ノ學力檢定ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ノ各學科目ニ就キ修業年限二年ノ高等小學校卒業程度ニ依リ之ヲ行フ

第十九條　石川縣立松任農學校專修科並ニ石川縣立津幡農學校專修科ニ入學ヲ許可スベキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル但シ石川縣立松任農學校ニアリテハ年齢十六年以上石川縣立津幡農學校ニアリテハ年齢十七年以上トス

一、青年學校本科第二年修了以上ノ學力ヲ有スル者

二、學力檢定ニ合格シタル者

前項第二號ノ學力檢定ハ公民科、國語、算術、農業ノ各學科目ニ就キ青年學校本科第二年修了程度ニ依リ之ヲ行フ

第二十條　第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ且ツ前各學年ノ學科課程修了程度ニ依ル檢定ニ合格シタル者ニ限ル

前項ノ入學許可ハ生徒ニ缺員アル場合ニ限ル

第二十一條　生徒ニシテ退學シタル者其ノ退學シタル時ヨリ二年以内ニ於テ再入學ヲ出願シタルトキハ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十二條　他ノ農業學校生徒ニシテ石川縣立農業學校ニ轉學ヲ志願スル者又ハ他ノ農業學校卒業者ニシテ石川縣立農業學校ニ入學ヲ志願スル者アルトキハ當該學校長ノ品行及學力ノ證明書ヲ有スル者ニ限リ學校長ニ於テ檢定ヲ行ヒ又ハ檢定ヲ行ハスシテ相當學年ニ轉學又ハ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

石川縣立農業學校生徒ニシテ他ノ石川縣立農業學校ニ轉學又ハ入學ヲ志願スル場合亦前項ニ同シ

第二十三條　入學志願者ハ入學願書（第二號樣式）ニ入學手數料（專修科入學志願者ハ要セズ）ヲ添ヘ最終在學學校長ヲ經テ農業學校長ニ差出スベシ

石川縣立松任農學校專修科入學志願者ハ現住市町村長ノ石川縣立津幡農學校專修科入學志願者ハ現住市町村産業組合長又ハ産業組合郡市研究會長ノ推薦書（第五號書式）ヲ添附スベシ

第一項ノ學校長ハ入學志願者ニ關スル調査書（第三號書式）及最終二學年ノ身體檢査表（大正九年七月文部省令第十六號ノ書式）ヲ作製シ前各項ノ書類ト共ニ之ヲ農業學校長ニ差出スベシ

第二十四條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ七日以内ニ二名ノ保證人ヲ定メ誓約書（第四號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ

保證人ハ石川縣内ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者タルヘシ

保證人中一人ハ學校ヨリ一里以内ノ地ニ居住スル者タルヘシ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ學校長ニ届出ツヘシ

學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十五條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ニ退學ヲ命スヘシ

一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナキモノ

二、學力又ハ實習劣等ニシテ成業ノ見込ナキモノ

三、他人ノ據忘スヘキ疾病ニ罹リ容易ニ恢復セサルモノ

四、正當ノ理由ナクシテ引續一月以上缺席シタルモノ

五、出席常ナラサルモノ

第二十六條　生徒ニシテ退學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

第二十七條　生徒ニシテ疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ノ爲ニ三月以上修學スル事能ハスト認定スルトキハ休學ヲ願出ツルコトヲ得

學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期限ヲ定メテ之ヲ許可スルコトヲ得

第五章　褒賞懲戒及生徒心得

第二十八條　學校長ハ生徒中學業操行ノ優秀ナル者又ハ其ノ進歩顯著ナル者ニ對シ褒賞スルコトヲ得

第二十九條　學校長ハ必要ト認メタル場合ニ於テ左ノ區別ニ從ヒ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭

二、謹慎

三、停學

第三十條　生徒心得ニ關スル事項ハ學校長之ヲ定ム

第六章　入學手數料及授業料

第三十一條　入學志願者ハ其ノ出願ト共ニ入學手數料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ但シ專修科入學志願者及本縣立農業學校ヨリ轉學スル者又ハ再入學ノ者ハ此限ニ在ラス

第三十二條　授業料左ノ如シ

石川縣立松任農學校

農科農林科　月金參圓

研究生　月金壹圓

石川縣立津幡農學校

農科　月金參圓

研究生　月金壹圓

授業料ノ徵收期日及徵收ニ關スル手續ハ學校長之ヲ定ム

第三十三條　一旦納入シタル授業料及入學手數料ハ之ヲ返還セス

第三十四條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第三十五條　明治三十三年石川縣令第八十七號ノ規程ハ授業料ニ關シ之ヲ準用ス

第七章　寄宿舍

第三十六條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル生徒ハ凡テ之ヲ寄宿舍ニ收容ス但シ當分人員ヲ限リ收容スルコトヲ得

第三十七條　寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第三十八條　前二條ノ規定ハ當分ノ内石川縣立津幡農學校ニ之ヲ適用セス

附則

第三十九條　本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十條　大正十二年石川縣令第八號石川縣立農學校規則ハ之ヲ廢止ス但シ同規則ニ依リ在學スル生徒ニ課スヘキ學科課程及其ノ修業年限ハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　生徒ニ課スヘキ學科課程ニ關シテハ學校長ニ於テ前條ノ規定ニ拘ラス便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

第四十二條　本令施行ノ際河北農蠶學校規則ニ依リ現ニ在學スル生徒ニ對シテハ其ノ學科及學科課程ハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍從前ノ規定ニ依ル但シ學科課程ハ學校長ニ於テ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

附表及書式（省略）

○石川縣立商業學校規則

（大正十一年三月二日）
（石川縣令第九號）

（改正）大正一三年石川縣令第一九號、同第六三號、一五年同第一一號、昭和三年同第三八號、六年同第三六號、九年同第七八號

第一章　總則

第一條　本縣立商業學校ハ實業學校令及商業學校規程ニ依リ商業ニ從事セムトスル者ニ須要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條　本縣立商業學校ノ修業年限ハ五年トス

第三條　本縣立商業學校ニ於テハ主トシテ商業ニ關スル事項ヲ授クル爲講習ヲ開設スルコトアルヘシ

講習ヲ開設ノ要項ハ其ノ都度之ヲ公告ス

第四條　本縣立商業學校ノ生徒定員左ノ如シ

石川縣立金澤商業學校　七百五十名

石川縣立小松商業學校　五百名

石川縣立七尾商業學校　五百名

第二章　學年、學期、休業日及式日

第五條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條　一學年中ノ學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條　一學年中休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

祝日及大祭日
日曜日
學校記念日
夏季休業　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間
冬季休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル十四日間

第八條　學年ノ終始ニ於テハ通シテ十四日以内教授ヲ缺クコトヲ得

第九條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ハ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章　學科目、學科課程、教授時數成績考査及卒業

第十一條　學科目、學科課程及每週教授時數ハ別表ニ依ル

第十二條　各學年ノ課程ノ終了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
成績考査ニ關スル方法ハ學校長之ヲ定ム

第十三條　學校長ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書（第一號書式）ヲ授與ス

第四章　入學、退學及休學

第十四條　生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ臨時入學ヲ許可スルコトアルヘシ
入學セシムヘキ員數其ノ他ノ要項ハ豫メ之ヲ公告ス

第十五條　第一學年ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル
一、尋常小學校ヲ卒業シタル者
二、年齡十二年以上ニシテ本校ノ入學檢定ニ合格シタル者

第十六條　前條ノ入學檢定ハ國語、算術、日本歷史、地理、理科及圖畫ノ各學科目ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ施行ス

第十七條　（削除）

第十八條　第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ相當年齡ニ達シ且前各學年修了程度ニ依ル檢定ニ合格シタル者ニ限ル
前項ノ入學許可ハ生徒ニ缺員アル場合ニ限ル

第十九條　生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ二年以内ニ於テ前ニ在學シタル學校ニ再入學ヲ出願シタルトキハ原學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十條　他ノ商業學校ヨリ轉學ヲ志願スル者又ハ他ノ商業學校卒業生ニシテ本縣立商業學校ニ入學ヲ志願スル者アルトキハ當該學校長ノ品行及學力ニ關スル證明書ヲ有スル者ニ限リ學校長ニ於テ檢定ヲ行ヒ又ハ檢定ヲ行ハスシテ相當學年ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十一條　入學志願者ハ入學願書（第二號書式）ニ入學手數料ヲ添ヘ最終在學小學校長又ハ師範學校長ヲ經テ商業學校長ニ差出スヘシ
前項ノ小學校長又ハ師範學校長ハ入學志願者ニ關スル調査書（第三號書式）及最終二學年ノ身體檢査票（大正九年七月文部省令第十六號書式）ヲ作製シ入學願書入學手數料ト共ニ之ヲ商業學校長ニ差出スヘシ

第二十二條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ七日以内ニ二名ノ保證人ヲ定メ誓約書（第四號書式）ヲ學校長ニ差出スヘシ

保證人ハ本縣内ニ居住シ獨立ノ生計ヲ立ツル者タルヘシ
保證人中一人ハ學校所在地ニ居住スル者ニ限ル保證人其ノ住所、族稱、氏名ヲ變更シタルトキハ其ノ都度學校長ニ屆出ツヘシ
學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第二十三條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ
一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三、他人ノ據忌スヘキ疾病ニ罹リ容易ニ恢復ノ見込ナシト認メタル者
四、正當ノ事由無クシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
五、出席常ナラサル者
六、一ケ年以上引續缺席シタル者

第二十四條　生徒ニシテ退學シ又ハ他ノ商業學校ヘ轉學セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上學校長ニ願出ツヘシ

第二十五條　生徒兵役ニ服スルトキ及疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハスト思慮スルトキハ休學ヲ出願スルコトヲ得但シ疾病ニ因ル者ニ在リテハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス
學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第五章　褒賞、懲戒及生徒心得

第二十六條　生徒中學業操行優秀ナル者又ハ其ノ進歩顯著ナル者ハ學校長之ヲ褒賞スルコトヲ得

第二十七條　學校長ハ必要ト認メタル場合ニ於テ左ノ區別ニ從ヒ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
一、戒飭
二、謹慎
三、停學

第二十八條　生徒心得ニ關スル事項ハ學校長之ヲ定ム

第六章　入學手數料及授業料

第二十九條　入學志願者ハ其ノ出願ト共ニ入學手數料トシテ金參圓ヲ納ムヘシ但シ他ノ本縣立商業學校ヨリ轉學スル者又ハ再入學ノ者ハ此ノ限ニアラス

第三十條　授業料ハ生徒一人ニ付一箇月金四圓トス
授業料徵收期日及徵收ニ關スル手續ハ學校長之ヲ定ム

第三十一條　一旦納入シタル授業料又ハ入學手數料ハ之ヲ返還セス

第三十二條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第三十三條　前各條ノ外授業料ニ關シテハ明治三十三年石川縣令第八十七號ノ規定ヲ準用ス

第七章　寄宿舍

第三十四條　自宅ヨリ通學スルコト能ハサル生徒ハ總テ之ヲ寄宿舍ニ入ラシム但當分人員ヲ限リテ收容スルコトヲ得

第三十五條　寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ修業年限ハ仍從前ノ規定ニ依ル
本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科課程並每週教授時數ニ關

シテハ其ノ卒業ニ至ル迄仍從前ノ規定ニ依ル但シ便宜本令ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

書式及別表（省略）

○石川縣立盲學校規則

（大正十三年四月十八日
石川縣令第二十九號）

（改正）昭和三年縣令第三九號、四年同第三〇號、一〇年同第五七號

第一章　總則

第一條　本校ハ盲學校及聾唖學校ノ規定ニ據リ之ヲ設置シ盲人ニ普通教育ヲ施シ其ノ生活ニ須要ナル特殊ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ涵養ニ力ムルモノトス

第二條　本校ニハ初等部及中等部ヲ置ク

中等部ハ之ヲ分テ普通科、鍼按科及音樂科トス

按摩專修志望ノ者ノ爲ニ別科ヲ置ク

第三條　本校ノ修業年限ハ初等部ニ在リテハ六年中等部ニ在リテハ四年トス

別科ノ修業年限ハ二年トス

第四條　本科ノ生徒定員ハ初等部中等部ヲ通シテ五十人トス

別科ノ員數ハ前項ノ定員外トシ像メ之ヲ定メス

第二章　學科目、學科課程及每週教授時數

第五條　初等部ノ學科目ハ修身、國語、算術、歷史、地理、理科、唱歌、手工及體操トシ女子ノ爲ニ裁縫ヲ加フ

第六條　中等部普通科ノ學科目ハ修身、國語、外國語、數學、歷史、地理、理科、音樂及體操トシ男子ノ爲ニ手工、女子ノ爲ニ家事及裁縫ヲ加フ

前項ノ外國語ハ英語トシ之ヲ隨意科目トス

第七條　中等部鍼按科ノ學科目ハ修身、國語、唱歌及體操竝鍼按ニ關スル學科目トシ女子ノ爲ニ家事及裁縫ヲ加フ

前項ノ鍼按ニ關スル學科目ハ解剖、生理、病理、衞生、消毒法、鍼治、灸治、按摩術及マツサージ術トス

第八條　中等部音樂科ノ學科目ハ修身、國語及體操竝音樂ニ關スル學科目トシテ女子ノ爲ニ家事及裁縫ヲ加フ

前項ノ音樂ニ關スル學科目ハ唱歌及樂器使用法トス

第九條　別科ノ學科目ハ修身、國語、算術、唱歌及體操竝按摩ニ關スル學科目トシ女子ノ爲ニ裁縫ヲ加フ

前項ノ按摩ニ關スル學科目ハ解剖、生理、病理、衞生、消毒法及按摩術トス

第十條　生徒身體ノ狀況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ學校長ニ於テ其ノ生徒ニ對シ之ヲ課セサルコトヲ得

第十一條　學科課程及每週教授時數ハ第一號表乃至第五號表ニ依ル

第十二條　學校長ニ於テ生徒ニシテ全學科目中一學科目又ハ數學科目ニ付、或學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シ當該學年ニ於テ其ノ學科目ヲ課セス若ハ心身發育ノ狀況ニ依リ當該學年ニ於テ學習シ能ハスト認メタル者ニ對シ在學期間中便宜ノ學年ニ於テ其ノ學科目ヲ履修セシムルコトヲ得

第十三條　學校長ハ生徒ノ志望ニ依リ初等部第五學年以上ヨリ之ニ中等部又ハ別科ニ於ケル技藝ニ關スル學科ヲ選修セシムルコトヲ得

第十四條　每日ノ教授時數及教授終始ノ時刻ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十五條　學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各二十日以內ニ於テ每日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各學科目ノ每週教授時數ヲ定ムルモノトス

第三章　教科用書及教授細目

第十六條　教科用書採定ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ學校長ニ於テ學年配當表ヲ添ヘ知事ニ稟申スヘシ

第十七條　學校長ハ各學科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第四章　學年及學期

第十八條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十九條　一學年中ノ學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五章　休業日及式日

第二十條　一學年中休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝日、大祭日及日曜日

二、春季休業日　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル七日間

三、皇后陛下御誕辰　六月二十五日

四、夏季休業日　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間

五、冬季休業日　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル十四日間

六、本校創立記念日

七、學年末休業日　三月二十五日ヨリ同月三十一日ニ至ル七日間

第二十一條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第六章　入學退學及休學

第二十三條　生徒ノ入學ハ學校長ニ於テ每年四月檢定ノ上之ヲ許可ス但シ臨時之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條　入學ヲ許可スヘキ者ノ資格ハ左ノ例ニ依ル但シ身體健康ナル者ニ限ル

一、初等部ニ在リテハ年齡滿六年以上十六年未滿ノ者

二、中等部及別科ニ在リテハ本校初等部ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ其ノ年齡滿十二年以上十六年未滿ノ者

特別ノ事情アルトキハ年齡滿十六年以上ノ者ニモ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十五條　入學セシムヘキ員數ハ像メ之ヲ公告ス

第二十六條　學校長ハ入學志願者ニシテ相當年齡ニ達シ特ニ素養アルモノ又ハ他ノ學校ヨリ轉學セムトスルモノニ對シテハ試驗ノ上之ヲ相當學年ニ編入スルコトアルヘシ

前項ノ試驗ニ關スル細目ハ學校長之ヲ定ム

第二十七條　入學志願者ノ親權者若ハ後見人ハ第一號書式ノ入學願書ニ入學志願者ノ戸籍謄本ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

第二十八條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ一週間以內ニ第二號書式ノ保證人屆ヲ學校長ニ差出スヘシ

第二十九條　保證人ハ年齡二十歲以上ニシテ學校所在地ニ居住シ獨立ノ家計ヲ立テ生徒在學ニ關スル一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ者ニ限ル

學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコトアルヘシ

第三十條　生徒其ノ親權者若ハ後見人ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ之レカ住所氏名ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ旨學校長ニ屆出スヘシ

保證人ニ住所氏名ノ變更ヲ生シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル

第三十一條　生徒ヲシテ退學セシメムトスルトキ又ハ他ノ學校ヘ轉學セシメムトスルトキハ親權者若ハ後見人ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第三十二條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一、性行不良ニシテ他ノ生徒ニ對シ教育上妨害アリト認メタル者

二、成業ノ見込無シト認メタル者

三、正當ノ事由無クシテ引續キ二箇月以上缺席シタル者

第三十三條　生徒疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ三箇月以上引續キ出席スルコト能ハスト認ムルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ親權者若ハ後見人ニ於テ休學ヲ出願スルコトヲ得

學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第七章　成績考査、學年修了及卒業

第三十四條　各學年ノ課程ノ修了及全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ調査ト試驗トニ依リ其ノ成績ヲ考査シ學年ノ終ニ於テ之ヲ定ム但シ學校長ニ於テ相當年齡ニ達シ相當ノ學力アリト認メタル者ハ學年ノ中途ニ於テ之ヲ進級セシムルコトアルヘシ

第三十五條　試驗ニ關スル學科目又ハ按摩ニ關スル學科目ヲ履修スヘキ生徒ニシテ當該學科目ニ付本校所定ノ授業時數中授業ヲ受ケサルコト三分ノ一以上ニ及ヒタル者ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ハラス修了又ハ卒業ノ認定ヲ爲ササルモノトス但シ他ノ學校ニ於テ本校ノ學科課程ト同程度ニ履修シタル經歷アル者ニ對シテハ其ノ各學科目ノ教授時數ニ付斟酌シ之カ認定ヲ爲スコトアルヘシ

第三十六條　第三十四條ノ成績考査ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、各學科目ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ表ハシ百點ヲ以テ定點トス

二、每學科目ニ付五十點以上ヲ得タル者ヲ以テ及第トス

第三十七條　成績考査ニ關スル細目ハ學校長之ヲ定ム

第三十八條　學校長ハ本校所定ノ課程ヲ卒ヘタリト認メタル者ニハ第三號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

第三十九條　學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第四號書式ノ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第八章　褒賞、懲戒及生徒心得

第四十條　學校長ハ學業操行優秀ナル者ニ對シ之ヲ褒賞スルコトヲ得

第四十一條　學校長ハ生徒ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭

二、謹慎

三、停學

第四十二條　生徒心得ニ關スル事項ハ學校長之ヲ定ム

第九章　寄宿舍及生徒取締

第四十三條　寄宿ヲ願フ者ハ日常起居ノコトヲ自ラ辨シ得ルモノタルヘシ

第四十四條　寄宿ヲ願フ者ハ第五號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第四十五條　寄宿料ハ學校長ニ於テ知事ノ指揮ヲ承ケ之ヲ定ム

第四十六條　寄宿料ハ其ノ月十日マテニ學校長ニ寄託スヘシ

第四十七條　學校長ハ寄宿生ニシテ疾病若ハ傷痍ノ爲治療上必要アリト認メタル者ニ對シ外宿又ハ歸鄉ヲ命スルコトアルヘシ

學校長ハ學校ノ休業中寄宿生ニ歸鄉ヲ命スルコトヲ得

第四十八條　學校長ハ生徒ニ對シ取締上必要ト認メタルトキハ之ニ退舍ヲ命スルコトヲ得

第四十九條　寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十章　授業料及學費

第五十條　授業料ハ初等部ニ在リテハ之ヲ徵收セス中等部及別科ニ在リテハ生徒一人ニ對シ一箇月ニ付金五十錢トス

中等部及別科ノ生徒ニシテ授業料ヲ納メ難キ事情アル者ニ對シテハ其ノ半額ヲ減シ又ハ之ヲ免除スルコトアルヘシ此ノ場合ニハ學校長ニ於テ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十一條　一旦納入シタル授業料ハ之ヲ返還セス

第五十二條　學校長ハ授業料ノ納入ヲ怠リタル生徒ニ對シ其ノ授業ヲ停止スルコトヲ得

第五十三條　授業料ノ徵收期日及徵收ニ關スル手續ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第五十四條　前各號ノ外授業料ニ關シテハ明治三十三年石川縣令第八十七號ノ規定ヲ準用ス

第五十四條ノ二　初等部在學ノ生徒ニシテ學費ニ困難ナル者ニ對シテハ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ一部又ハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

學費支給ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一章　表簿

第五十五條　學校ニ備フヘキ表簿ノ種類及保存期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　保存期限永久

官學校ニ關係アル官廳令達及例規トナルヘキ往復書類、學校ニ於テ定メタル規程、生徒ノ學籍簿、卒業證書原簿、成績考査簿、職員履歷書、資產原簿、出納簿、學校沿革誌

第二類　保存期限十年以上

學校日誌、身體檢査統計表、學校醫視察簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿、第一類ニ屬セサル電要往復書類

第三類　保存期限三年以上

擔任學科目及時間表、教授細則、生徒出席簿、身體檢査書、職員名簿、職員出勤簿、第一類及第二類ニ屬セサル往復書類

第五十六條　學校長ハ前條ノ外必要ナル場合ニ於テ適宜表簿ヲ備ヘ之レ

カ保存期限ヲ定ムヘシ

第十二章　補　則

第五十七條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正十三年三月三十一日迄石川縣立盲啞學校盲生部ノ普通科ニ在學シタル生徒ハ第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ拘ハラス之ヲ初等部ノ相當學年ニ編入シ其ノ生徒ニ課スル學科目學科課程及毎週教授時數ニ關シテハ學校長ニ於テ便宜斟酌ヲ爲スコトヲ得

大正十三年三月三十一日迄石川縣立盲啞學校盲生部ノ鍼按科音樂科及別科ニ在學シタル生徒ニ對シテハ當分ノ内元石川縣立盲啞學校盲生部ノ鍼按科音樂科及別科ノ學科ヲ置キ第二十三條乃至第二十六條ノ規定ニ拘ハラス之ヲ當該各學科ノ相當學年ニ編入シ之カ修業年限學科目學科課程及毎週教授時數ニ關シ元石川縣立盲啞學校當該各學科ノ例ニ依ルノ外中等部生徒ニ關スル規程ヲ適用ス但シ卒業證書及修業證書ハ第六號書式及第七號書式ニ依ル

表及書式（省略）

○石川縣立聾啞學校規則

（大正十三年四月十八日）
（石川縣令第三十號）

（改正）　昭和三年石川縣令第四〇號、四年同第三一號

第一章　總　則

第一條　本校ハ盲學校及聾啞學校ノ規定ニ依リ之ヲ設置シ聾啞者ニ普通教育ヲ施シ其ノ生活ニ須要ナル特殊ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ涵養ニ力ムモノトス

第二條　本校ノ課程ハ初等部ノミトス

第三條　本校ノ修業年限ハ六年トス

第四條　本校ノ生徒定員ハ五十人トス

第二章　學科目、學科課程及毎週教授時數

第五條　學科目ハ修身、國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫、手工及體操トシ女子ノ爲ニ裁縫及手藝ヲ加フ

第六條　生徒身體ノ狀況ニ依リ學習スルコト能ハサル學科目ハ學校長ニ於テ其ノ生徒ニ對シ之ヲ課セサルコトヲ得

第七條　學科課程及毎週教授時數ハ別表ニ依ル

第八條　學校長ニ於テ生徒ニシテ全學科目中一學科目又ハ數學科目ニ付或學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シ當該學年ニ於テ其ノ學科目ヲ課セス若ハ心身發育ノ狀況ニ依リ當該學年ニ於テ學習シ能ハスト認メタル者ニ對シ在學期間中便宜ノ學年ニ於テ其ノ學科目ヲ履修セシムルコトヲ得

第九條　毎日ノ教授時數及教授終始ノ時刻ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條　學校長ハ夏季冬季休業日ノ前後各二十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

前項ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各學科目ノ毎週教授時數ヲ定ムルモノトス

第三章　教科用書及教授細目

第十一條　教科用書採定ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ學校長ニ於テ學年配當表ヲ添ヘ知事ニ稟申スヘシ

第十二條　學校長ハ各學科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第四章　學年及學期

第十三條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十四條　一學年中ノ學期ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第五章　休業日及式日

第十五條　一學年中休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、祝日、大祭日及日曜日

二、春季休業日　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル七日間

三、皇后陛下御誕辰　六月二十五日

四、夏季休業日　七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル四十二日間

五、冬季休業日　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル十四日間

六、本校創立記念日

七、學年末休業日　三月二十五日ヨリ同月三十一日ニ至ル七日間

第十六條　傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第十七條　紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第六章　入學退學及休學

第十八條　生徒ノ入學ハ學校長ニ於テ毎年四月檢定ノ上之ヲ許可ス但シ臨時之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十九條　入學ヲ許可スヘキ者ハ年齢滿六年以上十六年未滿ニシテ身體健全ナル者ニ限ル但シ特別ノ事情アルトキハ年齢滿十六年以上ノ者ニモ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十條　入學セシムヘキ員數ハ豫メ之ヲ公告ス

第二十一條　學校長ハ入學志願者ニシテ相當年齢ニ達シ特ニ素養アル者又ハ他ノ學校ヨリ轉學セムトスル者ニ對シテハ試驗ノ上之ヲ相當學年ニ編入スルコトアルヘシ

前項ノ試驗ニ關スル細目ハ學校長之ヲ定ム

第二十二條　入學志願者ノ親權者若ハ後見人ハ第一號書式ノ入學願書ニ入學志願者ノ戸籍謄本ヲ添ヘ學校長ニ差出スヘシ

第二十三條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ一週間以内ニ第二號書式ノ保證人屆ヲ學校長ニ差出スヘシ

第二十四條　保證人ハ年齢二十歳以上ニシテ學校所在地ニ居住シ獨立ノ家計ヲ立テ生徒在學ニ關スル一切ノ事件ヲ引受クルニ足ルヘキ者ニ限ル

學校長ニ於テ保證人ヲ不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコト

アルヘシ

第二十五條　生徒其ノ親權者若ハ後見人ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ之レカ住所氏名ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ旨學校長ニ屆出ツヘシ

保證人ニ住所氏名ノ變更ヲ生シタルトキ亦前項ノ例ニ依ル

第二十六條　生徒ヲシテ退學セシメムトスルトキ又ハ他ノ學校ヘ轉學セシメムトスルトキハ親權者若ハ後見人ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ

第二十七條　學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一、性行不良ニシテ他ノ生徒ニ對シ教育上妨害アリト認メタル者

二、成業ノ見込無シト認メタル者

三、正當ノ事由無クシテ引續キ二箇月以上缺席シタル者

第二十八條　生徒疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ三箇月以上引續キ出席スルコト能ハスト思慮スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ親權者若ハ後見人ニ於テ休學ヲ出願スルコトヲ得

學校長ハ前項ノ出願ニ對シ期間ヲ定メ休學ヲ許可スルコトヲ得

第七章　成績考査、學年修了及卒業

第二十九條　各學年ノ課程ノ修了及全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ調査ト試驗トニ依リ其ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム但シ學校長ニ於テ相當年齢ニ達シ相當ノ學力アリト認メタル者ハ學年ノ中途ニ於テ之ヲ進級セシムルコトアルヘシ

第三十條　前條ノ成績考査ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一、各學科目ノ成績ハ點數ヲ以テ之ヲ表ハシ百點ヲ以テ定點トス

二、每學科目ニ付五十點以上ヲ得タル者ヲ以テ及第トス

第三十一條　成績考査ニ關スル細目ハ學校長之ヲ定ム

第三十二條　學校長ハ本校所定ノ課程ヲ卒ヘタリト認メタル者ニハ第三號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第四號書式ノ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第八章　褒賞懲戒及生徒心得

第三十三條　學校長ハ學業操行優秀ナル者ニ對シ之ヲ褒賞スルコトヲ得

第三十四條　學校長ハ生徒ニ對シ左ノ區別ニ從ヒ懲戒ヲ加フルコトヲ得

一、戒飭

二、謹慎

三、停學

第三十五條　生徒心得ニ關スル事項ハ學校長之ヲ定ム

第九章　寄宿舍及生徒取締

第三十六條　寄宿ヲ願フ者ハ日常起居ノコトヲ自ラ辨シ得ルモノタルヘシ

第三十七條　寄宿ヲ願フ者ハ第五號書式ノ願書ヲ差出スヘシ

第三十八條　寄宿料ハ學校長ニ於テ知事ノ指揮ヲ承ケ之ヲ定ム

第三十九條　寄宿料ハ凡テ其ノ月十日マテニ學校長ニ寄託スヘシ

第四十條　學校長ハ寄宿生ニシテ疾病若ハ傷痍ノ爲治療上必要アリト認メタル者ニ對シ外宿又ハ歸鄉ヲ命スルコトアルヘシ

學校長ハ學校ノ休業中寄宿生ニ歸鄉ヲ命スルコトヲ得

第四十一條　學校長ハ生徒ニ對シ取締上必要ト認メタルトキハ之ニ退舍ヲ命スルコトヲ得

第四十二條　寄宿舍ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十章　授業料及學資

第四十三條　授業料ハ之ヲ徵收セス

第四十三條ノ二　在學ノ生徒ニシテ學資ニ困難ナル者ニ對シテハ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ一部又ハ全部ヲ給スルコトアルヘシ

學資支給ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一章　表　簿

第四十四條　學校ニ備フヘキ表簿ノ種類及保存期限ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　保存期限永久

聾啞學校ニ關係アル官廳令達及例規トナルヘキ往復書類、學校ニ於テ定メタル規程、生徒ノ學籍簿、卒業證書原簿、成績考査簿、職員履歷書、資產原簿、出納簿、學校沿革誌

第二類　保存期限十年以上

學校日誌、身體檢査統計表、學校醫視察簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿、第一類ニ屬セサル重要往復書類

第三類　保存期限三年以上

擔任學科目及時間表、教授細目、生徒出席簿、身體檢査書、職員名簿、職員出勤簿、第一類及第二類ニ屬セサル往復書類

第四十五條　學校長ハ前條ノ外必要ナル場合ニ於テ適宜表簿ヲ備ヘ之レカ保存期限ヲ定ムヘシ

第十二章　補　則

第四十六條　本則實施ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本令ハ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

大正十三年三月三十一日迄石川縣立盲啞學校聾啞生部ニ在學シタル生徒ハ第十八條乃至第二十一條ノ規定ニ拘ハラス之ヲ相當學年ニ編入シ其ノ生徒ニ課スル學科目學科課程及每週教授時數ニ關シテハ學校長ニ於テ便宜斟酌ヲ爲スコトヲ得

別表及書式（省略）

○幼稚園令施行細則

（大正十五年五月二十二日）
（石川縣令第四十二號）

（改正）　昭和八年石川縣令第七三號

第一條　幼稚園設置ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ幼稚園令施行規則第十七條ニ規定セル事項ノ外尙ホ左記事項ヲ併セ具スヘシ但シ小學校ニ附設スルモノニ在リテハ幼稚園令施行規則第十七條第三項ニ規定セル圖面及表ハ之ヲ添付セサルコトヲ得

一、職員定數

二、收入支出豫算表

第二條　幼稚園令施行規則第二十三條第四號ニハ左記事項ヲ包含セシムヘシ

一、休業日ニ關スル事項

二、保育年限ニ關スル事項

第三條　幼稚園令第十四條ニ依リ保育料、入園料等ノ徴收額ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ左記事項ヲ具シ申請スヘシ

一、保育料、入園料等ノ額

二、徴收ノ規定ニ關スル事項

三、增額減免ニ關スル事項

第四條　幼稚園ニ備フヘキ表簿ノ種類及其ノ保存期限ヲ定ムルコト左ノ如シ但シ本條ニ掲ケサル表簿ニ付テハ園長ニ於テ適宜保存スヘシ

第一類　保存期限永久

幼稚園ニ關係アル法規、官廳令達及例規トナルヘキ往復文書、幼稚園ニ於テ定メタル規程、沿革史、職員履歷書、備品臺帳、幼兒保育簿等

第二類　保存期限十年

日誌類、一覽表、諸統計表、職員出勤簿、幼兒出席簿、其ノ他第一類ニ屬セサル文書等

第五條　保姆ノ檢定及免許狀ニ關シテハ尋常小學校本科正教員ノ檢定及免許狀ノ例ニ依ル但シ檢定手數料ハ金參圓トス

第六條　檢定合格者ニ授與スヘキ免許狀ハ第一號書式ニ依ル

第七條　幼稚園令施行規則第七條ニ依リ保姆ニ代用スヘキ者ノ名稱ヲ保姆心得トス

第八條　私立幼稚園ニ於テ園長、保姆、保姆心得ヲ採用シタルトキハ履歷書（第二號書式）ヲ添ヘ遲滯ナク知事ニ屆出ツヘシ之ヲ解任シタルトキ亦同シ

第九條　公立幼稚園ノ園長、保姆、保姆心得ノ俸給及其ノ支給ニ關シテハ園長ハ本科正教員、保姆ハ專科正教員、保姆心得ハ准教員ノ例ニ依ル

第十條　公立幼稚園ノ園長、保姆、保姆心得ノ旅費及其ノ支給ニ關シテハ園長、保姆ハ正教員、保姆心得ハ准教員ノ例ニ依ル

第十一條　公立幼稚園ノ園長、保姆、保姆心得ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトアルヘシ

第十二條　公立幼稚園ノ園長、保姆、保姆心得ニシテ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第十三條　前條ニ依リ給スル金額及其ノ支給方法ハ管理者之ヲ定メ知事ニ屆出ツヘシ

附　則

第十四條　幼稚園令附則第一項ニ該當スル幼稚園ノ職員ハ本令ニ依リ各々其ノ資格ニ於テ任用又ハ採用セラレタルモノト看做ス

第十五條　幼稚園令附則第一項ニ該當スル幼稚園ニシテ保姆免許狀ヲ有セサル者ノ數之ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ大正十六年三月三十一日マテ幼稚園令施行規則第七條第二項ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條　幼稚園令附則第二項ニ該當スルモノニシテ保姆免許狀ヲ受得セムトスル者ハ大正十五年五月三十一日マテニ知事ニ申請スヘシ

（第一號書式）

保姆免許狀

族籍

氏名

生年月日

右ハ幼稚園令ニ依リ保姆タルコトヲ免許ス

年　月　日

印

知事位勳爵　氏　名　㊞

第何號

（第二號書式）

履歷書

本籍地

原住所

氏

生年月日

名

學業

一、何年何月何日何學校入學何年何月何日卒業又ハ修了（證書寫別紙ノ通）

一、何年何月何日何免許狀受得（免許狀寫別紙ノ通）

業務

一、何年何月何日何官職拜命又ハ何業ニ從事何年何月何日依願免官職或ハ廢業又ハ現今在職從事等

賞罰

一、何年何月何日何々ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ケ右ノ通相違無之候也

年　月　日

右　氏　名　㊞

第六編　私立學校

○私立學校監督規程

（明治四十四年十二月七日
石川縣令第九十六號）

（改正）昭和八年縣令第七九號

第一條　私立學校設立ノ認可ヲ受ケントスル者ハ私立學校令施行規則第一條ニ依リ添付スヘキ書類ノ外左ノ事項ヲ具シ出願スヘシ

一、生徒ノ男女別定員
二、教員ノ定數
三、開校年月日
四、設立者ノ履歴
五、飲料水ニ對スル水質鑑定書

財團法人ノ設立ニ係ルトキハ第四號ノ書類ヲ添付スルヲ要セス

第二條　私立學校令施行規則第一條ニ依リ添付スヘキ圖面ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ校地、校舍、寄宿舍ニシテ設立者ノ所有又ハ管理ニ係ラサルトキハ該所有者又ハ管理者ノ使用承諾書ヲ添付スヘシ

一、方位及四隣ノ狀況
二、校地、校舍、體操場、寄宿舍、及井ノ位置、間尺坪數
三、校舍及寄宿舍各室ノ位置、間尺坪數
四、窓、廊下及昇降口ノ位置、間尺坪數

校地、校舍、寄宿舍ノ變更ヲ開申セントスルトキハ前項ニ準シテ調製シタル圖面ヲ添付スヘシ

第三條　私立學校廢止ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ豫メ出願スヘシ

一、廢校ヲナサントスル事由
二、創立以來ノ卒業生ノ氏名及其ノ在學中ニ於ケル學籍簿ノ謄本
三、在學生徒ノ學籍簿ノ謄本

第四條　設立者死亡シタルトキハ其ノ家督相續人若ハ校長ヨリ直ニ知事ニ届出ツヘシ

第五條　私立學校ニ於テ設立者變更ノ認可ヲ受ケントスルトキハ新舊設立者ノ連署ヲ以テシ且新設立者ノ履歴書ヲ添付スヘシ

死亡ニ因ル設立者ノ變更ハ新設立者ノ履歴書ノミヲ添付シ認可申請ヲナスヘシ但シ舊設立者ノ家督相續人以外ノ新設立者ハ舊設立者ノ家督相續人ト連署スルコトヲ要ス

第六條　私立學校令第三條第一項並同令第五條ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ私立學校令第四條ノ各號ニ該當セサルコトヲ證明シタル市町村長ノ證明書及住所、族稱、生年月日、學業、業務、賞罰等ヲ記載シタル履歴書ヲ添付スヘシ

第七條　私立學校ニ於テ校長及教員ヲ採用シタルトキハ其ノ氏名、擔當學科、俸給額並就職年月日ヲ具シ本人ノ履歴書ヲ添ヘ遲滯ナク知事ニ開申スヘシ

教員ヲ解職シタルトキ又ハ其ノ擔當學科ニ異動アリタルトキハ其ノ氏名及事由ヲ具シ遲滯ナク知事ニ開申スヘシ

校長又ハ教員死亡シ若クハ其ノ俸給額ニ異動アリタルトキ亦同シ

第八條　私立學校ニ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

一、當該學校ニ關係アル法令

二、學則、日課表、教科用圖書配當表

三、職員名簿、履歴書、出勤簿並ニ擔當學科目及時間表

四、生徒ノ學籍簿　出席簿

五、入學試驗及學年試驗ノ問題答案及成績表

六、資產原簿出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄

七、往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族稱、住所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及住所等ヲ記載スヘシ

第九條　前條ノ表簿中生徒學籍簿ハ十五箇年以上、其ノ他ノ表簿ハ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第十條　私立學校ニ於テ臨時休業ヲナサントスルトキハ期間ヲ定メテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　私立學校ニ於テ其ノ學校ノ都合ニ依リ休業全月ニ及フトキハ其ノ月分ノ授業料及校費ヲ徵收スルコトヲ得ス

第十二條　傳染病ノ流行其ノ他非常變災アルトキハ知事ニ於テ一時之カ閉鎖ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十三條　私立學校ニ關シ認可ヲ受ケ又ハ聞申セントスルトキハ學校所在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

市町村長ニ於テ第一條及第三條ノ書類ヲ受理シタルトキハ詳細ニ調査シ意見ヲ附シテ進達スヘシ

第十四條　市町村長ニ於テ私立學校ノ設備授業其ノ他ノ事項ニシテ教育上有害ナリト認メタルトキ又ハ私立學校令第十條若ハ同令第十三條ニ該當スル者アルヲ認メタルトキハ速ニ知事ニ報告スヘシ

第十五條　市町村長ニ於テ學校ノ事業ヲ爲スモノト認ムヘクシテ未タ設立ノ認可ヲ受ケサルモノアルトキハ其ノ旨關係者ニ通告シ私立學校令ノ定ムル所ニ據ラシムヘシ

前項ノ通告ニ對シ尙其ノ手續ヲ爲ササルトキハ速ニ知事ニ報告スヘシ

第十六條　私立學校ノ種類ニ依リ別段ノ規定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附　則

第十七條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　既ニ設立シタル私立學校ハ其ノ位置及經費並維持方法、役員氏名等ヲ詳記シ明治四十五年一月二十日限リ知事ニ開申スヘシ

第十九條　從來認可シタル私立學校學則ノ條項中本令ニ抵觸スルモノハ本令施行後其ノ效力ヲ失フ

○私立學校監督規程ヲ私立幼稚園ニ準用ノ件

（大正十年六月十七日　石川縣令第六十六號）

明治四十四年縣令第九十六號私立學校監督規程ハ之ヲ私立幼稚園ニ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○私立學校ノ建物ニ關スル課稅免除ノ件

（大正八年七月十五日　收庶第一五三〇號依命通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

本年四月法律第三八號ヲ以テ私立學校用地免除ニ關スル件公布相成候處私立學校保護奬勵上建物ニ對シテモ地方稅ヲ免除スルノ必要有之候條同法ノ施行後ニ於テハ右法律第一條第一號第二號ニ揭クルモノノ用ニ供スル建物（賃借ニ係ル建物ヲ除ク）ニ對シ縣稅市町村稅ヲ賦課セサル樣致度

追テ本文ニ依リ地方稅ヲ免除スヘキ建物ハ法律第三八號ニ依ル免租地ノ區域ニ在ルモノニ付テハ賃借ニ係ル建物ヲ除キ其ノ全部有租地ノ區域ニ在ルモノニ付テモ亦右ノ趣旨ニ依リ同法第二條ノ範圍ニ於テ御取計相成度

○私立學校用地免租ニ關スル件

（大正九年十一月五日　官普三〇九號）

文部次官通牒

大正八年法律第三十八號第一條第二號ニ依リ大藏大臣ニ於テ指定スヘキ學校ハ一應本年六月二十二日大藏省告示第百十號ヲ以テ指定相成リマシタニ付將來左記各號ノ一ニ該當スルモノアル際ハ第一號乃至第四號ノ場合ハ其學校名所在地該當標準別認定指定許可又ハ取消年月日第五號ノ場合ハ學校名所在地及成績不良ナル事由等ヲ記シ遲滯ナク該學校ノ所轄稅務署ニ通知相成度シ

記

一、公立私立學校認定ニ關スル規則（明治三十二年文部省令第三十四號）又ハ大正九年四月十日陸軍文部省令ニ依リ認定セラレ又ハ其ノ取消アリタルモノ

二、專門學校入學者檢定規程（明治三十六年文部省令第十四號）第八條第一號ニ依リ指定セラレ又ハ其ノ取消アリタルモノ

三、公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規程（明治三十二年文部省令第二十五號）ニ依リ取扱ヲ受クルコトヲ許可セラレ又ハ其ノ取消アリタルモノ

四、教員檢定受驗資格認定學校ニ關スル規則（明治四十二年文部省令第四號）ニ依リ認定セラレ又ハ其ノ取消アリタルモノ

五、以上ノ各號ニ該當セサルモ大藏大臣ノ指定ヲ受ケタル學校ニシテ成績不良トナリタルモノ

○私立學校ノ設備使用ニ關スル件

（昭和二年四月二十七日　普通學務局長實業學務局長通牒
愛普七號）

標記ノ件ニ關シ別記甲號ノ照會ニ對シ乙號ノ通回答シタルニ付爲參考通牒ス

（甲　號）

從來公私立學校ニ對シテハ選擧運動等政治ニ關スル事項ニ關シテ學校ノ使用ハ不許可ナリシトコロ今回公立學校ニ關シテハ衆議院議員選擧法ニ依リ其ノ使用ヲ許可サレタル所、私立學校ニ關シテハ何等規定ヲ見ス右ハ公立學校同樣許可致差支無之哉至急御回示相煩度候

追テ許可差支ナキ場合ニハ其ノ取締ハ公立學校ノ規定ヲ準用シ差支ナキヤ併テ相伺候

（乙　號）

一月十七日學第二九九號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處私立學校ノ設備ヲ演說ニ依ル選擧運動ニ使用セシムルコトハ差支無之モ公立學校等ノ設備使用ニ關スル規定ニ準シ教育上支障ヲ來ササル樣相當御取締相成度

○私立學校令ニ關スル疑義ノ件

（大正十三年九月四日　普通學務局長通牒
奈普五〇號）

今回奈良縣知事ヨリ甲號ノ通照會アリタルニ對シ乙號ノ通回答シタルニ付御了知相成度

甲　號

私立學校ノ監督ハ私立學校令第一條ニ依リ別段ノ規程アル場合ノ外ハ地方長官ノ權限ニ屬シ候ニ就テハ同令第十條各號ニ該當シ爲ニ閉鎖ヲ命スルノ要アル場合ニ於テ其ノ學校カ御省ノ認可ヲ得テ設置セルモノニ對シテモ地方長官ハ閉鎖ヲ命スルコトヲ得ルモノト被存候得共聊カ疑義有之候ニ付至急何分ノ御回示相煩シ度此段及照會候也

乙　號

昨年八月二日教第五六九七號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處文部大臣ノ認可シタル學校ノ閉鎖ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ監督官廳ハ文部大臣ト解スヘキコトニ當議決定セラレタルニ付御了知相成度

○私立學校閉鎖ニ關スル件

（昭和二年一月十四日　普通學務局長通牒
栃普二二號）

大正十五年六月二十二日栃木縣知事ヨリ別紙（甲）ノ如キ照會アリタルニ對シ別紙（乙）ノ如ク回答シタルニ付其ノ旨御了知相成度

甲

私立學校令第二條ノ認可ヲ受ケス又假令認可ノ申請アルモ第四、條第一號及第六號ニ該當スルヤメ認可スヘカラサルモノニシテ事實上學校行爲ヲナシ第十條第二號ニ該當スル場合ニ於テ直ニ第十條ヲ適用シ學校ノ閉鎖ヲ命スルコトヲ得ヘキヤ聊カ疑義ニ渉リ候條至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

乙

客年六月二十二日學第三九七六號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ左記ノ通ニ付御了知相成度

記

一、私立學校令第十條ハ同令第二條ノ認可ヲ受ケタル私立學校ニノミ適用シ得ル規定ナルヲ以テ事實上學校ノ事業ヲ爲スモノト認メラルルモ第二條ノ認可ヲ受ケサルモノニ對シテハ同條ヲ適用シテ閉鎖ヲ命スルコトヲ得ス

一、事實上學校ノ事業ヲナスモノニシテ學校設置ノ認可申請ヲ爲ササル場合ハ私立學校令第十一條ニ依リ其ノ手續ヲ爲ス樣關係者ニ通告スヘシ

一、關係者ニ於テ學校設置ノ認可申請ヲ爲シタルモ認可シ得サル場合ハ不認可ノ處分ヲ爲シ而モ尙モ其ノ事業ヲ繼續スル時前項ノ通告ヲ受ケタルニ拘ラス手續ヲ爲サスシテ其ノ事業ヲ繼續スル時ハ私立學校令第二條ニ違反スルモノトシテ行政執行法ニ依リ處置スルヲ得ルモノトス

第七編　社會教育

第一章　青少年團

○青年團體ノ設置ニ關スル件

（大正四年九月二十五日
石川縣訓令甲第二十九號）

（郡）市　役所　町村役場
公立學校

青年團體ノ設置ハ今ヤ漸ク緒下ニ洽ク其ノ振否ハ國運ノ振暢地方ノ開發ニ影響スル所殊ニ大ナルモノアリ此ノ際一層青年團體ノ指導ニ努メ以テ完全ナル發達ヲ遂ケシムルハ內外現時ノ情勢ニ照シ最モ喫緊ノ一要務タルヘキヲ信ス

抑々青年團體ハ青年修養ノ機關タリ其ノ本旨トスル所ハ青年ヲシテ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素養ヲ得シムルニ在リ隨テ團體員ヲシテ忠孝ノ本義ヲ體シ品性ノ向上ヲ圖リ體力ヲ增進シ實際生活ニ適切ナル知能ヲ研キ剛健勤勉克ク國家ノ進運ヲ扶持スルノ精神ト素質トヲ養成セシムルハ刻下最モ緊切ノ事ニ屬ス其ノ之ヲシテ事業ニ當リ實務ニ從ヒ以テ練習ヲ積マシムルモノ亦固ヨリ修養ニ資セシムル所以ニ外ナラス若シ夫レ團體ニシテ其ノ要ヲ所ヲ誤リ施設其ノ宜シキヲ得サルコトアラムカ當ニ所期ノ成績ヲ擧ケ得サルノミナラス其ノ弊ノ及フ所測リ知ルヘカラサルモノアラム故ニ指導ノ任ニアル者ハ須ク此ニ留意シ地方實際ノ情況ニ應シ最モ適切ナル指導ヲ與ヘ以テ團體ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシメムコトヲ期スヘシ

○青年團準則

（大正五年二月十日
石川縣告示第七十三號）

（改正）大正九年石川縣告示第一〇九號、一五年同第三二二號

大正四年九月石川縣訓令甲第二十九號ニ依リ郡市町村青年團ノ準則ヲ定ムルコト左ノ如シ

（準則）

石川縣何郡（市何々）何町（村）青年團則

第一章　通　則

第一條　本團ハ團員ヲシテ忠孝ノ本義ヲ體シ品性ノ向上ヲ圖リ體力ヲ增進シ實際生活ニ適切ナル知能ヲ研キ以テ健全ナル國民善良ナル公民タルノ素養ヲ得シムルヲ目的トス

第二條　本團ハ何町（村）（市何々）青年團ト稱シ何町（村）（市何々）ヲ以テ設置區域トス

第三條　本團ノ事務所ヲ何（小學校內）ニ置ク

第四條　本團ハ第一條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フモノトス

一、何　々

一、何　々

一、〃〃〃

第五條　本團ハ何郡（市）青年團ニ加入スルモノトス

第二章　團員

第六條　本團ノ設置區域內ニ居住スル十二年以上二十年未滿ノ男子ニシテ小學校及其ノ他ノ學校（補習學校ノ學籍ニ在ラサル者ヲ正團員トス

前項ノ年齡ヲ經過シタル者ハ二十五年ニ達スル迄之ヲ特別團員トス

第七條　團員ノ入團及退團期日ハ毎年四月一日トス

第三章　役員及指導

第八條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

團長　一名　副團長　一名

幹事　若干名　評議員　若干名

團長ハ何小學校長（何町村長）（何々）ヲ推薦ス

（團長ハ何小學校長（何町村長）（何々）ヲ推薦ス但シ評議員會ニ於テ團員中ヨリ選擧スルコトヲ得）

副團長ハ評議員會ニ於テ團員中ヨリ之ヲ選擧ス）

幹事ハ團員中ニ就キ團長之ヲ選任ス

評議員ハ總會ニ於テ團員中ヨリ之ヲ選擧ス

第九條　本團ニ左ノ指導ヲ置ク

顧問　若干名　講師　若干名

顧問ニハ小學校長町村長ヲ推薦ス但シ團長ノ推薦ニ依リ評議員會ノ決議ヲ經タル者ヲ顧問ニ推薦スルコトアルヘシ

講師ハ團長ニ於テ顧問ノ意見ヲ聽キ之ヲ委囑ス

第十條　團長ハ團務ヲ總理シ團ヲ代表ス

副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ團長ノ指揮ヲ承ケ團務ニ從事ス

評議員ハ評議員會ヲ組織シ第十七條ノ事項ヲ決議ス

顧問ハ團長ヲ補翼シ兼テ團體ノ施設經營ニ關スル諸般ノ事項ニツキ其ノ諮議ニ干與ス

講師ハ團員ノ修養ニ關スル事項ヲ分擔ス

第十一條　役員ハ正當ノ事由ナクシテ辭任スルコトヲ得ス

第十二條　役員ノ任期ハ壹箇年トス但シ推薦ニ依ル團長ハ此ノ限ニ在ラス

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任スル迄ハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第十三條　役員ハ無報酬トス

第四章　會議

第十四條　會議ヲ別チテ總會及評議員會トス

第十五條　總會ハ通常會及臨時會トシ通常會ハ毎年一回之ヲ開キ臨時會ハ必要アル場合ニ於テ之ヲ開ク

評議員會ハ必要アル場合ニ於テ之ヲ開ク

第十六條　總會ニ於テ行フヘキ事項左ノ如シ

一、歲入出豫算ヲ定ムルコト

二、決算報告ニ關スルコト

三、不動產ノ處分竝買受讓受ニ關スルコト

四、基本財產ノ設置竝處分ニ關スルコト

五、團則ノ改正ニ關スルコト

六、評議員ヲ選擧スルコト

七、第十七條第四號ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スコト

八、其ノ他團務ノ報告ヲ爲スコト

第十七條　評議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、總會ノ議決ニ付スヘキ事件ノ審査ニ關スルコト

二、財產ノ管理處分ニ關スルコト

三、寄附及下附金品ノ收受ニ關スルコト

四、總會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケ又ハ急施ヲ要スル事件ニ關スルコト

五、團長副團長ノ選擧及顧問ノ推薦ニ關スルコト

六、其ノ他團長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十八條　總會及評議員會ハ團長之ヲ招集ス

第十九條　總會及評議員會ハ團長ヲ以テ議長トス團長事故アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第二十條　議長ハ議事ヲ整理シ會議ノ秩序ヲ維持ス

第二十一條　總會ハ團員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十二條　議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五章　財務

第二十三條　事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十四條　本團ノ經費ハ團員ノ勤勞及財產ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨シ尙不足アルトキハ其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

附則

本則實施ニ關シ必要ナル規定ハ別段ノ定アルモノヲ除クノ外評議員會ノ議決ヲ經テ團長之ヲ定ム

（準則）

石川縣何郡（市）青年團則

第一章　通則

第一條　本團ハ郡內町村（市內校下）青年團ノ連絡提携ヲ圖リ以テ其ノ向上發達ヲ期スルヲ目的トス

第二條　本團ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フモノトス

一、何　々

一、何　々

一、〃　〃

第三條　本團ハ何郡（市）青年團ト稱シ郡內町村（市內各）青年團ヲ以テ組織ス

第四條　本團事務所ヲ何々ニ置ク

第二章　役員及會議

第五條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、團長　一名

二、副團長　一名

三、幹事　若干名

四、評議員　若干名

第六條　團長何々ヲ推薦ス

（團長ハ評議員會ニ於テ之ヲ選擧ス）

副團長ハ團長推薦ニ依リ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ委囑ス

幹事ハ團長之ヲ選任ス

評議員ハ町村(市内各)青年團長ヲ以テ之ニ充ツ團長事故アルトキハ其ノ代理者之ニ代ル

第七條　團長ハ團務ヲ總理シ團ヲ代表ス

副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ團長ノ指揮ヲ承ケ團務ニ從事ス

評議員ハ評議員會ヲ組織シ第八條ノ事項ヲ決議ス

第八條　評議員會ニ於テ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、歳入出豫算ヲ定ムルコト

二、決算報告ニ關スルコト

三、團費ノ分賦ニ關スルコト

四、團則ノ改正ニ關スルコト

五、施設事業ノ選定ニ關スルコト

六、團長ヨリ諮問セラレタル事項

七、其ノ他團長ニ於テ必要ト認メタル事項

第九條　評議員會ハ團長之ヲ招集ス

第十條　評議員會ハ團長ヲ以テ議長トス團長事故アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス

第十一條　評議員會ハ評議員半數以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十二條　役員ハスヘテ無報酬トス

第三章　財務

第十三條　事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十四條　本團ノ經費ハ町村(市内各)青年團分賦金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支拂ス

附　則

本則實施ニ關シ必要ナル規程ハ團長之ヲ定ム

(參考)

青年團體ノ組織ニ關スル件依命通牒

青年團體ニ關シテハ昨年九月輕訓令甲第二十九號ヲ以テ訓令相成更ニ其ノ組織及設置區域等ニ關シテハ同月二十五日收學第四二一二號ヲ以テ通牒致置候處今般告示第七十三號ヲ以テ青年團準則公布相成候ニ付之カ組織設置ニ關シテハ別紙青年團設置要項及青年指導上ノ注意ヲ參照シ町村及市内青年團ハ大正五年八月末日限リ郡市青年團ハ同十二月末日限リ夫夫組織ノ結了ヲ期セラレ度候也

追テ本文ニ依リ團體ノ組織ヲ了シタルトキハ郡市長ニ於テ左記事項ヲ具シ其ノ都度御報告相成度候也

記

一、組織年月日

二、役員氏名(公職ニ在ル者ハ其ノ官職氏名)

三、團員ノ種別人員數

四、從來設置ノ青年團トノ關係(團體ノ整理、團員ノ整理、財産ノ處分其他)

五、團則

青年團設置要項

一、設置區域

青年團ノ區域ハ町村自治區域ト一致セシムルヲ本體トスレ青年時代ニ於テ思想感情ノ融和統合ヲナシ以テ自治體ニ對スル團結心ヲ養成スルニ於テ極メテ肝要ノ事ナレハナリ然ルニ現在ノ青年團ノ多クハ部落ヲ基礎トシテ成立シタル若連中ナルモノヽ發達シ來リタルモノナルヲ以テ今猶之ヲ踏襲スルモノ少カラス是等ハ漸次整合統一ヲ行フヲ要ス

市ニ在リテハ町村ト事情ヲ異ニスルモノアルヲ以テ市全體ヲ團體單位トスルハ經營上不統一ニ陷ルノ憾ナキ能ハス故ニ一個又ハ數個ノ尋常小學校ノ通學區域ヲ基礎トシテ組織スルヲ適當トス

各郡市ニハ其ノ郡市内ニ於ケル各青年團ヲ統一指導スルタメ更ニ郡市青年團ヲ組織スルヲ可トス

一、團員ノ年齡

本縣ニ於ケル現況ヲ見ルニ青年團員タルノ年齡區々ニシテ一定セス幼ハ十五歳ヨリ長ハ四十歳以上ニ及フモノアリ然レトモ青年團ハ青年ノ修養機關タルヲ以テ義務教育完了期ヨリ成年期ニ達スルマテノ者ヲ團員トシテ收容スルヲ最モ其ノ當ヲ得タルモノトス

以上ノ見地ヨリスレハ滿十二年以上二十年未滿ノ男子ニシテ小學校及其ノ他ノ學校(補習學校ヲ除ク)ノ學籍ニ在ラサル者ヲ正團員トシテ收容訓練スルヲ本體トスヘキ尚土地ノ情況ニヨリ正團員タルノ年齡ヲ經過シタルモノト雖モ二十五年ニ達スルマテノ者ヲ特別團員トシテ在團セシメ其ノ修養ヲ繼續スルト共ニ團ヲ援助セシムルモ可ナリ

一、指導者

青年團ノ成立ニ對スル小學校ノ關係ハ甚タ深厚ナルノミナラス青年ノ補習教育竝ニ卒業者ト學校トノ連絡ヨリ見ルモ小學校長ハ指導者トシテ最モ適任タルカ故ニ之カ主腦ノ地位ヲ占ムルハ自然ノ傾向ナリ故ニ小學校長ヲ以テ團體長ニ充ツルヲ最モ適當トス只止ムヲ得サル事情アル場合ニ於テハ町村長又ハ名望家ヲ擧クルモ可ナリ

猶市町村吏員學校職員警察官吏神職僧侶其ノ他篤志家名望家中適當ト認ムル者ヲ名譽團員トシテ協力援助セシムルハ肝要ノ事ナリ

郡市青年團ニテハ郡市長ヲ以テ團體長ニ推戴シ副團長トシテ警察署長市助役又ハ郡市視學ヲ以テ之ニ充ツルヲ適當トス是レ郡市青年團ハ其ノ郡市内ニ於ケル各青年團ヲ統督指導スルノ權關タルヨリ見ルモ是等ノ人ヲ擧クルハ頗ル當ヲ得タルモノト謂フヘシ其ノ他評議員ハ其ノ郡市内ノ各青年團長ヲ以テ之ニ充テ幹事トシテ團務ヲ執ラシムルモノニハ郡市ノ官公吏ヲ擧クルヲ便利ナリトス

一、事業ノ種類

青年團ノ目的ハ青年修養ノ機關ナルコト前ニ述ヘタル所ノ如シサレハ其ノ施設スヘキ各種ノ事業ハ事業ノ其ノモノヲ目的トスルニアラスシテ修養ノ手段タルコトヲ忘ルヘカラス而シテ其ノ事業タル各地方ノ地勢交通職業及習俗等其ノ趣ヲ異ニスルト且臨時偶發的事項亦少カラサルヲ以テ一々之ヲ列擧セムニハ其ノ種類幾百ニ上ルヘシト雖モ其ノ主要ニシテ機續的ノモノヲ擧クレハ大要左ノ如キヲ適當トセム勿論之ヲ實施セムトスルニ際シテハ各青年團ノ情況ニ應シテ最モ適當ト認ムルモノヲ精選シテ逐次ニ之ヲ實行スヘク徒ニ多クヲ一時ニ期待シテ多岐散漫ニ流レサル樣注意スルヲ肝要ナリトス

甲、知德涵養ニ關スル事項

1、教育勅語ノ捧讀會

2、實業補習教育
3、夜學、閱書ノ回覽
4、講演會、演說討論會
5、通俗圖書室、文庫、巡回書庫ノ利用經營
6、見學旅行
7、尙齒、尊祖、隣保相扶
8、風紀矯正
9、禮儀作法ノ修得
10、時間勵行
11、貯金
12、試驗會其ノ他膽力鍛練

乙、體育ニ關スル事項

1、相撲、力持
2、撃劍、柔道、其他ノ武術練習
3、體操、教練
4、水泳、漕艇
5、運動、競技會
6、遠足、登山、競走
7、保健法、救急法
8、信號法

丙、產業ニ關スル事項

1、試作、栽培
2、桑園經營、養蠶
3、產業ニ關スル講習會
4、產業ニ關スル品評會
5、養魚、養鶏、養豚
6、害蟲驅除
7、苗圃設置
8、堆肥ノ製造
9、改良農具ノ試用
10、副業研究
11、植林
12、荒蕪地開墾、其他ノ遺利ノ拾收
13、廢物利用

丁、公益ニ關スル事項

1、兒童ノ就學、出席ノ奬勵
2、現勢調査
3、軍事幇助
4、消防夜警ノ幇助
5、公衆衛生ノ幇助
6、指導標ノ建設
7、神社祭典ノ幇助
8、納稅豫告
9、堤防橋梁ノ保護
10、道路ノ開鑿、修繕、其ノ他勞役ノ提供
11、名勝史蹟、天然記念物ノ保存

郡市青年團ニ於テ施設シテ可ナリト認ムル事項左ノ如シ

1、表彰ハ其ノ郡市內青年團ノ優良ナルモノニツキ
2、巡回文庫ハ通俗圖書ヲ各町村青年團ニ巡回ス
3、雜誌發行
4、運動會、視察旅行
5、學藝成績品展覽會

一、事業ノ經營

青年團ノ事業經營方法トシテ左ノ如クナスヲ適當トセム

(一) 休業日及業閑等ノ利用

一般施設事業ノ經營ハ地方ニ於ケル休業日、業閑及夜間其ノ他適當ノ時期ヲ利用シ生業ヲ妨ケサル範圍內ニ於テ之ヲ爲スヘク夜學、補習教育、試作、栽培、共同作業公益事業ノ幇助等スヘテノ事業ハ此ノ時期ノ利用ニヨルモノトス

(二) 例會

每月一回以上定期又ハ臨時ニ集合シテ學科及技術ノ練習、講話又ハ談話ヲナシ或ハ名士先輩ノ講話ヲ聽聞スルモノトス

(三) 總集會

每年一回以上定期又ハ臨時ニ之ヲ開キ議事、報告、講話、尙齒其ノ他運動競技等ヲナシ又ハ名士先輩ノ講話ヲ聽聞スルモノトス

(四) 役員集會

每月一回以上之ヲ開キ諸般ノ報告及施設經營ニ關スル打合ヲナスモノトス

尙之等諸般ノ施設經營ニ關シテハ之カ必行事項ヲ撰ヒテ其ノ遂行方法ヲ定メ或ハ年中行事ヲ撰定スル等團員ヲシテ其ノ執ルヘキ行動ヲ周知セシメ以テ之カ貫徹ヲ圖ルコト肝要ナリ

郡市青年團ニ於ケル經營方法トシテハ概ネ左ノ如キヲ適當トセム

(一) 役員集會

每年一回以上之ヲ開キ各種ノ役員ヲ招集シテ諸般ノ報告施設經營ニ關スル指示、打合及講演等ヲナスモノトス

(二) 總集會

每年一回以上之ヲ開キ其ノ郡市內各青年團員全體ヲ招集シテ表彰講演其ノ他各種ノ運動競技ヲ行フモノトス

一、維持

青年團ノ經費ハ團員ノ勤勞ニ依ル收入及ヒ基本財產ヨリ生スル收益ヲ以テ支辨スルヲ本則トシ團員ヨリハ成ルヘク會費ヲ徵收セサルヲ可トスルモ市內ニ於ケルモノヽ如キハ蓋シ之ヲ徵收スルノ止ムヲ得サルモノアルヘシ其ノ他特ニ助成奬勵ニ依ル下付金又ハ篤志ニ依ル寄附金品ハ之ヲ受クルヲ妨ケス

郡市青年團ニ在リテハ其ノ郡市內青年團ノ分賦金ヲ以テ維持スルヲ本則トスレトモ或ハ團體又ハ個人ノ寄附奬勵若ハ助成金ヲ以テスルモ妨ケナシ

歲計ノ剩餘、團員ノ勤勞ニヨル收入、特ニ指定ノ助成奬勵又ハ寄附金品及基本財產ヨリ生スル收益ハ之ヲ基本金ニ積立テ年々利殖ヲ計ルハ青年團ノ基礎根底ヲ强固ニスル上ニ於テ最モ必要ノコトナリトス

一、娛樂

青年團ノ指導上考慮ヲ要スヘキモノヽ一ハ娛樂問題ナリ娛樂ニシテ健

全高尚ナラムカ能ク彼等青年ニ慰安ヲ與ヘ新鋭ノ氣ヲ振起セシムルノミナラス趣味ヲ涵養シ團員相互ノ交情ヲ增シ親睦ヲ敦フシ延イテ團ノ結合ヲ鞏固ナラシムルニ最モ有效ナリト雖モ之ニ反シ其ノ不健全卑陋ナルモノニ至リテハ青年ヲ驅リテ耽溺荒亡セシメ其ノ害ノ及フ所蓋シ測リ知ルヘカラサルモノアリサレハ指導ノ任ニアルモノ外俗惡ナル娛樂ノ誘惑ヲ防遏スルト共ニ內健全高尚ナル娛樂ヲ撰擇シテ其ノ誘掖指導ヲ怠ラサラムコトヲ期スヘキナリ

青年團指導上ノ注意

一、青年團ノ指導ニ就テハ特ニ青年心身ノ鍛練ニ注意シ元氣ヲ鼓舞シ體力ヲ增進セシメ以テ堅實ナル志操ノ涵養ニ努ムルコト

一、事業ノ撰擇ニ關シテハ特ニ愼重ノ注意ヲ要スヘク一時ノ成功ヲ望ミ施設ノ緩急ヲ怠リテ多岐散漫ニ流レサル樣ニ注意スルコト

一、土地ノ情況ニヨリ施設事業ハ自ラ其ノ種類ヲ異ニスヘク殊ニ市街地ト農村トハ生業習俗等ニ於テ甚タシク差異アルモノナレハ採擇ノ適否ヲ怠ラサルコト

一、事業ヲ過重スルノ結果團員各自ノ修養訓練ヲ忽ニセサルコト

一、補習教育等ニヨリ立憲制度ニ對スル醇正穩健ナル觀念ヲ扶殖スルハ必要ノコトナリト雖モ之カタメ苟モ團體ノ勢力ヲ利用シテ直接政治問題ニ干與シ又ハ選擧運動ニ聲援スルカ如キハ絕對ニ禁止スルコト

一、自己ノ地位權勢ヲ保タムタメ往々ニシテ青年團ノ威力ヲ利用セムトスルモノナキニアラス此等ハ青年各自ヲシテ其ノ地位本分ヲ理解セシムル事ニ依リテ防止スルヲ得ヘケレハ指導者ノ戒心ヲ要スルコト

一、青年團員ノ多クハ未タ徵兵適齡ニ達セサル年少者ノ集合ナレハ指導者ノ如何ハ直ニ團體ノ發展ニ影響ヲ及ホスモノナルヲ以テ指導者タルモノハ常ニ其ノ行動ヲ愼ミ自己ノ修養ニ努ムヘキコト

一、苟クモ團體ノ威力ヲ濫用シテ寄附金ノ强請又ハ因襲的惡弊ヲ助長セシムルカ如キ行動ハ絕對ニ禁止スルコト

一、團員各自ヲシテ自己ノ職業ニ對シテ其ノ趣味ヲ感知セシメ土地ニ親シムノ氣風ヲ養成スルニ努ムルコト

一、實業補習學校アル地方ニ於テハ團員ヲシテ努メテ入學セシメ普通教育ノ補習ニ併セテ適切ナル實業教育ヲ施スコト

○青年團々則改正等ニ關スル件

（大正六年四月六日　發學第五六號依命通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

調査上必要有之候ニ付郡、市、町村青年團（市ニ在リテハ校下青年團）ニ於テ團則ヲ改正シ團長ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度報告相成度候也

追テ昨年組織報告以後ニ於テ團則又ハ團長ニ異動アリタル向ハ此際速ニ報告相成度候也

○青年團施設事項ニ關スル件

（大正九年一月九日　發學第一號照會）

內務部長ヨリ郡市長宛

青年團則ニ掲クル施設事項ハ總ヘテ具體的ニ記スヘキ主旨ニ有之候處往々抽象的ニ掲記シタル者有之從ツテ其ノ事業年々變動シテ修養上徹底ヲ缺クノ處モ有之候ニ付總會開催ノ機ヲ以テ是レヲ改正セシメラレ度若シ改正ノ手續キニ亟ヒ難キ事情アル團體ニ對シテハ別ニ施設事項ヲ具體的ニ決議セシムル樣御指導相成度候也

追テ本文ノ主旨ヨリ團則ニ改正ヲ加ヘタル場合又ハ別ニ施設事項ヲ決議シタル場合ハ遲滯ナク報告セシムル樣御配意相成度候

○青年團員手牒ノ件

（大正七年十二月十六日　發學第二五一號通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

青年團員ヲシテ手牒ヲ携帶シ修養ノ資料ト爲サシムルハ必要ノ義ト被認候ニ付左記事項御了知ノ上來年度新入團員ヨリ可成之ヲ携帶セシムル樣御配意相成度候也

記

一、青年團員手牒ハ別冊ノ樣式ニ依ルコト（代價凡拾貳錢ノ見込）

二、青年團員手牒ハ可成郡市青年團ヨリ交付スルコト

三、從來ノ正團員ト雖本文ノ手牒ヲ交付スルハ之ヲ妨ケサルコト

但シ此ノ場合ハ其ノ實費ヲ本人ヨリ徵收スルコトヲ得

四、從來一定ノ手牒ヲ用フル團體ニ在リテハ適當ノ機會ニ於テ第一項ノ樣式ニ改メシムルコト

五、青年團員手牒ハ可成入團式等ノ場合ニ交付セシメ其ノ際手牒取扱等ニ關シ團長ヨリ適當ノ注意ヲ與ヘシムルコト

青年團員手牒目次

一、團員、氏名、交附年月日

二、手牒取扱心得

一、此ノ手牒ハ團體ノ會合等ニ出席スルトキ必ス携帶スルモノトス

一、此ノ手牒ハ團長ノ定メタル日ニ於テ其ノ檢閱ヲ受クルモノトス

一、此ノ手牒ヲ紛失毀損シタル時ハ其ノ事由ヲ具シテ青年團長ニ申出テ再渡ヲ乞フヘキモノトス

三、勅　勅

四、五箇條ノ御誓文

五、教育勅語

六、戊申詔書

七、憲法發布ノ勅語

八、地方自治制ノ上諭

九、御卽位式勅語

一〇、自分錄

現住所、本籍地、職業、戶主、續柄、誕生年月日、入團年月日、退團年月日、自分異動ノ各欄ニ分ツ

一一、經　歷

年齡、年次、月日、要項、團長認印ノ各欄ニ分ツ

一二、補習教育成績表

科別、學年、年度、學科、授業日數、擔當者、備考ノ各欄ニ分ツ

一三、身體檢査表

年齡、身長、體重、胸圍、疾病、其他、檢査年月日、備考ノ各欄ニ分チ身長、體重、胸圍ノ欄左側ニ文部省調査體格平均數ヲ記ス

一四、勤務表

年次、施行事項、出席回數、團長認印ノ各欄ニ分チ總會、評議員會、講演會、講習會、體育競技會、旅行、登山、遠足、早起會、共同勞役等ニ出席回數ヲ記入ス

一五、團費納入表

年月日、金額、摘要、受領者印、備考ノ各欄ニ分ツ

一六、壯丁檢査表

學力、體格、兵種、備考ノ各欄ニ分ツ

一七、附　記

一、自　誓

此ノ欄内ハ團長其ノ他長上ヨリ特ニ記入ヲ命セラレタル事項ノ外自分ノ最モ感シタル修身上ノ格言又ハ古今東西ノ人物ノ言行ニシテ最モ深ク記憶スヘキ事トモチ自ラ筆ヲ執テ記入シ又平素身ヲ修ムル上ニ於テ勉メテ一ツ二ツツツノ實行上ノ掟ヲ作リ其ノ都度之ヲ記入シ置クモノトス

二、修養年表

毎年　年ノ始メニ於テ豫メ其ノ年内ニ於テ爲スヘキ主ナル事ヲ記入シ年ノ暮レニハ過クル一年ヲ顧ミテ所感ヲモ記入スルモノトス

一八、自　誓

一九、修養年表

二〇、塗備白紙

（手帳ノ樣式ハ別冊ニ依リ尙團則ヲ一枚摺トシテ挿入スル袋ヲ表紙ノ内面ニ附スルコト）

（別冊省）

○青年團旗制定ニ關スル件

（大正六年三月十二日發學第四二號依命照會）

内務部長ヨリ郡市長宛

團旗ハ團體ノ標徽トシテ最尊重スヘキモノニ有之團員集合等ノ場合志氣ヲ振作シ紀律ヲ整正ナラシムル上ニ必要缺ク可カラサルモノト被存候依テ今回青年團組織改造ヲ機トシ左記要項ニ依リ貴郡（市）内町村青年團（校下青年團）團旗御制定ノ樣御取計相成度候也

追テ御制定ノ上ハ其要項形式等御回報相成度候也

記

一、旗ノ大サ

凡　縱三尺、横尺二寸　（共ニ曲尺）

一、旗ノ記入文字竝ニ其ノ配列

○

石川縣	何郡何村
青年團	

一、旗ノ意匠、地質等ハ郡市ニ於テ適宜一定スルコト（質素堅靱ヲ旨トスヘシ）

一、竿ノ長サ　約六尺五寸

一、既ニ團旗ヲ調製シタル團體ニ對シテハ再製ノ際ヨリ郡市制定ノ形式ニ依ラシムルコト

一、團旗取扱法

一、團旗ハ貴顯ノ奉迎送其他運動會等團員カ團體トシテ室外ニ集合スル場合ニ限リ之ヲ樹ツ

一、團旗ノ捧持法ハ鎗ヲ右殷ニ當テ右肘ヲ後ニシテ其ノ拳ヲ肩ノ高サニシ旗頭ヲ前方ニ傾ケシム

一、團旗ノ敬禮法ハ旗手左手ヲ旗竿ニ添ヘテ目ノ高サニ擧ケ旗鎗ヲ右殷ヨリ放スコトナク右手ヲ十分前ニ伸ハスモノトス

一、團旗ハ旗手之ヲ捧持スルモノトス

一、旗手ハ團員中品行方正ナル者ノ中ヨリ選定ス

○郡市青年團旗ニ關スル件

（大正九年四月二十三日發學第八六號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

貴管内町村青年團（校下青年團）ニ對シテハ前年團旗御制定相成候處郡市青年團ニ於テ團旗御調製相成候節ハ左記各項ニ準據候樣御配慮相成度候也

記

一、旗ノ大サ

凡　縱三尺　横四尺二寸（曲尺）

一、旗ノ記入文字竝其ノ配列

○

石川縣	何郡（市）青年團

一、旗ノ地質等ハ各團適宜ト雖モ成ルヘク質素堅靱ヲ旨トスヘシ

一、團旗取扱法

大正六年三月發學第四二號ノ通牒ニ準スヘシ

○地方青年團體指導監督ニ關スル件

（大正二年十月八日
收三親第二七一號依命通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

地方青年團體ニ關シ内務省地方局長ヨリ別紙寫ノ通リ通牒有之候條御了知ノ上其ノ指導監督ニ關シ一層御注意有之度候也

別紙寫

近年各地トモ青年團體ノ發達漸ク著シキヲ加ヘ智德ノ修養風紀ノ改善共同思想ノ涵養其他農事ノ改良副業ノ振興ヨリ夜警消防等各般ノ事ニ渉リテ活動ノ狀頗ル見ルヘキモノアルヲ致シタルハ誠ニ喜フヘキ現象ニ有之是レ畢竟青年各自ノ自覺ト各位ノ指導督勵ノ結果ニ依ル所ナリト雖多數團體ノ内ニハ勳モスレハ其勢力ヲ恃ミテ政治運動ニ干與シ或ハ之ニ利用セラレ若ハ濫リニ町村政ニ容喙スル等時ニ常軌ヲ逸スルノ行動ニ出ツルモノナキニアラサルハ深ク寒心ニ堪ヘサル義ニ有之是等ノ點ニ向テハ各位ニ於モ之カ匡正指導ニ勉メラレツツアルヘキモ今後尙一層之カ戒飭ニ留意シ以テ團體本來ノ目的ヲ遂行セシムル樣致度尤モ青年ヲシテ公事ニ關シ健實ナル智識ヲ修得セシムルハ固ヨリ緊要ノコトト存候モ其本分ヲ忘レテ漫ニ政治運動等ニ熱中スルカ如キハ不可然義ニ付常時最モ之カ指導ニ意ヲ致シ講演講話ノ如キ直接人心ノ歸嚮ニ影響スルモノニ在テハ深ク講師其人ノ撰擇ヲ愼マシムヘキハ勿論團體經營ニ係ル圖書館巡回文庫ノ如キ青年閲讀ノ文書等ニ就テモ之カ撰擇ヲ愼マシムル樣十分注意指導相成度候也

○青年團指導ニ關スル件

（大正十一年三月二日
發文第一二五號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

青年團ニ於テ施行スル事業ニシテ各種ノ法規ニ關係ヲ有スル場合ハ豫メ之ヲ取調ヘ適切ノ處置ヲ執ルヘキハ申スマテモ無之義ニ候處近時勳モスレハ不注意ノ結果ヲ知ラス識ラス違法ノ行動ニ出ツル向有之候ハ甚タ遺憾ニ存候就テハ右ニ關シ各青年團ニ適當ノ指導ヲ與ヘ法規ニ抵觸スルカ如キ行動無之樣注意セシメラレ度候也

追テ參考ノ爲青年團ノ施設事業ニ關係アリト認ムル法規ヲ左ニ揭記致置候

記

一、警察犯處罰令
一、石川縣警察犯處罰令
一、治安警察法
一、出版法
一、銃砲火藥類取締法、同施行規則及細則
一、狩獵法
一、煙火類燃導火線取締規則
一、演藝會取締規則
一、興行取締規則
一、道路取締令及同令施行細則

○青年團體指導方針ニ關スル件

（大正十三年十二月十八日
發文第六一九號通牒）

内務部長ヨリ各郡市長宛

標記ノ件ニ關シ文部省ノ照會ニ基キ今般左記ノ通本縣知事ヨリ回答相成候條團體指導經營ニ資セラレ度候也

記

一、縣ニ於ケル青年團體等指導ノ方針竝ニ目下最モ努力シツツアル施設狀況

青年團ニ對シテハ内務文部兩大臣ノ訓令ニ基キ指導方針ヲ定メ青年團設置要項ヲ示シテ其ノ徹底ヲ期シツツアルモ就中左記ノ事項ニツキ最モ注意ヲ促シツツアリ

(イ)精神ノ振作ニ努ムルコト

講演會講習會ノ開催
勅語詔書奉讀會ノ開催
矯風施設ノ計畫實施
伊勢參宮ノ計畫
社會奉仕事業ノ計畫
其ノ他

(ロ)公民教育ノ徹底ヲ期スルコト

市町村狀況調査
自治法制ノ研究
其ノ他公民訓練ニ關スル施設

第七編　社會教育　第一章　青少年團

(ハ)團體訓練ニ努ムルコト

合宿講習會ノ開催
訓練會ノ開催
團體ノ檢閲
共同作業ノ計畫
其ノ他

(ニ)職業的智能ノ啓發ニ努ムルコト

實業講演講習會ノ開催
試作地ノ經營及實業視察
農工作物等品評會開催
出稼指導ノ徹底
出稼者講習會開催
其ノ他

(ホ)體育ノ向上ニ努ムルコト

生理衛生ニ關スル研究
運動競技ニ關スル研究
體育運動ノ一事實行
各種體育會開催
教練ノ奬勵
其ノ他

處女會ニ對スル本縣ノ指導方針ハ處女會設置要項ヲ示シ之ニ準據セシメツツアルモ就中左記事項ニ留意スルモノトス

(イ)體位ノ向上ヲ期スルコト

生理衛生講話會開催
遠足登山等ノ奬勵
體育會開催
體育運動ノ一事實行
其ノ他

(ロ)家庭生活美化ニ關スル研究ニ努ムルコト
家事講習會講演會開催
消費經濟ノ研究
家庭道德ノ實踐
其ノ他

(ハ)智能ノ啓發ニ努ムルコト
職業教育ノ施設計畫
讀書趣味ノ涵養
常識研究會ノ開催
讀書會、學藝會ノ開催
其ノ他

以上ノ方針ニ依ル實施事項ハ在來ノ如キ斷片的ニシテ且ツ漫然タル計畫ヲ避ケ各施設ニハ系統的ノ連絡ヲ保持セシメ團體ニ在籍スル年數ヲ顧慮シテ適當ナル修養課程ヲ編成シ更ニ之ヲ毎一年度修養材料ニ按配シ以テ繼續タル修養ヲ遂ケシムル樣奬勵シツツアリ

○青年團員出稼者ニ對スル指導ノ件

（大正七年一月十七日　發學第九號通牒）

内務部長ヨリ郡長宛

今般青年團員ノ出稼ニ關シ調査ヲ試ミ候處別表ニ示スカ如ク頗ル多數ニ上リ候ニモ拘ラス是レカ指導ニ關シテハ特ニ方法ヲ講スルモノ殆ト無之爲ニ青年教養上缺陷ヲ生スルハ甚タ遺憾ニ存候條町村青年團長ヲシテ將來指導上一層留意セシメ相當ノ方法ヲ設ケシメラレ度尙參考ノ爲指導方法トシテ左記各項申添候也

記

一、出稼者ヲシテ往復共其ノ發着ヲ團長ニ届出テシムルコト
二、出稼者ヲシテ職業ノ選擇ニ際シ品性ノ修養ニ有害ナルモノヲ避ケシムルコト
三、出稼者ヲシテ時々其ノ職業又ハ出稼地ノ狀況等ヲ青年團長ニ通信セシムルコト
四、出稼者ヲシテ歸鄉ノ際出稼先ノ產物又ハ讀了ノ書籍雜誌等一品以上ヲ小學校若ハ青年團ニ寄附セシムルコト
五、出稼者ヲシテ歸鄉後適當ノ時期ニ於テ出稼中ノ所感所見等ヲ團員ニ談話セシムルコト
六、青年團長ハ時々鄉里ノ狀況ヲ出稼者ニ通信スルコト
七、青年團長ハ時々出稼者ニ對シ學習上ノ問題ヲ送リテ其ノ答案ヲ徵スルコト
八、青年團長ハ出稼者ノ雇主ト時々通信ヲ交換シ出稼者ノ從業狀態等ヲ詳ニスルコト
九、青年團長ハ出稼者ノ通信中有益ナルモノヲ團員ニ同覽セシムルコト
十、青年團ニ於テ出稼者ノ貯金奬勵法ヲ設クルコト
十一、青年團ニ於テ出稼者製造品々評會ヲ開催スルコト
十二、青年團歲出豫算表ニ於テ出稼者指導ニ關スル必要ノ費用ヲ計上スルコト
（別表省略）

○「青年日」設定ニ關スル件

（大正十年九月二日　發學第二二八號照會）

内務部長ヨリ各郡市長宛

縣下青年團ニ於テ從來「青年日」ヲ設定シタル向往々有之候處同問題ハ本年八月青年團幹部養成講習會ノ研究ニ上リ縣下ノ「青年日」ヲ一定スルノ目的ヲ以テ十一月二十二日卽チ青年團ニ關スル　皇太子殿下ノ令旨御下賜ノ日ヲ之カ期日トスル議ヲ可決シ之カ實行方ニ付縣當局ニ意見ヲ陳述スルトコロ有之候然ルニ今回別紙ノ如ク發表セラレタル內務大臣ノ談話ニ依レハ十一月二十三日卽チ國祭日タル新嘗祭ノ當日ヲ以テ「青年日」ト定メ全國的ノ活動ヲ認マレ候ニ就テハ之カ期日ニ關シ夫々意見モ可有之ト存候ヘトモ成ルヘク全國青年ノ精神的結合ヲ圖ル上ヨリ內務大臣ノ意見ニ依リ十一月二十三日ト定ムル方適當ト認メ候條大臣談話ノ趣旨ニ依リ貴管內青年團ニ對シ可然御指導相成度候也

○青年團風紀振肅ニ關スル件

（大正十年二月四日　發學第四八條通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

近時青年ニシテ賭博犯ノ刑ニ觸ルル者頻々トシテ傳ヘラルルハ甚タ遺憾トスル所ナルカ右犯罪者ハ悉ク青年團員ニ在ラサルヤモ計リ難ク候得共數ノ多少ヲ問ハス團員中斯ル非行者ヲ出スハ當ニ其ノ團體ノ面目ヲ汚辱スルノミナラス延イテハ縣下青年團ノ風紀ヲ壞敗スル基ト相成可申ニ付貴管下青年團長ニ警告シ此ノ際一層風紀ノ振肅ヲ圖リ賭博ニ類スル行爲ノ如キハ假令遊戲ト雖一切排斥セシムル樣御配意相成度候也

○冬季青年男女訓練ニ關スル件

（大正十三年十二月十八日　發文第六一八號通牒）

内務部長ヨリ各郡市長宛

冬季青年男女ノ修養事項ニ關シテハ夫々御留意ノ事ト被存候ヘトモ天候ノ關係上屋內塾居ノ陋習ニ慣レ動モスレハ風紀衞生上反省ヲ缺クノ憾有之候ニ就テハ宜內娛樂遊戲ノ選擇ヲ嚴ニシ屋外運動ノ奬勵ニ努メ以テ因襲ノ餘弊ヲ矯メシムル樣此際一層御配意相成度猶本件ニ關シ特ニ大正十年二月四日發學第四八號青年團風紀振肅ニ關スル通牒ノ趣旨十分ニ徹底セシメラレ度候也

○青年團員訓練ニ關スル件

（大正九年四月十三日　發學第七六號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

縣下ニ於ケル本年度徴兵署ハ來ル十九日ヨリ開始可相成處此ノ機會ヲ以テ青年團ニ於ケル團體訓練ノ一方法トシテ成ル可ク青年團長ヲシテ檢丁ヲ引率往復セシメ壯丁受驗ノ狀況ヲ視察セシムルハ勿論從來間々必要ノナキニ受檢地ニ宿泊シ或ハ合格祝ヒ等ヲ催ス者有之候ニ付是等ノ弊風ヲモ防遏セシムル樣御配意相成度候也

追テ青年團長ニ於テ差支アル場合ハ特ニ管轄青年團長ヨリ本文引率方ヲ徴兵署ニ出場スル軍人分會長役場吏員等ニ委囑セシムルモ一方法カト存候此段申添候

○體育競技取締ニ關スル件

（大正九年七月九日　發學第一五二號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

本月一日縣下河北郡花園村今町尋高小學校々庭ニ於テ同村青年團ノ體育會開催中一團員ノ拋擲シタル圓盤其ノ附近ニ佇觀シ居タル小學校兒童ノ頭部ニ當リ負傷セシメタル事實有之候ニ就テハ曩ニ富山縣下ニ於テモ圓盤ニテ大ナル負傷者ヲ出タシタル事實モ有之斯カル競技ニ就テハ頗ル警戒ヲ要スル義ト存候條圓盤投、槍投、砲丸投等ヲ演習スル際ハ特ニ會場ノ取締ニ注意シ危險ノ虞無之樣配意方青年團長小學校長等ニ御示達相成度候也

○青年團見學等ニ關スル件

（大正十年五月六日　收學第二二〇號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

地方青年團ニ於テ觀光見學等ノ旅行ヲ爲ス場合之カ視察箇所其ノ他斡旋方ヲ青年團中央部ニ於テ取扱フヘキニ付爾今右希望ノ向ハ中央部ヘ直接交渉候樣其ノ筋ヨリ申來候間御了知ノ上貴管内青年團ヘ周知セシメラレ度候也

○青年團御陵墓掃除奉仕ノ件

（大正十一年一月二十八日　收文第一七七號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

今般宮内次官ヨリ別紙ノ通依頼候趣ヲ以テ縣下青年團ニ周知方其筋ヨリ申來候間可然御取計相成度候也

別紙

宮内次官ヨリ内務次官宛照會

各地方ノ青年團ニ於テ御陵墓ノ御掃除等奉仕方希望ノ向モ有之趣ニ候處右ハ御陵墓管理上差支ナキ限リ願意採納致度候ニ付爾今希望ノ向ハ地方長官ヲ經由シ當省諸陵頭宛ニ願書提出候樣致度候條其ノ旨地方長官ヘ通達方御取計相成度此段及御依頼候

○青年團檢閲狀況取調ノ件

（大正十年一月十四日　發學第一八號照會）

内務部長ヨリ郡市長宛

大正八年六月郡市長招集ノ際指示相成候樣記ノ件ニ關シ左記事項御取調ノ上折返シ御報相成度候也

追テ本文檢閲施行ノ際ハ豫メ會合ノ日時場所等ヲ郡市青年團長ヨリ知事ニ開申スヘク指示相成居候義ニ付無遺漏右手續ヲ履行セシムル樣御配慮相成度候

記

一、檢閲ヲ施行シタル青年團名及其ノ施行期日
　但シ年度別ニ掲記スルコト
二、檢閲ノ成績ニ對スル郡市青年團長ノ意見

○青年團ニ關シ取調方ノ件

（大正二年六月二十四日　發學第二〇三號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

必要有之候條貴管内青年團ニ關シ左記事項御取調御回報有之度尚又將來青年團聯合シテ大會ヲ開設セントスル者アルトキハ其日時會場及開設スヘキ事由等ヲ具シ其ノ都度開會五日前ニ御報告有之度候也

記

一、選賞セラレタル青年團狀況調

名稱	所在地	創設年月	會員數（特別ニヨリ記入）	最近年度ノ經費豫算	基本金	事業	選賞者	選賞年月	選賞方法	會長（總裁）顧問ノ職業	備考

附記　爾後選賞セラレタル青年團アルトキハ其ノ都度前表ノ事項御報告有之度候

大正　年　月　日現在

二、役員職業調

役員別＼職別	小學校長（教員別數）ヲ以テ任スルモノ	町村長（吏員別數）ヲ以テ任スルモノ	軍人會長（軍人別數）ヲ以テ任スルモノ	有力家又ハ篤志家ヲ以テ任スルモノ	青年ヲ以テ任スルモノ	何々	何々	備考
總數								

大正　年　月　日現在

○青年團竝處女會一覽表提出ニ關スル件

（大正十年一月十三日發學第一四號依命通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

第一樣式

創立年月日	
事務所位置	
團（會）長職業氏名	
大本年度經費	
收入	團（會員）負擔
	共同勞設收入
	公費補助又ハ奬勵金
	其ノ他
	合計
支出	事務費
	集會費
	事業費
	其ノ他
	合計

年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	一

顧問	會長	副會長	幹事	評議員	何々	何々	何々

青年團竝處女會ヲシテ別紙樣式ニ依リ一覽表ヲ調製セシメ毎年四月三十日マテニ御取纏メ御回送相成度候也

追テ大正六年四月六日發學第五五號大正七年一月二十五日發學第二〇號大正八年九月十三日發學第一六〇號ノ依命通牒ハ廢止致候

正年度	
副團（會）長職業氏名	
正團（會）員數	在鄉者
	出稼者
	合計
特別團（會）員數	在鄉者
	出稼者
	合計
團（會）數合計	在鄉者
	出稼者
	合計
團（會）員教育程度調	不就學者
	尋小未卒
	尋小卒
	高小卒
	實學卒
	中學卒
	其ノ他
	合計

豫算額	
支出	事務費
	集會費
	事業費
	其ノ他
	合計

資産		
基本財産	現金	
	有價證券	
	土地（歩數）（價格）	
	建物（棟數）（價格）	
	其ノ他	
	合計	
其ノ他財産	現金	
	有價證券	
	土地（歩數）（價格）	
	建物（棟數）（價格）	
	圖書（冊數）（價格）	
	運動用具（個數）（價格）	
	其ノ他	
	合計	

前年度實施事項	中行事									
	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	

必ズ記載スル事項

第二樣式

團體（會）數	團（會）長種別	正團（會）員其ノ他ノ團（會）員	正團（會）員年齢範圍	當該年度經費豫算	資産	備考

一覽表

備考	25才	24	23	22	21	20	19	18	17	16才	15	14	13	12	計
	人									人					
沿革ノ大要															

記載心得

一本表ハ毎年四月十日現在ニテ調査スルモノトス
一出稼者團員ノ籍ニ在ルモ調査當日他地方ニ滯在シ職業ニ從事スル者ノ數ヲ掲記スルモノトス
一實業學校又ハ中學校、高等女學校等ヲ中途退學シタル者ハ其ノ學歴ニ依リ尋卒又ハ高小卒ノ數ニ加フルモノトス
一土地、建物、圖書、運動用具ノ價格ハ時價ヲ見積リ掲記スルモノトス
一運動用具ノ個數ハ種類ノ何タルヲ問ハス一品一點トシテ計算スルモノトス
一金額ヲ掲記スル場合ハ錢止メトシ厘位以下ヲ切捨ツルモノトス

備考

一、團（會）長種別欄ニハ團（會）員、市町村長、小學校長、名望家等ノ種別ニ依リ各其ノ員數ヲ掲記スルコト
二、正團（會）員及其ノ他ノ團（會）員總數欄ニハ正團（會）員ト其ノ他ノ團（會）員トヲ區別シ各其ノ總數ヲ掲クルコト
三、資産ノ欄ニハ現金、有價證券、土地、建物、植物等ノ種別ニ依リテ其ノ數量ヲ記入シ尚現金有價證券以外ノモノハ該數量ノ下ニ括弧ヲ施シテ見積價格ヲ掲記スルコト
四、豫算欄ニハ各豫算金額ヲ集計シ其ノ總額ヲ記入スルコト
五、處女會ノ狀況モ右樣式ニ依リテ調査シ別紙ニ認メ報告スルコト

○女子青年修養ニ關スル件

（大正十五年十一月二十七日
石川縣訓令甲第八十一號）

支　廳　市　役　所
町　村　役　場　公　立　學　校

女子青年ノ修養ニ關シテハ曩ニ其ノ依進スヘキ所ヲ示シタリ爾來倦勵其ノ宜シキヲ得今ヤ團體ノ設置縣下洽ク實績亦見ルヘキモノナキニアラスト雖一層其ノ普及ヲ促進スルト共ニ其ノ適順スル所ヲ明カニシテ堅實ナル發達ヲ遂ケシムルノ要愈切ナルモノアリ

惟フニ女子青年團體ハ青年女子ノ修養機關タリ其ノ本旨トスル所ハ聖訓ニ基キ青年女子ヲシテ其ノ人格ヲ高メ健全ナル國民タルノ資質ヲ養ヒ女子ノ本分ヲ完カセシムルニアリ之カ指導誘掖ニ關スル方途固ヨリ一ニシテ足ラスト雖特ニ左ノ事項ニ就キテハ深ク意ヲ用ヒムコトヲ要ス

一、忠孝ノ本義ヲ體シ婦德ノ涵養ヲ努ムルコト
一、實生活ニ適切ナル智能ヲ研磨シ勤儉質實ノ風ヲ興スコト
一、體育ヲ重ンシ健康ノ增進ヲ期スルコト
一、情操ヲ陶冶シ趣味ノ向上ヲ圖ルコト
一、公共的精神ヲ養ヒ社會ノ福祉ニ寄與スルコト

晩近內外ノ情勢ハ女子青年團體ノ振興ヲ促シテ止マサルモノアリ局ニ當ルモノ克ク古來ノ美風ヲ稽ヘ日進ノ大勢ヲ察シ督勵指導其ノ宜シキヲ制シ女子青年團體ノ目的ヲ達成スルニ於テ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ

○女子青年團體ニ關スル件

（大正十五年十一月二十七日
收學第二五〇六號通牒）

學務部長ヨリ支廳長市町村長公立學校長宛

女子青年團體ニ關シ今回內務文部兩大臣ノ訓令ニ基キ本月二十七日本縣訓令甲第八一號ヲ以テ訓令相成候處右ハ大正十年一月十七日石川縣訓令甲第二號ト共ニ女子青年團體ノ本旨ヲ明カニシ其ノ普及ヲ促進シ既設ノ團體ニ對シテハ益々健全ナル發達ヲ遂ケシムル趣旨ニ有之候條地方ノ實情ニ考ヘ特ニ左記事項御留意ノ上指導誘掖ニ努メラレ度候也

記

一、團體ノ名稱
地方ノ情況ヲ參酌シ漸次女子青年團ト改稱スルコト
一、團體ノ設置等
團體設置區域、團體員年齢、團體指導者、團體維持方法等ハ大正十年一月十七日石川縣訓令甲第二號ノ趣旨ノ徹底ヲ期スルコト但シ此ノ際特ニ工場商店等ニ對シテモ女子青年團ノ設置ヲ奬勵スルコト
一、團體ノ施設
土地ノ狀況、團體員ノ年齢、境遇心理等ヲ參酌シ特ニ左ノ諸點ニ留意スルコト
(一)家事職業ニ關スル智德ヲ涵養スルト共ニ公共生活ニ必須ナル素養ヲ與ヘ特ニ實業補習學校ノ就學ヲ奬勵シ其ノ徹底ヲ期スルコト
(二)學校圖書館其ノ他ノ教育施設及婦人會等ノ團體ト連繫ヲ持續セシムルト共ニ其ノ援助ニ力ヲ竭サシムルコト

(三)適切ナル講演會、講習會、見學、娯樂會等ヲ開催スルト共ニ健全ナル讀物ノ選擇ニ關シ適當ナル指導ヲ與フルコト

(四)體操競技等ハ特ニ女子ニ適切ナルモノヲ選定スルト共ニ保健衛生思想ノ涵養ニ努ムルコト

(五)良風美俗ノ維持發達ヲ圖ルト共ニ生活ノ改善ヲ期スルコト

(六)自育自成ノ精神ヲ涵養スルコト

○處女會設置要項

（大正十年一月十七日
石川縣訓令甲第二號）

（郡）市役所　町村役場　公立學校

世界戰爭ノ教訓ニ由リ我カ國民ノ警戒反省スヘキ點尠シトセサルモ就中女子ノ德操ヲ進メ身體强健ニシ現代ノ社會ニ順應スヘキ知能ヲ啓發シ男子ト相提携シテ國家ノ進運ヲ扶持スルニ耐フヘキ精神ト素質トヲ養成スルハ洵ニ刻下ノ急務ナリトス故ニ市町村ニ於テハ處女會ノ設立ヲ奬勵シ團體的施設ニ依リテ知德ヲ涵養シ身體ヲ鍛練シ特ニ家庭生活社會生活ヲ理解シ國家ノ現狀世界ノ大勢ニ通曉セシメムコトヲ要ス近時縣下ニ於ケル處女會ハ漸ク其ノ數ヲ增スト雖是レカ組織經營ニ就キ適當ノ指導ヲ與ヘサレハ容易ニ所期ノ成績ヲ擧ケ難キ虞アリ仍テ左ニ處女會設置要項ヲ示シ準據スルトコロヲ知ラシム從來未タ是レカ設置ナキ市町村ニ在リテハ本要項ニ依リテ相當ノ計劃ヲ立ツヘク既設ノ處女會ニシテ本要項ニ適合セサルモノハ漸次改善ヲ加ヘ其ノ發展ヲ企圖スヘシ

處女會設置要項

一、處女會ノ本旨

處女會ハ會員ヲシテ團體的施設ニ依リ婦德ヲ涵養シ身體ヲ鍛練シ實際生活ニ適切ナル知能ヲ研キ心身共ニ堅實ナル婦女タラシメムトスルヲ以テ本旨トス

二、設置區域

處女會ノ設置區域ハ市町村自治區域ト一致セシムルヲ本體トス是レ女子モ亦青年時代ニ於テ思想感情ノ融和統合ヲ圖リ以テ自治體ニ對スル觀念ヲ鞏固ニスルコト極メテ肝要ナレハナリ然レトモ土地ノ狀況ニ依リ集合ニ不便ナル町村等ニ在リテハ小學校ノ通學區域ヲ以テ設置區域トスルモ可ナリ但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ市町村內處女會ノ聯合會ヲ組織スルヲ要ス

三、會員ノ年齡

處女會ハ主トシテ處女ノ修養機關タルヲ以テ義務教育完了期ヨリ婚嫁スルマテノ者ヲ會員トシテ收容スルハ當然ノ事ニ屬ス（補習教育ニアラサル學校ノ學籍ニ在ル者ヲ除ク）然レトモ婚嫁ハ各自ノ事情ニ由リ遲速アルヲ免レサレハ既婚者ト雖年齡二十五歲マテノ者ヲ收容スルコトハ之ヲ妨クス而シテ此ノ場合ニ於テハ未婚者ヲ通常會員ト稱シ既婚者ヲ特別會員ト稱スルモノトス

四、指導者

卒業生ノ指導竝補習教育ト小學校トノ連絡ヨリ見ルモ處女會ト小學校トノ關係ハ甚タ深厚ナルヲ以テ小學校長ハ處女會ノ指導者トシテ最モ適任ナルカ故ニ之カ主臍ノ地位ヲ占ムルハ自然ノ傾向ナリ又市町村長ハ自治團體ノ指導者タレハ小學校長ト相俟チテ有力ナル地位ニ立ツヘキハ當然

ナリトス其ノ他市町村內ニ於テ人格高ク名望ニ富ミ青年女子ノ感化ニ效果アリト認ムル者ハ男女ヲ問ハス前二者ニ加ヘテ之ヲ顧問ニ推戴シ團體ノ施設經營ニ關スル指導ヲ仰クヘキモノトス

又市町村吏員、學校教員、警察官吏、神職、僧侶、醫師、實業技術員其ノ他會員ノ修養上指導者トシテ適當ノ者ハ男女ヲ問ハス選ヒテ之ニ講師ヲ囑託スルハ極メテ肝要ノ事ナリ

五、役　員

會長ハ會員中ヨリ選出スルヲ以テ理想トスルモ現今ノ狀態ニ在リテハ之ヲ指導者中ニ求ムルモ亦止ムヲ得サルコトナルヘシ但シ適當ノ女教員アル場合ハ成ルヘク之ヲ會長ニ推戴セムコトヲ要ス其ノ他副會長、評議員、幹事等ハ總ヘテ會員中ニ就キ選定スヘキモノトス

六、事業ノ經營

處女會ノ事業ハ土地ノ情況ニ應シ最モ適切ナルモノヲ撰擇シ以テ其ノ本旨ヲ達スルニ遺憾ナカラムコトヲ期スヘク而シテ之カ經營ニ就テハ特ニ左ノ各號ニ留意セムコトヲ要ス

(1) 休日及業閑等ノ利用

一般施設事業ノ經營ハ地方ニ於ケル休業日、業閑等適當ノ時期ヲ利用シ生業ヲ妨ケサル範圍內ニ於テ之ヲ爲スヘク若シ夜間ヲ利用セムトスル時ハ其ノ風紀ニ關シ特ニ保障アル場合ニ限ルモノトス

(2) 例　會

毎月一回以上定期又ハ臨時ニ集合シテ會員相互ノ親睦ヲ圖リ學術技藝ノ補習ヲ行ヒ體操競技ヲ練習シ或ハ名士先輩ノ講話ヲ聽聞スルモノトス

(3) 總　會

毎年一回以上定期又ハ臨時ニ之ヲ開キ議事、報告、講話、運動、競技等ヲ行ヒ又ハ名士先輩ノ講話ヲ聽聞スルモノトス

(4) 評議員會

必要ニ應シテ之ヲ開キ重要ノ事件ヲ協議スルモノトス

尙是等諸般ノ施設經營ニ關シテハ必行事項ヲ選ヒテ其ノ遂行方法ヲ定メ或ハ年中行事ヲ選定スル等會員ヲシテ其ノ執ルヘキ行動ヲ周知セシメ以テ本旨ノ貫徹ヲ圖ルコト肝要ナリ

七、維　持

處女會ノ經費ハ會員ノ醵出、共同勞役ノ收入、市町村ノ助成又ハ奬勵金、篤志者ノ寄附若クハ基本財產ヨリ生スル利子等ヲ以テ充當スルモノトス

又處女會ノ基礎根底ヲ鞏固ニスル爲基本金ヲ積立テ年々利殖ヲ計ルハ最モ必要ノコトナリトス

八、娯　樂

處女會ノ指導上考慮ヲ要スヘキモノノ一ハ娯樂問題ナリ娯樂ニシテ健全高尙ナラムカ能ク處女ノ趣味ヲ涵養シ風紀ヲ維持シ會員相互ノ友誼ヲ增シ親睦ヲ敦ウシ延イテ團體ノ結合ヲ鞏固ナラシムルニ最モ有效ナリトス然レハ指導ノ任ニ在ル者ハ卑俗ナル娯樂ノ誘惑ヲ防遏スルト同時ニ會員タル者亦常ニ健全高尙ナル娯樂ヲ撰擇シテ之ニ親マムコトヲ要ス

○婦女會處女會等組織ノ場合報告ノ件

（大正七年一月二十五日
發學第二〇號ノ二通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

爾今貴管内ニ於テ婦女會處女會等ヲ組織シタルモノ有之トキハ其ノ都度創立年月日、會員數、會長氏名ニ會則一部ヲ添ヘ御報告相成度候也

追テ會則ヲ變更シ又ハ會長ニ異動ヲ生シタルトキモ亦其ノ都度報告相成度候也

○青年團員ニ令旨ヲ賜ヒタルニ付奉體方

（大正九年十二月十七日
石川縣訓令甲第七十四號）

（郡）市　役所　町村役場
公立學校

全國青年團代參者ノ明治神宮ヲ參拜スルニ方リ畏クモ東宮殿下ニハ特ニ青年團員ニ對シ優渥ナル令旨ヲ賜ヒ青年ノ嚮フ所ヲ示サセラレ盛意深遠洵ニ感激ニ堪ヘス

顧フニ青年團ノ發達近時見ルヘキモノアリト雖現下内外ノ情勢ニ稽ヘ更ニ一般ノ精采ヲ加ヘシムルノ要アリ團員ヲシテ愈々深ク其ノ責任ヲ自覺シテ將來國運ヲ扶翼スルノ意氣ヲ旺ニシ明ニ立國ノ本義ヲ體得シテ忠亮堅實其ノ歸嚮ニ惑フコトナク固ク自主自立ノ精神ヲ把持シテ勇猛倹遜其ノ修養ニ勵ミ益々健全ナル國民善良ナル公民タルノ素質ヲ充實シ克ク協力一致國體ノ美ヲ遂ケシメ以テ令旨ヲ奉體スルニ萬遺憾ナカラシメラレムコトヲ望ム

○石川縣青年團體事業奬勵資金管理規程

（大正十五年二月十二日
石川縣令第五號）

第一條　天皇皇后兩陛下御結婚滿二十五年ノ御祝儀ニ際シ青年團體事業奬勵ノ御思召ヲ以テ下賜セラレタル金壹萬圓ヲ基本トシ青年團體事業奬勵資金ヲ設ク

第二條　本資金ハ其ノ總額貳萬圓ニ達スル迄每年度縣費ヨリ貳千圓以上ヲ繰入補充スルモノトス

第三條　本資金ヨリ生スル利子ハ青年團體事業奬勵上適當ナル支出ニ充テ尚殘餘ヲ生スルトキハ之ヲ資金ニ編入スルモノトス

第四條　本資金ハ之ヲ特別會計トシ知事之ヲ管理ス

第五條　本規程ニ定ムルモノノ外資金ノ管理ニ關シテハ縣有財產及營造物管理規則第七條ノ規定ヲ準用ス

附　則

本規程ハ大正十四年度ヨリ之ヲ施行ス

○男女少年團體調査ニ關スル件

（大正十年十一月五日
收文第一三六號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

調査上必要有之候ニ付貴管下ニ於テ年齡七、八才ヨリ一二、三才迄ヲ以テ組織セラレタル男女少年團體有之候ハハ每年三月末日現在ヲ以テ左記要項ニ據リ御調査ノ上四月三十日迄ニ同報相成度候也

記

一、郡市内男（女）少年團體狀況調

團體名	團長種別	正團員總數	正團員外ノ團員總數	年齡範圍	資產	當該年度經費豫算

二、沿革大要
三、施設要目
四、青年團體又ハ其ノ他ノ團體トノ連絡狀況
五、郡市最優良團體一團體ヲ選ヒ其ノ事蹟ノ大要

備考

一、團長種別欄ニハ學校長、町村長、團員、有志其ノ他身分ニ依リ分類シ記入スルコト
二、資產欄ニハ基金、建物、器具、圖書其他ヲ記入シ大略見積金額ヲ記入ノコト
三、當該年度經費豫算欄ニハ主ナル支出部面ヲ併記スルコト
四、男女少年團員中年齡ニ於テ男女青年團員ト重複ノモノハ其數記入ノコト

追テ本年ニ限リ十月一日現在ヲ以テ御取調ノ上本月末日迄報告相成度

第二章　圖書館

○圖書館令施行細則

（昭和十一年一月十五日
石川縣令第四十九號）

第一條　本則ヲ適用スル圖書館ハ縣立以外ノ公立又ハ私立ノ圖書館トス

第二條　圖書館設置ニ付認可ヲ受ケムトスルトキ及名稱位置若ハ館則ノ變更又ハ改築ヲ爲サムトスルトキハ豫メ中央圖書館長ノ指導ヲ受ケ其ノ意見書ヲ附シテ申請又ハ開申スベシ

第三條　圖書館設置ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ圖書館令施行規則第一條第一項ノ外左ノ事項ヲ具申スベシ

一、設置ト同時ニ圖書館ニ歸屬スベキ圖書竝ニ設備アルトキハ其ノ數及見込價格

二、私立圖書館ニアリテハ其ノ設置者ノ履歷但シ法人ナルトキハ其ノ定款又ハ寄附行爲

第四條　圖書館廢止ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ圖書館令施行規則第二條ノ外圖書ノ處分方法ヲ具申スベシ

前項ノ規定ハ分館ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第五條　私立圖書館設置者變更ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ圖書館令施行規則第三條ノ外繼承者ノ履歷書又ハ定款寄附行爲ヲ添付スベシ

第六條　私立圖書館ノ館長若ハ代表者ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ履歷書ヲ添付スベシ

之ヲ解任シタルトキハ設置者ヨリ其ノ事由竝ニ年月日ヲ具シ直ニ知事ニ屆出ヅベシ

第七條　私立圖書館ニ於テ司書竝ニ書記ノ異動アリタルトキハ館長若ハ代表者ハ其ノ氏名ヲ直ニ知事ニ屆出ヅベシ

第八條　本細則第二條乃至第六條ニ依リ提出スル書類ハ中央圖書館ヲ經由スベシ

中央圖書館長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ之ヲ知事ニ進達スベシ

第九條　公立圖書館ノ藏書數ハ其ノ利用區域內ノ人口ノ二分ノ一ヲ以テ最低標準トナスベシ

第十條　藏書五千ヲ超エ人口壹萬以上ヲ對象トスル圖書館ニ於テハ成ルベク專任職員ヲ置クベシ

第十一條　公立圖書館職員ノ俸給手當ハ他ノ官職ニ在リテハ俸給ヲ受クル者ト雖モ月額壹圓ヲ最低標準トナスベシ

第十二條　公立圖書館ニ於テハ特種ノ事情ナキ限リ每年度ノ經常費ハ金拾五錢ニ其ノ利用區域內ノ人口數ヲ乘ジタル額ヲ以テ其ノ最低標準トナスベシ

第十三條　圖書館ニ於ケル圖書ノ閱覽ハ無料トスルヲ常例トス

但シ止ムヲ得ザル事情ニヨリ閱覽料ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ事由竝ニ豫算ヲ具シ豫メ知事ノ承認ヲ求ムベシ

第十四條　圖書館ニ於テハ讀書相談ニ應ジ讀書團體ヲ設置スル等適當ナル方法ニヨリ讀書指導ヲナスベシ

第十五條　圖書館ニ於テハ凡ソ左ノ附帶施設ヲナスコトヲ得

一、掲示教育施設
二、講習講演研究座談會等
三、展覽施設
四、印刷物頒布
五、其ノ他適切ナル社會教育施設
前項ノ實施ニ關シテハ各種團體ト共同スルコトヲ得

第十六條　施設經營佳良ナル圖書館又ハ圖書館事業ニ關シ功績顯著ナル者ハ石川縣表彰規程ニヨリ之ヲ選奬ス

○市町村立圖書館施設要項

（大正九年一月十二日
石川縣訓令甲第一號）

（郡）市役所　町村役場　公立圖書館

戰後ノ經營トシテ國力ノ根底ヲ培養スヘキ教育ノ振興改善ヲ策セサルヘカラサル、ハ今更言ヲ俟タス現下教育ノ狀況ヲ見ルニ學校教育ハ各種ノ機關略備リ其ノ進歩著シキモノアリト雖モ一般民人ノ開發訓練ニ資スヘキ社會教育ノ事業ハ遲々トシテ未タ普及發達ヲ見ルニ至ラス而モ之カ振興改善ヲ圖ルハ刻下ノ要務タリ抑斯種ノ教育トシテ施設スヘキ事業多々アリト雖モ就中市町村ニ於テ特ニ其ノ必要大ナルモノハ圖書館ノ施設トスヘシ蓋シ圖書館事業ハ市町村民ノ智識ヲ開發スルト共ニ學校教育ト相俟テ青少年ノ教育ヲ完成スルニ關クヘカラサル重要ノ機關ナレハナリ仍テ左ニ市町村立圖書館ノ施設要項並館則ノ準則ヲ示ス未タ圖書館ヲ有セサル市町村ニ在リテハ其ノ設置ニ付之ニ準據シテ相當ナル計劃ヲ立ツヘク既設ノ圖書館ニ在リテハ更ニ其ノ改善發展ヲ企圖スヘシ

市町村立圖書館施設要項

一、設　備

一、市町村立圖書館ハ必スシモ特別ノ建物ヲ要セス或ハ小學校ノ空室ヲ利用シテ事務室及閲覽室ニ充テ其ノ閲覽室ハ兒童用ニ供スルモノヽ外ハ閲覽者カ携出セムトスル圖書ヲ檢索スルカ若ハ携出ヲ許サヽル參考書ヲ閲覽セシムル用ニ供スルヲ以テ足レリトスルコト

二、書庫ハ開放主義ヲ採リ書架ニ陳列セル圖書ニ就キ直ニ選擇セシムルニ便ナラシムルコト

三、市町村内適當ノ箇所ニ簡易ナル新聞閲覽場ヲ設ケ市町村民ヲシテ往來ノ途上立チナカラ閲覽シ得ル設備トスルコト

二、經　費

四、經常費ハ毎年度少クモ百圓以上トシ其ノ内譯ヲ凡左ノ如ク配當スルコト

館員手當	百分ノ三十
圖書購入費	百分ノ五十
其ノ他ノ諸費	百分ノ二十

三、圖書ノ選擇及充實

五、土地ノ情況ト讀者ノ程度トニ依リ愼重ニ選擇スルコト

六、縣立圖書館圖書目錄及縣立圖書館選定青年用圖書目錄等ニ依リ選擇スルコト

七、地方ノ産業ニ關スル參考書ヲ備付ケ之ヲ利用セシムルコト

八、藏書ハ年々增加ヲ圖リ尙希望者多數ノ圖書又ハ青年必讀書等ハ數部ヲ備付クルコト

九、鄕土資料ハ成ルヘク之カ蒐集ニ努ムルコト

四、閲　覽

一〇、圖書ノ閲覽ハ貸出ヲ本位トシテ經營シ讀者ノ携出請求ニ應スルノミナラス登館請求セサルモノニモ其ノ趣味職業ニ適切必要ト認ムル圖書ヲ配本閲覽セシムル等進取的貸付ノ方法ヲ講スルコト

一一、設立區域大ナル圖書館ニ於テハ定期巡回書庫ノ外必要ニ應シ臨時巡回書庫ノ施設ヲモナスコト

一二、設立區域小ナル圖書館ニ於テハ書藏家庭文庫其ノ他適切ナル施設ヲナシ閲覽ノ便ヲ圖ルコト

五、圖書ノ分類法及帳簿樣式

一三、購入シタル圖書ハ直ニ之ヲ圖書原簿（第一號樣式）ニ登錄シテ一貫番號ヲ附スルコト

一四、原簿ニ登錄ヲ了リタル圖書ハ左ノ例ニ依リ分類シ函架目錄（第二號樣式）ニ記入スルコト

○叢書、辭書

他ノ部門ニ屬セサルモノハ總テ此ノ部門ニ入ルヘシ

一、宗教、哲學、教育
二、經濟、社會
三、法律、政治
四、産業
五、理學、工學
六、醫學、衛生
七、美術、諸藝、武技
八、文學、語學
九、歷史、地誌

鄕土ニ關スルモノハ此ノ部門ニ入ルヘシ

第一號

圖書原簿

月　日（購入又ハ寄附）

登錄番號	圖書名	著者名	出版年紀	分類番號	部數冊數	代價	備考

備考

一、番號ハ年度ニ拘ラス一貫スルコト
二、年度毎ニ頁ヲ改ムルコト
三、寄附ノ圖書ハ圖書名ノ右肩ニ一定ノ符號ヲ付シ備考欄ニ寄附者ノ氏名等ヲ記載スルコト
四、用紙ハ美濃判トシ堅牢ナルモノヲ用フルコト

第二號

函架目錄

書名	出版年紀	著譯編者名	番號	部數	冊數	登錄番號	備考

備考

一、圖書原簿ニ登錄ヲ了リタル圖書ハ施設要項第十四號ヲ分類法ニ依リ分類記入シ一類毎ニ頁ヲ改ムルコト

二、此ノ目錄ハ小圖書館ニ在リテハ圖書目錄ニ兼用スルコト
三、此ノ目錄ハ大人用圖書ト兒童用圖書トヲ分チ二種トスルコト
四、用紙ハ美濃判トシ堅牢ナルモノヲ用フルコト

（準則）

石川縣何郡（市）何町（村）立圖書館規則

第一條　本館ハ社會教育上有益ナル圖書ヲ蒐集シ公衆ノ閲覽ニ供スルヲ以テ目的トス

第二條　本館ハ何郡（市）何町（村）立圖書館ト稱（シ何々小學校ニ附設）ス

第三條　本館ニ館長一人司書何人ヲ置ク

第四條　館長ハ館務ヲ總理ス

司書ハ館長ノ指揮ヲ承ケ館務ニ從事ス

第五條　圖書ヲ寄附セムトスル者ハ目錄ヲ添ヘ館長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第六條　公衆ノ閲覽ニ供スル目的ヲ以テ圖書ヲ委託セントスル者ハ館長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

委託ノ圖書ハ火災盜難等不可抗力ニ依リ損失ヲ來スコトアルモ本館ハ其ノ責ニ任セス

第七條　本館ノ定期休館日左ノ如シ

一、歲　首　　一月一日ヨリ同月五日迄
二、紀元節　　二月十一日
三、曝　書　　八、九月ノ中凡五日間
四、天長節祝日　　四月二十九日
五、歲　末　　十二月二十八日ヨリ同月三十一日迄
六、、、、、　　、、、、、、、、、、、、

前各號ノ外臨時休館ハ其ノ都度之ヲ公示ス

第八條　本館ノ開閉時限ハ館長之ヲ定ム

第九條　閲覽人ハ本館所定ノ諸規定ヲ遵守スヘシ

第十條　圖書ヲ携出借覽セムトスル者ハ館長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　閲覽人圖書ヲ紛失シ又ハ汚損シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條　本館ハ閲覽料ヲ徵セス

第十三條　本館ニハ定期竝臨時ノ巡回書庫ヲ設ク

第十四條　定期巡回書庫ハ左ノ方法ニ依ル

一、本市（町村）何々ニ閲覽所ヲ置ク
二、書庫ノ閲覽所留置期間ハ何箇月トス
三、閲覽所管理者ハ館長之ヲ囑託ス
四、閲覽所管理者ハ滿期日ニ圖書ヲ目錄ニ照合ノ上書庫ヲ本館ニ還付スヘシ
五、閲覽所管理者ハ圖書保管ノ責ニ任ス

臨時巡回書庫ニ關スル規程ハ館長之ヲ定ム

第十五條　本則施行ニ關スル細則ハ館長之ヲ定ム

○圖書館設置奬勵ニ關スル件

（大正十二年十月通牒）

圖書館ノ設置奬勵ニ關シテハ這般郡市長會同ノ際指示相成候次第モ有之夫々御配意ノ事ト被存候得共今後一層圖書館施設ノ促進ヲ圖ルハ社會教育上緊急事タルヲ認メ本年度ヨリ左記要項ニヨリ奬勵金ヲ交付シ之カ普及徹底ヲ期スル計畫ニ有之候條未設ノ向ニ對シ設置方御奮勵相成度候也

記

一、市町村ニシテ大正十二年四月一日以降新ニ圖書館ヲ設置シ、其ノ經營經常費年額百圓以上ヲ計上シタルトキハ、其ノ年度ニ限リ豫算ノ範圍內ニ於テ經營經常費ノ四分ノ一以內ノ奬勵金ヲ交付ス

二、前項ニ該當シ奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル市町村ハ左ノ書類ヲ具シ申請スルコト

1　圖書館設置奬勵金下附申請書

2　奬勵ヲ必要トスル事由

3　當該年度收支豫算書

三、奬勵金ノ交付ヲ受ケタル市町村ハ年度終了後一ケ月以內ニ經費決算書ヲ知事ニ提出スルコト

四、奬勵金交付ノ許可ヲ受ケタル市町村ニシテ設置經營ノ狀況適當ナラスト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ交付金額ヲ減額シ若ハ交付シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ償還セシムルコトアルヘシ

第三章　雜

○夜學設置準則

（明治二十九年十二月二十八日石川縣訓令甲第四十四號）

（郡市役所　町村役場　市町村立小學校）

本縣義ニ夜學設置心得ヲ規定シ之カ勸奬ヲ圖リシト雖モ未タ能ク普ク行ハルルニ至ラス遺憾トスル所ナリ抑常ニ身ヲ其家業ニ役シテ晝間餘暇ナキ青年子弟ノ爲ニ適當ノ季節ヲ選ヒ夜間ニ於テ人倫道德ノ要旨ヲ訓ヘ日用卑近ノ學科ヲ授クルハ啻ニ彼等ノ風儀ヲ匡正スルノミナラス生業上必須ノ智識ヲ附與シ或ハ其既ニ學ヒ得タル所ヲ補習シ延イテ一般教育ニ裨益スルコト尠カラサルモノトス仍テ這回該夜學心得ヲ改正シ更ニ準則トシテ其要項ヲ示ス其普及ヲ實際ニ期スルニ至リテハ固ヨリ地方篤志者ノ齡旋盡力ヲ待タサルヘカラス市町村ニ於テハ此主意ニ據リ適當ノ計劃ヲナサンコトヲ要ス

夜學設置準則

第一條　夜學ハ青年子弟ニ職業ノ餘暇ヲ以テ人倫道德ノ要旨及日用必須ノ學科ヲ教授スルモノトス但學齡兒童ニシテ就學ノ猶豫若クハ免除ノ許可ヲ得タルモノモ其志願ニ依リ教授スルコトアルヘシ

第二條　學科ハ修身讀書作文算術習字トス土地ノ情況ニ依リ修身ノ外適宜學科ヲ減シ又ハ地理歷史ノ內一科若クハ二科ヲ加フルコトヲ得學校程度ハ尋常小學校又ハ高等小學校ノ教科ニ據ルモノトス

第三條　教授期間ハ毎週十八時以內トス

第四條　教場ニハ市町村立小學校々舍ヲ以テ之ニ充ツルモノトス但便宜他ノ場處ニ設クルモ妨ケナシ

第五條　教科ハ小學校教員ニ囑託スルモノトス但相當ノ學力アルモノヲ以テ之ヲ補助セシムルモ妨ケナシ

第六條　經費ハ授業料及寄付金等ヲ以テ支辨スルモノトス

第七條　夜學囑託教員ハ火災豫防等ノ取締ヲナスモノトス

第八條　夜學ノ設置廢止及其開設ノ季節場處ハ市ニアリテハ縣知事町村ニアリテハ（郡長）ニ報告スルモノトス

○兒童虐待防止法施行規則

（昭和八年九月十三日石川縣令第三十五號）

第一條　市町村長及警察署長兒童虐待防止法（以下法ト稱ス）第二條ニ該當スル事實アリト認メタルトキハ左記事項ヲ具シ知事ニ申告スベシ

一、兒童ノ住所、氏名、生年月日

二、保護責任者ノ住所、氏名、職業、兒童トノ續柄

三、親權者又ハ後見人ノ住所、氏名、職業

四、事業ノ要領

五、必要ト認ムル處分ノ種類特ニ家庭又ハ施設ニ委託ヲ要スト認ムルトキハ委託ヲ引受クベキ者ノ住所、氏名、職業

六、其ノ他處分ノ決定ニ付參考トナルベキ事項

第二條　前條ニ掲ゲル者法第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ知事ガ爲シタル處分ニ付其ノ變更又ハ廢止ヲ必要ト認ムルトキハ事由ヲ具シ知事ニ申告スベシ

第三條　法第二條第一項第二號ノ處分ヲ受ケタル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由アルトキハ其ノ旨ヲ知事ニ屆出ヅベシ

一　自己又ハ兒童ニ付住所又ハ居所ノ變更アリタルトキ

二　兒童疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ十日以上ニ亘リ醫療ヲ受ケタルトキ

三　兒童死亡シ又ハ行方不明トナリタルトキ

四　其ノ他兒童ノ身邊ニ著シキ變化アリタルトキ

第四條　知事ハ前條ニ掲ゲル者ニ對シ兒童ノ狀況ニ付報告ヲ徵シ說明ヲ求メ又ハ官吏吏員ヲシテ視察セシムルコトアルベシ

第五條　法第二條及第三條ノ規定ニ依リ兒童ノ委託ヲ受ケタル者（以下受託者ト稱ス）ハ本令ノ規定及知事ノ特ニ命ジタル條件ニ從ヒ兒童ノ養育ヲナスベシ

第六條　第三條及第四條ノ規定ハ受託者ニ付之ヲ準用ス

第七條　知事ハ必要アリト認ムルトキハ兒童ノ委託ヲ廢シ又ハ其ノ特ニ命ジタル條件ヲ變更スルコトアルベシ

第八條　法第四條ノ規定ニ依リ本人又ハ扶養義務者ノ負擔スル費用ハ左ノ通定ム

一　養育ノ費用（教育ノ費用ヲ含ム）市ニ在リテハ一人一日二十五錢
　大聖寺町、小松町、七尾町及輪島町ニ在リテハ一人一日二十二錢
　其ノ他ノ町及村ニ在リテハ一人一日二十錢

二　醫療ノ費用
　診察料　無料但シ往診ヲ要スルモノハ一里ニ付三十錢
　藥治料　一人一日十二錢但シ處方箋ニ依リ藥劑師ノ調劑スル場合ハ一人一日一劑六錢
　處置料　一人一回十錢
　手術料　一人一回　小手術三十錢　中手術一圓
　充塡料　一齒五十錢
　檢査竝ニ注射　一人一回二十錢
　文書料　一件十錢

三　移送ノ費用、實費

前項第二號ノ規定ニ依リ難キモノニ付テハ受託者ハ知事ノ認可ヲ受ケ其ノ都度之ヲ定ムルコトヲ得

第九條　前條ノ費用ハ毎年度四期ニ分チ左ノ時期ニ徵收ス

第一期　七月十五日
第二期　十月十五日
第三期　一月十五日
第四期　四月十五日

第十條　兒童ノ養育、醫療及移送ニ付本人又ハ扶養義務者ニ於テ特別ノ方法ヲ指定シタルトキハ第八條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ實費ヲ負擔セシム此ノ場合ニ於テハ本人又ハ扶養義務者ニ於テ知事ノ指定ニ依リ擔保ヲ供シ若ハ保證ヲ立テ又ハ前條ノ例ニ準シ毎期ノ費用ヲ前納スルコトヲ要ス

第十一條　受託者ハ毎月五日迄ニ計算書ヲ添ヘ前月分ノ養育費ノ下附ヲ申請スベシ

醫療又ハ移送ヲ爲シタルトキハ其ノ都度計算書及證憑書類ヲ添付シ其ノ費用ノ下附ヲ申請スベシ

第十二條　法第七條第一項ニ規定スル業務及行爲ニ兒童ヲ用フル者ニ付テハ第十三條乃至第二十二條ノ規定ヲ適用ス

第十三條　戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ物品ヲ販賣スル業務ニ兒童ヲ用フル者ハ左記事項ヲ遵守スベシ

一　毎月四日以上ノ休暇ヲ與フルコト

二　一日八時間以上就業セシメザルコト

三　午後九時ヨリ午前六時迄ノ間就業セシメザルコト

第十四條　前條ノ業務ニ兒童ヲ用フル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ兒童ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトアルベシ

一　法第二條ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタルトキ

二　法令ノ規定ニ違反シタルトキ

三　公益ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキ

第十五條　第十三條ノ業務ニ尋常小學校ノ教科ヲ修了セザル兒童ヲ用ヒントスル者ハ知事ノ許可ヲ受クベシ

第十六條　前條ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左記事項ヲ具シ書面ヲ以テ申請スベシ

一　兒童ノ住所、氏名、生年月日、學歷

二　親權者又ハ後見人ノ住所、氏名、職業

三　兒童ヲ用フル者ノ住所、氏名、職業、經歷及兒童トノ續柄

四　物品ノ種類、販賣ノ態樣殊ニ時間、區域及方法

五　兒童ヲ用フル期間

六　報酬ノ額及方法、前借アルトキハ其ノ額、辨濟ノ期限及方法

七　通勤又ハ住込ノ別、休暇、衣食ノ給與方法、教育其ノ他兒童ノ處遇方法

前項ノ申請書ニハ兒童ノ戸籍謄本、健康診斷書及雇傭契約ノ約款ヲ添付スベシ

第十七條　第十五條ノ許可ヲ受ケタル者前條第一項第四號乃至第七號ニ掲ゲル事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ知事ノ許可ヲ受クベシ前條第一項第一號乃至第三號ニ掲ゲル事項ニ變更アリタル場合又ハ兒童ノ雇止ヲ爲シタル場合ハ其ノ事由ヲ具シ直ニ知事ニ屆出ヅルコトヲ要ス兒童死亡シ又ハ行方不明トナリタル場合亦同シ

第十八條　戸戸ニ就キ又ハ道路ニ於テ歌謠、遊藝其ノ他ノ演技ヲ行フ業務ニ兒童ヲ用フルコトヲ得ズ但シ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル兒童ヲ用フルニ付知事ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　前條但書ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケントスル者ニ付テハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　第十三條及第十七條ノ規定ハ第十八條但書ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　第十五條及第十八條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ之ヲ停止若ハ制限スルコトアルベシ

一　不實ノ申告ヲ爲シ許可ヲ受ケタルトキ

二　法第二條ノ規定ニ依ル處分ヲ受ケタルトキ
三　法令ノ規定又ハ許可條件ニ違反シタルトキ
四　公益ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルトキ

第二十二條　左ニ掲グル業務又ハ行爲ニ兒童ヲ用フルコトヲ得ズ
一　不具畸形ヲ觀覽ニ供スル行爲
二　乞食
三　輕業曲馬其ノ他危險ナル業務ニシテ公衆ノ娯樂ヲ目的トスルモノ
四　藝妓酌婦女給其ノ他酒間ノ斡旋ヲ爲ス業務

第二十三條　法第八條ノ規定ニ依ル證票ハ左ノ樣式ニ依ル

樣式

第　號　昭和　年　月　日交付

縣印
官職氏名

兒童虐待防止法第八條　地方長官ハ第二條若ハ第三條ノ規定ニ依ル處分ヲナシ又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ兒童ノ住所若ハ居所又ハ兒童ノ從業スル場所ニ立入リ必要スル調査ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ證票ヲ携帶セシムベシ

兒童虐待防止法第十一條　正當ノ理由ナクシテ第八條ノ規定ニ依ル當該官吏若ハ吏員ノ職務執行ヲ拒ミ妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ兒童ヲシテ答辯ヲ爲サシメズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲サシメタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

壓八センチメートル　横十センチメートル　中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「兒童調査證票」ト記ス

附　則

本令ハ兒童虐待防止法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條第四號ノ規定ハ本令施行前大正六年十月二日石川縣令第四十二號藝妓取締規則第二條ノ規定ニ依リ藝妓營業ノ免許ヲ受ケタル兒童ニ關シテハ之ヲ適用セズ

前項ノ規定ニ依リ兒童ヲ用フル者ハ左記事項ヲ遵守スベシ

一　第十六條第一項第一號乃至第三號及第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ屆出ヅルコト其ノ變更アリタルトキ亦同シ
二　午前零時ヨリ午前七時迄ノ間就業セシメザルコト

第二項ノ規定ニ依リ兒童ヲ用フル者前項ノ規定ニ違反シタルトキハ兒童ヲ用フルコトヲ禁止スルコトアルベシ

○少年教護法施行細則

（昭和九年十月二十日　石川縣令第三十五號）

第一條　少年教護法施行令第四條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ特別ノ教科用圖書ノ使用ヲ必要トスル理由ヲ記載シ且使用スベキ圖書ヲ添附スベシ

第二條　少年教護院長少年教護法施行令第五條第一項但書ノ規定ニ依リ毎週教授時數ヲ減ズルトキハ其ノ減ズベキ期間及時數ヲ知事ニ屆出ヅベシ

第三條　少年教護法施行令第八條但書ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ本人ノ履歷書ノ外左記事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スベシ

一　採用ヲ必要トスル特別ノ事由
二　教護ヲ掌ルニ適當ト認ムル理由

第四條　少年教護法第七條ノ規定ニ依ル少年教護院ニ於テ教護ヲ掌ル職員ヲ採用シタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ氏名、資格、履歷ヲ知事ニ屆出ヅベシ

第五條　少年教護院長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由アルトキハ直ニ其ノ旨知事ニ報告スベシ

一　少年教護法施行規則第十一條第二項又ハ第二十三條第一項ノ規定ニ依リ少年ノ入院又ハ引渡ヲ了シタルトキ
二　少年死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキ
三　其ノ他少年ノ行狀身邊ニ著シキ變化アリタルトキ

第六條　少年教護法施行規則第六條第七條及第八條ニ依ル書類ハ少年教護院長ヲ經由スベシ

少年教護院長前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ之ニ意見ヲ附シ知事ニ進達スベシ

第七條　少年教護委員ハ毎月一回其ノ觀察ニ付セラレタル少年ノ狀況報告書ヲ作成シ意見ヲ附シテ之ヲ知事ニ提出スベシ但シ第五條第二號又ハ第三號ニ該當スル事由アルトキハ直ニ其ノ旨知事ニ報告スルコトヲ要ス

少年教護委員假退院中ノ少年ニ關シ前項ノ報告ヲ爲シタルトキハ其ノ寫ヲ關係少年教護院長ニ送付スベシ

第八條　少年教護法第十條第二項又ハ第十四條ノ規定ニ依リ少年ノ委託ヲ受ケタル者（以下受託者ト稱ス）ハ本令ノ規定及委託ヲ爲シタル者ノ命ジタル條件ニ從ヒ少年ノ監護養育ヲ爲スベシ

第九條　受託者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由アルトキハ直ニ其ノ旨知事及少年ノ在院スル少年教護院ノ院長又ハ委託ヲ爲シタル者ニ屆出ヅベシ

一　自己又ハ少年ノ住所又ハ居所ノ變更アリタルトキ
二　少年死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキ
三　少年假退院處分ノ指定條件ヲ遵守セザルトキ
四　其ノ他少年ノ行狀身邊ニ著シキ變化アリタルトキ

第十條　知事ハ必要アリト認ムルトキハ受託者ニ對シ少年ノ狀況ニ關シ報告ヲ徵シ說明ヲ求メ又ハ官吏吏員ヲシテ觀察セシムルコトアルベシ

第十一條　少年教護法第十六條ノ規定ニ依リ在院委託及一時保護ニ要シ

タル費用ハ之ヲ本人又ハ其ノ扶養義務者ヨリ徵收ス但シ事情ニ依リ之ヲ減免スルコトヲ得

第十二條　前條但書ニ依リ費用ノ減免ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ申請スベシ但シ在院者ニ付テハ少年教護院長ヲ經由スベシ

少年教護院長前項ノ書類ヲ受理シタルトキハ之ニ意見ヲ附シ知事ニ進達スベシ

第十三條　警察署長又ハ市町村長少年教護法第十四條ノ規定ニ依リ一時保護ヲ爲シタル場合ニ於テハ左記事項ヲ記載シタル調書ヲ知事ニ提出スベシ

一　委託ニ要シタル費用

二　扶養義務者ノ氏名、住所、費用負擔能力ノ有無

第十四條　少年教護法第十條第二項及第十四條ニ依ル委託ノ費用ハ左ノ限度ニ依ル

一　市ニ在リテハ一人一日三十錢

二　其ノ他ノ町村ニ在リテハ一人一日二十五錢

第十五條　市町村長府縣ノ負擔スル費用ノ繰替支辨ヲ爲シタルトキハ毎年度九月末日及三月末日迄ニ計算書及支出ニ關スル證憑書類寫ヲ添附シ知事ニ辨償ヲ請求スベシ

附　則

本令ハ少年教護法施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス

○少年教護法施行細則取扱手續

（昭和十年一月十二日
石川縣訓令甲第十五號）

內務部學務部
警察部市役所
町村役場警察署
學校少年教護委員

第一條　少年教護法施行規則（以下規則ト稱ス）第六條及第七條ノ規定ニ依ル願書ハ別記第一號樣式ニ依ルベシ

第二條　規則第八條ノ規定ニ依ル具申書ハ別記第二號樣式ニ依ルベシ

第三條　少年教護委員ハ其ノ觀察ニ付セラレタル少年ニ付遲滯ナク身上調査ヲ行ヒ別記第三號樣式ノ少年觀察簿ヲ調製スベシ

第四條　少年教護法施行細則（以下細則ト稱ス）第七條ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ別記第四號樣式ニ依リ翌月十五日迄ニ報告スベシ

第五條　細則第十三條ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ別記第五號樣式ニ依ルベシ

第六條　市町村長細則第十五條ニ依リ知事ニ請求スル計算書ハ別記第六號樣式ニ依ルベシ

第七條　受託者ヨリ知事ニ對シ委託及一時保護ニ要シタル費用ヲ請求スル書類ハ別記第七號樣式ニ依リ委託シタル者ヲ經由提出スベシ

第一號樣式

入院願書

本籍地
現住所
本人氏名
生年月日

石川縣知事殿

調書

右今般石川縣青成院ニ入院致サセ度候ニ付御許可相成度左記本人身上調書並ニ戸籍謄本相添ヘ此段願上候

年　月　日

本籍地
現住所
親權者氏名　㊞

少年ニ關スル事項						
履歷	學歷					
	經歷					
性行	性質					
	操行					
	疾病					
	境遇					
少年トノ關係						

出願者ニ關スル事項	
職業	
履歷	
資產及生活程度	
在院費負擔能力	
家庭ノ狀況	
入院ヲ必要トスル理由	

調書記載上ノ注意

一、操行ハ特ニ善、不善ノ習癖ヲ明ニスルコト

二、資產及生活程度欄ニハ動產不動產ノ額、戶數割納付額等ヲ記載スルコト

第二號樣式

要敎護少年入院具申書

少年	
氏名	
生年月日	
本籍	
住所	
學歷	
經歷	
環境	
不良性原因	
不行爲ノ事實	

世帶主									
氏名	生年月日	本籍	住所	敎育	職業	少年ト關係ノ	性行	費用負擔ノ能否及程度	備考

年	
性質	
行狀	

家族		入院ヲ必要トスル理由	生活狀態	必要ト認ムル處分ノ種類
氏名				
少年ト關係				
職業				
性行				

右少年敎護法第十三條ニ依リ具申候也

年　月　日

石川縣知事　殿

（備考）

職氏名㊞

一、世帶主トハ少年ノ現ニ屬スル世帶主ヲ謂フ
二、家族トハ現ニ少年ノ屬スル世帶ニ同居スル家族ヲ謂フ
三、戸籍謄本ヲ添付ノコト

第三號樣式

少年觀察簿

第號	調製年月日 昭和　年　月　日	觀察ニ付セラレタル年月日	昭和　年　月　日
氏名		觀察解除ノ年月日	昭和　年　月　日
生年月日		具申者又ハ出願者	
本籍		觀察ニ付セラレタル事由	
出生地		不良性原因	
住所		不行爲事實ノ	
學歷		環境 家庭	
經歷		環境 交友	
成育ノ經過			
性質			
體質			
平素ノ嗜好			
平素ノ據忌			

第四號樣式

年　月　日

石川縣知事　殿

住所

少年教護委員名

年　月分少年狀況報告

少年名	觀察ニ付セラレタル期日	昭和　年　月　日
少年ノ住所		
心身ノ狀況及行狀		

教護上ノ指示事項		假退院處分ノ指定條件	
世帶主 氏名	生年月日	少年ト關係 氏名	
本籍		職業	
住所		性行	
少年ト關係			
教育			
職業			
信仰			
性行			
家族			

學業成績及勤惰ノ狀況	
職業ニ關スル狀況	
生活狀況	
住居交友及娛樂ノ狀況	
世帶主並ニ家族トノ關係	
觀察方法及狀態	
教護ノ概要	
其ノ他參考トナルベキ事項	

第五號樣式

要教護少年一時保護調書

住所	
氏名及生年月日	
少	

觀察ノ經過

年月日	事項

年ニ關スル事項

履歷	學歷
經歷	性質

性行

性質	操行	疾病	境遇

扶養義務者ニ關スル事項

住所	氏名及年齡	職業	資產及生活程度	費用負擔能力有無

委託ニ關スル事項

受託者ノ住所	氏名又ハ團體名	職業又ハ事業種類	委託費用

右少年教護法施行細則第十三條ニ依リ進達候也

年　月　日

職氏名　㊞

石川縣知事　殿

第六號樣式

自昭和　年　月
至昭和　年　月少年教護法第十四條ノ規定ニ依ル一時保護ニ要シタル立替費用弗償金計算書

一金　圓　錢也

內譯

一時保護ヲ爲シタル少年		委託ヲ受ケタル者		一時保護ヲ爲シタル期間	日數	單價	金額	摘要
住所	氏名	住所	氏名（又ハ施設者）	自　月　日 至　月　日	日	圓	圓	

右請求候也

昭和　年　月　日

石川縣知事　殿

市町村長　氏　　名㊞

第七號樣式

一金　圓　錢也　請求書

內譯

受託保護シタル少年		受託シタル期間	一日ノ費用	金額	摘要
住所	氏名	自　月　日 至　月　日間	錢	圓	

右ノ通及請求候也

昭和　年　月　日

石川縣知事　殿

受託者　氏　　名㊞

○社會教育資料ノ送付方ニ關スル件

（昭和七年五月十一日
收社教第一八六號通牒）

學務部長ヨリ市町村長中等學校長小學校長宛

文部省ニ於テハ今後廣ク社會教育ニ關スル內外ノ資料ヲ蒐集シテ組織的ニ調査研究ヲ進メラルルコトト相成候ニ付貴管下ニ於テ調査又ハ刊行相成タル標記資料取纏メノ上社會教育課ヘ可成三部宛送付相成樣致度尙今後右資料出來ノ節ハ其都度送付方相煩度

○婦人團體衞生施設ニ關スル件

（大正十五年一月二十五日
發文第七五二號通牒）

內務部長警察部長ヨリ郡市長宛

衞生思想ノ向上ヲ期スルハ最モ緊要事ニ有之殊ニ死亡率ノ高キ本縣ノ如キ一層其ノ必要ヲ被感從來各種ノ施設ニ依リ其ノ向上ニ資シ居リ候ヘ共未タ以テ十分ナル成果ヲ得サルハ甚タ遺憾トスル所ニ候蓋シ之カ速進ノ方法ハ多々アルヘシト雖先ツ比較的衞生思想幼稚ナル婦人ヲシテ速ニ覺醒セシムル要可有之ト信シ候條克ク學理ノ研究ト實際施設トニ留意セシメ以テ保健ノ實ヲ收メ候樣部內處女會主婦會等關係方面ニ對シ御奬勵相成度候也

追テ左記事項同時ニ周知方御取計相成度

記

一、衞生上婦人ニ於テ尤モ注意ヲ要スト認メラルル事項
　1 家庭衞生（衣、食、住）
　2 應急處置及看護法
　3 姙娠分娩及育兒
　4 傳染病豫防
二、講師派遣

處女會主婦會等婦人團體ニ於テ衛生ニ關スル講習會、講話會並乳兒展覽會等開催ニ際シ講師等ノ派遣ヲ希望スル場合ハ縣關係吏員及其ノ他講師中ヨリ精々派遣可致ニ付希望ヲ向ハ日時、會場、聽講者種別及希望講演題等ヲ具シ開催前七日迄ニ申請スルコト

○男女青年保健ニ關スル件

（昭和四年五月二十五日
發學第七四二號依命通牒）

學務部長ヨリ支廳長市町村長小學校長宛

國民保健ノ向上ヲ期スルハ最モ緊要ノ事ニ有之殊ニ死亡率高キ本縣ノ如キ一層其ノ必要ヲ被感從來各種ノ施設ニ依リ之カ對策ヲ講シ居リ候ヘトモ未タ十分ナル成果ヲ得サルハ甚タ遺憾トスル所特ニ最近ノ本縣壯丁檢査ノ結果ニ徵スルニ國民ノ中堅タル青年ニシテ結核性疾患著シク增加シ年々體位低下ノ傾向アルヲ認メラルルハ實ニ寒心ニ堪エサル次第ニ有之候

申ス迄モ無ク健康ハ生活ノ基調ニシテ寸時モ等閑ニ附スヘキ儀ニ無之夫々研究改善ノコトト被存候ヘトモ就中青年男女ヲシテ克ク體育衛生ニ理解セシメ一ハ青年自身ノ健康ヲ增進シ一ハ地方保健運動ノ先驅タラシメ以テ共同ノ幸福ヲ得セシムルハ眞ニ急務中ノ急務ナリト信シ候條貴部內男女青年團體ニ對シ右趣旨ノ徹底ヲ圖リ各適切ナル方途ヲ講シ不斷ノ努力ヲ之カ實行ニ致サシメ其ノ實績ヲ收メシムル樣御配意相成度此段及依命通牒候

追テ左記事項ハ之カ團體別ニ團員ヲシテ調査セシメ毎年七月十日限リ團體事務所所在地ノ小學校長之ヲ取纏メ御報告相成度

記

一、男女青年團健康增進ニ關スル事業計畫狀況
　1、日常ニ於ケル團員必行事項
　2、團體トシテ實施スル年中行事
　3、出稼者ニ對スル保健指導ノ狀況
　4、其ノ他詳細ニ記入スルコト
二、右事業實施ノタメ團員ノ健康ニ及ホシタル影響（可成詳細ニ具體的ニ記入シ抽象的ニ陷ラサルコト）
三、團體員身體檢査ノ成績
　1、毎年六月迄ニ團體員全部ノ身體檢査ヲ施行シ「學生、生徒、兒童身體檢査統計表」ニ準シ之ヲ集計スルコト
　2、疾病及身體發達ノ狀況ハ特ニ嚴密ニ調査スルコト
　3、身體檢査ハ團體ノ事業中ニ必ス加フルコト

第八編　學校衛生

○學校清潔方法

（昭和二年三月五日
石川縣訓令甲第十號）

支廳
市役所
町村役場
公私立學校

學校清潔方法ニ付テハ大正十五年文部省訓令第二十六號ニ準據シ之ヲ實施スルノ外特ニ左記事項ニ留意シ之カ實績ヲ擧クルニ力メラルヘシ

一、清潔法ニ從事スル兒童ハ尋常小學校第四學年以上ノモノタルコト
二、清潔法施行ハ受持教員ノ指導監督ノ下ニ於テ之ヲ爲スコト
三、便所ノ掃除ハ毎日小使若ハ雇夫ヲシテ嚴重ニ之ヲ行フコト
四、清潔後用具ノ仕末ヲ最モ適當ニスルコト
五、不健康ト認メタル生徒兒童ニハ掃除ヲナサシメサルコト
六、掃除ヲナス生徒兒童ニハ必ス專用ノ「マスク」ヲ用ヰシムルコト

附則

明治三十年一月二十九日石川縣訓令甲第三號ハ之ヲ廢止ス

○「トラホーム」豫防法施行細則

（昭和三年四月七日
石川縣令第十九號）

（改正）昭和七年石川縣令第九號、一〇年同第四九號、一一年同第三三號

第一條　「トラホーム」豫防法第四條第一項第一號ニ依リ左ノ者ニ對シ檢診ヲ施行シ其ノ期日及場所ハ之ヲ告示ス

一　其ノ年徵兵適齡者
二　旅店、下宿屋、鑛泉宿、料理屋、飲食店、カフエー、喫茶店、理容術店、湯屋、貸席、待合茶屋、芝居茶屋、貸座敷、劇場、活動寫眞館、寄席、遊技場其他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル營業者並ニ從業者ニシテ直接客ニ接スル者
三　產婆、看護婦、鍼術、灸術、按摩術營業者、療術行爲者其ノ他直接客ニ接スル業務ニ從事スル者
四　工場ニ於ケル從業者
五　其ノ他必要アリト認ムル者

「トラホーム」豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ臨時檢診ヲ行フコトアルベシ

第二條　公立私立ノ學校幼稚園ノ長ハ其ノ職員生徒兒童園兒等ニ對シ毎年四月、十月ノ二回「トラホーム」ノ檢診ヲ施行スベシ

第三條　市町村長ハ第一條ノ檢診ニ依リ發見シタル患者ニ對シ別記第一號樣式ノ治療票ヲ公立私立ノ學校幼稚園ノ長ハ前條ノ檢診ニ依リ發見シタル患者ニ對シ別記第二號樣式ノ治療票ヲ交付スベシ

第四條　治療票ノ交付ヲ受ケタル患者又ハ其ノ保護者ハ醫師ノ指示ニ從

ヒ治療ヲ受ケ若ハ受ケシメ其ノ都度治療票ニ證印ヲ受クベシ

第五條　「トラホーム」全治シタルトキハ患者若ハ其ノ保護者ハ速ニ其ノ旨第三條ノ長ニ届出テ治療票ヲ返納スベシ

第六條　治療票ヲ毀損亡失シ若ハ其ノ證印欄餘白ナキニ至リタルトキハ速ニ第三條ノ長ニ届出テ再交付ヲ受クベシ

第七條　「トラホーム」患者住所ヲ移轉シタルトキハ五日以内ニ其ノ旨市町村長又ハ警察官吏ニ届出ヅベシ

第八條　警察官吏衛生官吏及市町村吏員ハ隨時第四條ノ治療票ヲ査閲スルコトアルベシ

此ノ場合患者又ハ其ノ保護者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第九條　「トラホーム」豫防法施行規則第二條第一項ニ依リ「トラホーム」豫防施設ヲ爲スベキ場所左ノ通指定ス

一　續泉宿、理容衛店、貸席、貸座敷、飲食店、カフエー、喫茶店、待合茶屋、芝居茶屋、貸席、遊技場、百貨店

二　社寺、説教場、教會堂其ノ他ノ禮拜所

三　公會堂、圖書館、集會場、其ノ他公集ノ集合スル場所

四　其ノ他警察署長ノ必要ト認メ指示シタル場所

第九條ノ二　市町村ニ於テ「トラホーム」公設治療所ヲ設ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ヅベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

一　治療所ノ位置

二　開始年月日並期間

三　醫師並看護婦ノ住所氏名

四　治療スベキ患者ノ範圍

前項第一號、第三號、第四號ノ事項ヲ變更シタルトキハ速ニ届出ヅベシ

第十條　市町村ニ於テ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲金三千圓以上ノ支出アリタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ補助ス但シ特別ノ事由アルトキハ增額スルコトアルベシ

一　豫防ノ爲要シタル諸費ニ對シテハ其ノ六分ノ一

二　治療ノ爲要シタル諸費ニ對シテハ其ノ四分ノ一

第十一條　「トラホーム」ノ豫防並治療ニ要シタル費用ニ對シ寄附金補助金其ノ他ノ收入アリタルトキハ之ヲ控除シタルモノニ付補助スルモノトス

第十二條　補助申請書ニ記載セル支出金額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ付補助スルモノトス

第十三條　第四條第六條第七條ニ違背シ又ハ第八條ノ査閲ヲ拒ミタルモノハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年六月石川縣令第五十六號「トラホーム」豫防治療費補助規程明治四十三年四月石川縣訓令第八號學校生徒ニ關スル「トラホーム」豫防規程ハ之ヲ廢止ス

（第一號樣式）

「トラホーム」治療票

市町村名

症狀	手續第四條ノ分類ニ依リ記入スルコト	住所	郡 市 村町	氏名年齡	年 月 日生
檢診年月日	昭和　年　月　日				
本票ノ交付年月日	昭和　年　月　日	治療醫			
全治年月日	（醫師ノ證印ヲ要ス）				

注意事項

一　全治ニ至ル迄怠ラズ醫師ノ治療ヲ受ケ其ノ都度本票ヲ治療醫ニ差出シ證印ヲ受ケ若シ證印欄盡了シタルトキハ速ニ其旨市町村長ニ届出テ再交付ヲ受クルコト

一　本票ハ患者若ハ保護者ニ於テ大切ニ保存シ警察官吏衛生官吏又ハ市町村吏員ヨリ提示ヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ提示シ若シ毀損亡失シタルトキハ速ニ其ノ旨市町村長ニ届出テ再交付ヲ受クルコト

一　患者ノ手拭「ハンカチーフ」ノ類ハ專用トシ妄リニ健康者ノモノト混用セザルハ勿論常ニ其ノ清潔ヲ保持スルコト

一　洗面器ハ患者用ト健康者用トヲ區別シ妄リニ共同使用ヲ爲サザルコト

一　患者ノ使用シタル手拭「ハンカチーフ」洗面器ノ類ヲ他人ニ交付シ又ハ使用セシメントスルトキハ煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト

一　眼脂涙液ヲ拭フニハ清潔ナル專用ノ布片脱脂綿ノ類ヲ用ヒ時々煮沸スルカ又ハ熱湯ヲ以テ洗淨スルコト

一　指爪ハ常ニ短ク剪除シ頻而手指ノ清潔ニ注意スルコト
一　作業ノ場所及教室ハ成ルベク塵埃ノ飛散ヲ防ギ換氣採光ニ注意スルコト
一　以上ノ外消毒其ノ他ノ豫防方法ニ付テハ主治醫ノ指示ニ從ヒ實行ヲ怠ラザルコト

月	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日
醫師治療證印	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日
月															
月															
月															

（第二號樣式）　表

「トラホーム」治療票

學校（幼稚園）名

患者ノ學年	氏名	生年月	症狀	手續第四條ノ分類ニ依リ記入スルコト	保護者ノ住所氏名竝ニ患者トノ續柄

檢診年月日	檢診醫

本票交付ノ年月日	再交付ノ場合ハ最初交付ノ年月日モ併記スルコト

全治年月日	（醫師ノ證印ヲ要ス）

治療醫

注意事項

一、全治するまで怠らず醫師の治療を受け其の都度本票を治療醫に差出し證印を受け若し證印欄盡きたならば速に其の旨校長（園長）に届出で再交付を受けなさい
一、本票は大切に保存し學校（幼稚園）の先生又は警察官吏等より提示を求められたときは直に之を提示し若し破けたり、なくなつたりしたときは速に其の旨校長（園長）に届出で再交付を受けなさい
一、「トラホーム」は治療を怠ると盲になることがありますから先生やお醫者の指示に從ひ根氣よく治療を續けねばなりませぬ
一、「トラホーム」の消毒其の他の豫防方法に付ては先生やお醫者の指示事項を能く守り之を實行しなくてはなりませぬ

裏

日	一日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日
日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	二十一日	二十二日	二十三日	二十四日	二十五日	二十六日	二十七日	二十八日	二十九日	三十日	三十一日
月															
月															
月															
月															

醫師治療證印

○「トラホーム」豫防法施行手續

（昭和三年四月七日　石川縣訓令甲第十號）

內務部學務部
醫察部醫察署
市役所町村役場
縣立學校市町村立學校
私立學校私立幼稚園

第一條　「トラホーム」豫防法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第一條ノ檢診施行ニ關スル告示アリタルトキハ檢診場所々在地ノ市町村長ハ醫察署長ト協議ヲ遂ゲ其ノ場所ニ付相當ノ設備ヲ爲スベシ

第二條　公立私立ノ學校幼稚園ノ長細則第二條ノ檢診ヲ施行スルトキハ豫メ其ノ日時及檢診人員ヲ報告スベシ

第三條　醫察署長ハ細則第一條ノ檢診施行ノ際醫察官吏ヲ派遣シ場內ノ整理取締其ノ他ノ庶務ニ從事セシムベシ

第四條　「トラホーム」ノ診斷分類概ネ左ノ標準ニ依ルベシ

重症

一　結膜ニ汎ク顆粒簇生スルモノ、顆粒ノ發生ト共ニ乳嚢ノ增殖著シキモノ又ハ炎症高度ニシテ分泌旺盛ナルモノ

二　「トラホーム」性「パンヌス」ヲ起シ其ノ進行中ニアルモノ

輕症

一　顆粒ノ發生、乳嚢ノ增殖等「トラホーム」性病變ガ瞼結膜ノ內外背部半月狀襞襞又ハ穹窿等ニ限局スルモノ

二　結膜ニ於ケル病變輕度ニシテ分泌少キモノ

疑似症

一　「トラホーム」ニ類似スル症狀アルモ直ニ「トラホーム」ト診定シ難キモノ

二　結膜ニ「トラホーム」經過ノ疑アル瘢痕アリテ炎症ヲ伴フモノ

第五條　市役所、町村役場、醫察署及公立私立ノ學校幼稚園ニハ別記第一號樣式ノ患者名簿ヲ備ヘ異動アル每ニ整理スベシ

第六條　醫察署長「トラホーム」豫防法第三條第一項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行セムトスルトキハ豫メ患者所在地ノ市町村長ト協議スベシ

第七條　醫察官吏、衞生官吏及市町村吏員細則第八條ニ依ル治療票査閱ノ結果治療ヲ怠ル患者アリタルトキハ懇篤諭示シ全治ヲ期セシムベシ

公立私立ノ學校幼稚園ノ長ハ隨時職員ヲシテ其ノ學校幼稚園內ニ於ケル「トラホーム」患者ノ治療票ヲ査閱セシメ治療ヲ怠ルモノアルトキハ保護者ニ說諭ヲ加ヘ全治ヲ期セシムベシ

第八條　「トラホーム」患者ノ異動ヲ知リタル市町村長、醫察署長ハ互ニ其ノ事實ヲ通知スベシ

學校幼稚園內ニ於ケル「トラホーム」患者他ノ學校幼稚園ニ移轉シタルトキハ前ノ學校幼稚園ノ長ハ之ヲ後ノ學校幼稚園ノ長ニ通知スベシ

第九條　市町村、細則第九條ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ左記各號ノ事項ヲ具シ當該年度經過後四箇月以內ニ別記第二號樣式ニ依リ知事ニ申請スベシ其ノ期限內ニ申請セザルトキハ補助セザルコトアルベシ

一「トラホーム」豫防竝治療ニ要シタル費用支出ノ明細書（別記第三號樣式）但シ豫防ニ關スルモノト治療ニ關スルモノトヲ各別ニ調製スルコト

二　寄附金補助金其ノ他ノ收入アリタルトキハ其ノ明細書（別記第四號樣式）

三「トラホーム」豫防竝治療ニ關スル施設概況書（別紙第五號樣式）

四　歳入歳出最終豫算書

第十條　警察署長ハ細則第一條ノ檢診施行後十日以內ニ其ノ狀況ヲ別記第六號樣式ニ依リ報告スベシ

公立私立ノ學校幼稚園ノ長ハ細則第二條ノ檢診施行後十日以內ニ其ノ狀況ヲ別記第七號樣式ニ依リ報告スベシ　但シ市町村立學校ノ分ハ當該市町村長ヲ經由スルヲ要ス

第十一條　市町村長及市町村立私立ノ學校幼稚園ノ長ハ其ノ年中ニ於ケル「トラホーム」治療成績ヲ別記第八號樣式ニ依リ翌年一月二十日迄ニ市町村長ハ所轄警察署長ニ市町村立學校幼稚園ノ長ハ當該市町村長ニ通報シ警察署長、市町村長ハ之ヲ取纏メ同一樣式ニ依リ一月末日迄ニ知事ニ報告スベシ

經立學校長ハ前項ニ準シ一月末日迄ニ知事ニ報告スベシ

（第一號樣式）

「トラホーム」患者名簿

檢診年月日	症狀	氏名	生年月日	住所	職業	全治轉出其ノ他異動ノ事實及年月日

一、本簿ハ細則第一條第一項各號ノ區分ニ依リ口座ヲ設ケ目札ヲ附シ檢診終了後速ニ記載シ異動ノ事實ハ其ノ都度記入スルコト

一、症狀ハ手續第四條ノ分類ニ依リ記入スルコト

一、學校及幼稚園ニ在リテハ本簿ヲ學年別ニ區分シ目札ヲ附スルカ分冊ト爲スコト

（第二號樣式）

昭和何年度「トラホーム」豫防及治療費補助申請

補助申請額

一金

內譯

支出ノ種別	支出精算額	收入精算額	收支差引額	補助申請額
治療費				
豫防費				
計				

一、學校及幼稚園ニ備付クヘキ本簿ハ職業欄ニ保護者又ハ其ノ戶主若ハ家族ノ職業ヲ記入スルコト

年　月　日

市町村長名

知事宛

（第三號樣式）

昭和何年度「トラホーム」豫防費（治療費）支出明細書

一金

內譯

名稱員數	單價	金額	注文又ハ契約年月日及支拂年月日	用途	受取人住所氏名

（第四號樣式）

昭和何年度「トラホーム」豫防（治療）ニ伴フ收入明細書

一金

內譯

收入ノ種別	金額	收入年月日	摘要

一、收入ノ種別欄ニハ寄附金、補助金其ノ他ノ種別ヲ、摘要欄ニハ收入ノ理由ヲ記載スルコト

（第五號樣式）

「トラホーム」豫防治療施設概況書

種別	檢診人員	公費治療人員	上欄ノ內治癒人員	公費治療延人員
接客業者				
工場從業者				
壯丁				
學校幼稚園ノ職員生徒兒童園兒等				
其ノ他				
合計				

豫防及治療ノ施設概況

（第六號樣式）

「トラホーム」檢診狀況報告

何警察署

種別	性別	檢診ヲ受クベキ人員	檢診ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員 重症	患者ト決定セラレタル人員 輕症	患者ト決定セラレタル人員 疑症	患者ト決定セラレタル人員 計	備考
接客業者	男							
	女							
	計							
工場從業者	男							
	女							
	計							
壯丁								
其ノ他	男							
	女							
	計							
計	男							
	女							
	計							

一、檢診洩人員ヲ其ノ事由別ニシテ備考欄ニ記入スルコト
一、本表ハ各市町村毎各別ニ作成スルコト

（第七號樣式）

「トラホーム」檢診狀況報告　昭和何年第何回分

學校（幼稚園）長殿

教員、事務員、使丁等ノ別及學年別	檢診ヲ受クベキ人員	檢診ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員 重症	患者ト決定セラレタル人員 輕症	患者ト決定セラレタル人員 疑症	患者ト決定セラレタル人員 計	檢診人員ニ對スル患者%	備考
計								

一、檢診洩人員ヲ其ノ事由別ニシテ備考欄ニ記入スルコト
一、症狀ハ第四條ノ分類ニ依リ記入スルコト

（第八號樣式）

「トラホーム」患者治療成績調　昭和年月日　市町村（警察署、學校、幼稚園）長

市町村名	接客業者	患者 種別 越	患者 種別 新	患者 種別 轉入	患者 種別 計	異動 全治	異動 轉出等	異動 死亡	異動 計	十二月末現在患者	公費治療患者數

工場從業者						
壯丁						
學校幼稚園ノ職員生徒兒童等						
合計						

一、學校、幼稚園ノ長ノ作成スルモノニアリテハ種別ヲ教員、事務員、使丁其ノ他ノ別及生徒兒童園兒ノ學年別ニ區分スルコト

二、公費治療患者數ハ實人員ト延人員トヲ併記スルコト

三、縣立學校長及市町村長ノ作成スルモノニ在リテハ上欄「市町村名」ヲ記入セサルコト

四、治療方奮勵ノ狀況其ノ他參考トナルヘキ事項ハ餘白ニ備考トシテ附記スルコト

○學校生徒ノ紫色鉛筆使用ニ關スル件

（明治三十七年八月二十二日　石川縣訓令甲第三十九號）

（郡）市　役所
町　村　役場
公私立學校
公私立幼稚園

學校生徒ノ使用スル「コピールピナレツト」「サラピナレツト」「ヨハン、コピール」「ハ、ツエ、クルツ、コピール」等ノ記號アル紫色鉛筆ハ其ノ製造ノ原料ニ有害ノ色素ヲ包含スルカ故ニ其ノ破片又ハ溶液ノ眼中ニ入ルトキハ激烈ナル毒作用ヲ呈シ竟ニ不治ノ眼疾ニ陷ルコトアリ仍テ幼稚園及小學校等ノ兒童ニハ之カ使用ヲ禁止シ其ノ他ノ學校ノ生徒ニ在リテハ必要缺クヘカラサル場合ニ限リ之ヲ使用セシムルコトヲ得ルト雖其ノ使用上ニ周密ノ注意ヲ爲サシムヘシ

○學校醫進退手當及職務等ニ關スル細則

（大正十五年二月二日　石川縣令第三號）

（改正）昭和一〇年石川縣令第八號

第一條　學校醫ノ囑託解囑又ハ職務手當ノ變更ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ル

一　縣立學校ニ在リテハ當該學校長、市町村立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ左記ニ依リ知事ニ內申スベシ

イ　囑託ノ場合ニハ囑託スベキ學校名、當該學校生徒兒童數及職務手當金額ヲ具シ履歷書及醫師免許證寫ヲ添附スベシ但シ現ニ學校醫ノ職ニ在ル者ニ付テハ其ノ現ニ擔當スル學校ニ關スル分ヲモ併セ具スルヲ要シ履歷書及醫師免許證寫ノ添附ヲ要セズ

ロ　解囑ノ場合ニハ解囑スベキ學校名及解囑ノ事由ヲ具シ本人ノ退職願ヲ添附スベシ

ハ　職務手當變更ノ場合ニハ現在手當額、變更セムトスル手當額、擔當學校名及當該學校生徒兒童數ヲ具スベシ

二　私立學校ニ在リテハ前號ニ準シ其ノ年月日ト共ニ設立者ニ於テ遲滯ナク知事ニ屆出ヅベシ

三　特別ノ事情ニ因リ學校醫ヲ置キ難キ場合ニハ其ノ事由ヲ具シ期間ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クベシ

第二條　學校醫死亡シタルトキハ死亡年月日ヲ具シ縣立學校長、管理者又ハ設立者ニ於テ直ニ知事ニ申報スヘシ

第三條　知事ニ於テ學校醫ヲ不適當ト認メタルトキハ解囑シ又ハ解囑セシムルコトアルヘシ

第四條　學校醫ニ支給スヘキ職務手當ハ縣立學校ニ在リテハ年額金五拾圓以上トシ市町村立學校ニ在リテハ左ノ標準ニ依ル但シ同一市町村ノ設置ニ係ル數校ノ學校醫ヲ兼ヌル者ニハ生徒兒童數最多ノ一校ニ付定額ヲ支給シ其ノ他ノ學校ニ付テハ定額ノ二分ノ一以內ヲ減少シテ支給スルコトアルヘシ

生徒兒童數	千人以上	七百人以上千人未滿	五百人以上七百人未滿	三百人以上五百人未滿	二百人以上三百人未滿	百人以上二百人未滿	百人未滿
年額	九拾圓以上	七拾圓以上	六拾圓以上	五拾圓以上	四拾圓以上	參拾圓以上	貳拾圓以上

第五條　職務手當ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス但シ時宜ニ依リ年額ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

前項ノ外職務手當ノ支給方法ハ當該學校職員手當支給ノ例ニ依ル

第六條　學校醫公務ノ爲出張スルトキハ出張手當ヲ支給ス

數校ヲ兼務スル學校醫ニシテ共通ノ用務ニ依リ出張シタル場合ノ出張手當ハ適宜之ヲ分割シテ關係學校ノ經費ヨリ支出スルコトヲ得

第七條　明治三十四年石川縣令第十四號及明治三十六年石川縣令第四十八號ノ規定中旅費ニ關スル規定ハ赴任手當、移轉料及家族移轉料ニ關スル事項ヲ除クノ外各當該學校ノ學校醫ノ出張手當ニ關シ之ヲ準用ス

但シ其ノ額ハ市町村立小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ在リテハ奏任待遇者、市町村立甞年學校ニ在リテハ學校長其ノ他ノ公立學校ニ在リテハ年俸千八百二十圓未滿ヲ受クル者ノ例ニ準ス

第八條　學校醫ハ學校醫職務規程ニ依リ擔當學校ニ到リ職務ニ從事スルニハ豫メ其ノ執務日ヲ定メ學校長ニ通知シ置クヘシ

第九條　學校ニ於テハ別記第一號樣式ニ依ル異常兒童(生徒)名簿ヲ作リ學校醫職務規程第二條ニ依リ處置シタルトキハ學校醫ヲシテ記入セシムヘシ

第十條　學校醫ハ新ニ入學スヘキ兒童ノ身體檢査ニ關シ市町村長又ハ當該學校長ノ請求アリタルトキハ其ノ身體ヲ檢査シ修學ノ耐否ニ就キ說明スヘシ

第十一條　學校醫ハ成ルヘク學校ノ體育施設ニ參加シ衛生上必要ナル處置ヲ講スヘシ

第十二條　學校醫ハ學校醫職務規程第二條第三條第五條及第六條ニ依リ學校長又ハ管理者ニ申告シタルモノノ內特ニ重要ト認メタル事項ニ就キ監督官廳ニ申告スルコトヲ得

第十三條　學校醫ハ學校敷地ノ選定、校舍ノ建築修繕等ニ關スル設計ニ參與シ衛生上ノ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第十四條　學校醫ハ毎年度末ニ於テ當該年度內執務事項ノ概要竝擔當學校衛生改善ニ關スル意見ヲ具シ當該學校長ヲ經テ監督官廳ニ申報スヘシ

第十五條　學校醫ニ於テ必要アルトキハ其ノ執務ニ關シ學校職員又ハ他ノ適當ナル者ノ補助ヲ學校長ニ請求スルコトヲ得

第十六條　學校ニ於テハ學校醫執務席ヲ設ケ身體檢査用具、學校醫執務日誌其ノ他必要ナル器具書類ヲ備ヘ附ケヘシ

學校醫執務日誌ハ別記第二號樣式ニ依ルヘシ

第十七條　學校醫疾病其ノ他ノ事故ニ依リ所定ノ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ其ノ旨當該學校長ヲ經テ監督官廳ニ屆出ツヘシ

第十八條　學校醫其ノ職ヲ離ルルトキハ事務引繼書ヲ作リ學校長ニ提出スヘシ

第十九條　學校醫ナキトキ又ハ止ムヲ得サル場合ニ於テ他ノ醫師ヲシテ學校醫ノ職務ヲ行ハシメタルトキハ學校長ニ於テ其ノ旨監督官廳ニ申告スヘシ

第二十條乃至第二十二條　(削除)

第二十三條　町村組合立學校ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ町村立學校ト同視ス

第二十四條　本令ハ之ヲ幼稚園ニ準用ス

附　則

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

異常兒童(生徒)名簿

氏名	住所	生年月日	保護者	摘要

經過一般

發見	診察			處置	學校長
年月日	年月日	病名	病狀	意見	
				申告	
				結果	
				醫印	校印

△注意　本簿ハ一人一葉トシ學年別ニ編綴スヘシ

第二號樣式

學校醫執務日誌

年　月　日執務　學校醫印　校長印

一、學校醫職務規程第一條ノ調査事項

區別	調査狀況	意見申告處理
第一號ノ事項		
第二號ノ事項		
第三號ノ事項		
第四號ノ事項		
第五號ノ事項		
第六號ノ事項		
第七號ノ事項		
第八號ノ事項		
第九號ノ事項		

二、學校醫職務規程第二條乃至第八條ノ事項

區別	執務狀況	備考
第二條ノ申告		
第三條ノ申告		
第四條ノ檢査		
第五條ノ申告		
第六條ノ申告		
第七條ノ答申		
第八條ノ講話		

三、其ノ他ノ執務事項

○學校齒科醫進退手當職務等ニ關スル細則

（昭和十年五月二十五日　石川縣令第九號）

第一條　學校齒科醫ノ囑託解職又ハ職務手當ノ變更ハ左記各號ノ定ムル所ニ依ル

一、縣立學校ニ在リテハ學校長、市町村立學校ニ在リテハ管理者ニ於テ左記ニ依リ知事ニ內申スベシ

イ　囑託ノ場合ニハ囑託スベキ學校名、當該學校生徒兒童數及職務手當金額ヲ具シ履歷書及齒科醫師免許證寫ヲ添附スベシ但シ現ニ

學校齒科醫ノ職ニ在ル者ニ付テハ其ノ現ニ擔當スル學校ニ關スル分チモ併セ具スルヲ要シ履歷書及齒科醫師免許證寫ノ添附ヲ要セズ

ロ　解職ノ場合ニハ解職スベキ學校名及解職ノ事由ヲ具シ本人ノ退職願ヲ添附スベシ

ハ　職務手當變更ノ場合ニハ現在手當額、變更セムトスル手當額、擔當學校名及當該學校生徒兒童數ヲ具スベシ

二、私立學校ニ在リテハ前號ニ準シ其ノ年月日ト共ニ設立者ニ於テ遲滯ナク知事ニ屆出ヅベシ

第二條　學校齒科醫死亡シタルトキハ縣立學校長、管理者又ハ設立者ニ於テ死亡年月日ヲ具シ直ニ知事ニ申報スベシ

第三條　知事ニ於テ學校齒科醫ヲ不適當ト認メタルトキハ解職シ又ハ解職セシムルコトアルベシ

第四條　學校齒科醫ニ支給スベキ職務手當ハ學校醫ノ二分ノ一以上トス但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

職務手當支給ノ方法ハ學校醫ノ例ニ依ル

第五條　學校齒科醫公務ノ爲出張スルトキハ旅費ヲ支給ス其ノ支給額竝ニ支給方法ハ學校醫ノ例ニ依ル

第六條　學校齒科醫ヲ置キタル學校ニ於テハ學校齒科醫執務席ヲ設ケ齒牙檢査、齒牙疾患ノ診査竝ニ處置ニ必要ナル器械器具、齒牙診査簿及學校齒科醫執務日誌其ノ他必要ナル器具簿冊ヲ備フベシ

學校齒科醫執務日誌ハ別記樣式ニ依ルベシ

第七條　學校齒科醫ハ每月一回以上其ノ擔當學校ニ於テ執務スベシ

第八條　學校齒科醫、學校齒科醫職務規程第二條ニ依リ診査竝ニ處置ヲ行ヒタルトキハ齒牙診査簿ニ記入スベシ

第九條　學校齒科醫、學校齒科醫職務規程第四條ニ依リ管理者又ハ學校長ニ申告シタルモノノ內特ニ重要ト認メタル事項ニ就キテハ之ヲ監督官廳ニ申告スルコトヲ得

第十條　學校齒科醫ハ每年四月末日限前年度內執務事項ノ概要竝ニ擔當學校齒科衛生改善ニ關スル意見ヲ具シ當該學校長ヲ經テ監督官廳ニ申報スベシ

第十一條　町村組合立學校ハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ町村立學校ト看做ス

第十二條　本令ハ之ヲ幼稚園ニ準用ス

附　則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

學校齒科醫ノ設置竝ニ職務等ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

學校齒科醫執務日誌樣式

年　月　日執務

學校齒科醫印

學校長印

執務事項	狀況概要
學校齒科醫職務規程第一條ノ檢査	
學校齒科醫職務規程第二條ノ診査竝ニ處置	
學校齒科醫職務規程第三條ノ講話	

學校齒科醫職務規程第四條ノ申告	
其ノ他ノ執務事項	

○學校看護婦設置竝職務等ニ關スル規程

（昭和三年八月一日石川縣訓令甲第十七號）

（改正）昭和六年石川縣訓令甲第二一號

支　廳　市　役　所

町　村　役　場　公私立學校

公私立幼稚園

第一條　學校ニハ學校看護婦ヲ置キ學校衛生事務ニ從事セシムルコトヲ得

第二條　學校看護婦ノ進退ハ縣立學校ニ在リテハ學校長市町村立學校ニ在リテハ市町村長ノ內申ニ依リ知事之ヲ行フ

第三條　知事ハ必要ニ應シ前條ノ規定ニ依ラス直接之ヲ行フコトアルヘシ

第四條　學校看護婦ニハ俸給又ハ手當旅費等ヲ給スヘシ但シ當分ノ內俸給又ハ手當ヲ給セサルコトヲ得

第五條　學校看護婦ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ內申スヘシ

一　設置セムトスル學校名

二　關係豫算

三　支給スヘキ俸給又ハ手當額

四　履歷書

五　身體檢査書

第六條　學校看護婦ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一　看護婦ノ免許狀ヲ有スル者

二　看護學ヲ修得シタルモノニシテ適當ナルモノ

第七條　學校看護婦ハ學校長ノ監督ヲ受ケ學校醫、學校齒科醫ノ指揮ニ從ヒ其ノ職務ニ服スヘシ

第八條　學校看護婦ノ執務事項概ネ左ノ如シ

一　設備衛生ノ視察

二　生徒兒童ノ一般衛生的視察

三　教授衛生ノ視察

四　體育運動ノ視察

五　診療設備ノ整理

六　身體檢査ノ補助

七　衛生教育ノ補助

八　要監察者ニ對スル注意

九　學校給食又ハ中食ノ注意

十　身體被服携帶品ノ清潔檢査及指導

十一　調査事務及講話ノ補助

十二　傷痍疾病又ハ虛弱者ノ家庭巡視指導

十三　校外教授、修學旅行、運動會、遠足、休暇、聚落、水泳、海水浴等ニ於ケル衛生事項

十四　其ノ他衛生上必要ナル事項

第九條　學校看護婦設置ノ學校ニハ概ネ左記簿册ヲ備付クヘシ

一　疾病事故手當簿

二　清潔檢査簿

三　校内視察簿

四　家庭訪問錄

五　執務日誌

六　出勤簿

七　疾病及異常者名簿

八　其ノ他必要ト認ムル簿册

第十條　學校看護婦ハ毎月執務報告書ヲ調製シ學校醫、學校齒科醫ノ檢閲ヲ受ケ學校長ニ提出スヘシ

第十一條　本規程施行ニ關シ必要ナル細則ハ學校長之ヲ定ム

第十二條　私立學校ニ學校看護婦ヲ設置シタルトキハ設立者ニ於テ第五條ノ事項ヲ具シ遅滯ナク知事ニ届出ツヘシ之ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十三條　第四條第六條乃至第十一條ノ規定ハ之ヲ私立學校ニ準用ス

第十四條　本規程ハ之ヲ幼稚園ニ準用ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

現ニ設置セラレタル學校看護婦ニ在リテハ之ヲ本規程ニ依リ設置シタルモノト見做ス

○學校醫及幼稚園醫令ニ關スル件

（昭和四年四月十九日
發體二九號文部次官通牒）

今般勅令第九號ヲ以テ學校醫幼稚園醫（及青年訓練所醫令）公布セラレタルニ就テハ左記事項特ニ御考慮相成一層學校衛生ノ實績ヲ擧ケラルル樣努メラレ度

一、勅令第三條第二項ノ「醫師」ハ醫師法ニ依ル醫師ノ意ナルコト

二、勅令附則中「特別ノ事情アル場合ニ於テハ當分ノ内」トアルハ當該地方ニ醫師ナキトキ其ノ他萬止ヲ得サル場合ニ於テハ期限ヲ豫定シテ置カサルコトヲ意味スルモノニシテ其ノ際ハ理由ヲ附シ文部大臣ニ報告スルコト

私立ノ學校幼稚園等ニ在リテハ右上同樣取扱ハレタキコト

三、學校醫ニシテ他ノ業務ニ就カス所謂專任學校醫トシテ數校ノ學校ヲ擔任スルヲ優レリトスル場合有之ヘキニ付地方ノ實情ニ應シ適當ニ處理セラレタキコト但シ此ノ際囑託ハ各學校別ニ從令相成ヘキコト

四、大都市等ニ於テ多數ノ學校醫アル地ニ在リテハ其ノ指導監督及相互ノ連絡協調ニ關シテ市長等ヲシテ之ニ當ラシムルヲ便トスル場合アルヲ以テ適當ニ考慮セラレタキコト

○學校醫及幼稚園醫ニ關スル件

（昭和四年四月十三日
發學第一五二號通牒）

學務部長ヨリ市町村長公私立學校長
公私立幼稚園長青年訓練所主事宛

本年三月十八日勅令第九號ヲ以テ明治三十一年一月十二日附勅令第二號公立學校ニ學校醫ヲ置クノ件改正ノ上新ニ學校醫幼稚園醫（及青年訓練所醫）令公布相成候處右ハ主トシテ各種學校幼稚園（及青年訓練所）ニハ夫々醫師ヲ設置スヘキ旨規定セラレタル次第ニ有之候條御了承可然御配意相成度爲念及通牒候也

○學校齒科醫職務規程ノ解釋ニ關スル件

（昭和十一年三月十四日
收學第二二一六號通牒）

學務部長ヨリ中等學校長小學校長青年學校長幼稚園長宛

學校齒科醫職務規程第二條中ノ解釋ニ關シテハ左記ノ通御了知相成度尙學校齒科醫及幼稚園齒科醫ニ對シ貴職ヨリ右御通知相煩度

記

學校齒科醫職務規程第二條ノ豫防上必要ナル處置ノ範圍ハ概ネ齒牙ノ清掃、鍍銀法、乳齒ノ拔去、初期齲齒ノ處置及充塡（材料ハ**セメント**及**アマルガム**）等眞ニ豫防上必要ナル程度ノモノタルコト

第九編　教育費

○教育資金使用規程

（大正四年六月二十五日
石川縣令第三十四號）

（改正）大正五年石川縣令第四七號、昭和一一年同第五五號

第一條　公立尋常小學校設備費ノ貸付ハ市町村、市町村組合、町村組合、市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ校地校舍ノ設備急ヲ要スルモ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘスト認ムル場合ニ之ヲ爲ス

前項ノ規定ハ公立高等小學校ノ校地校舍ニシテ變災ニ因ル設備ノ復舊費ノ貸付ニ關シ之ヲ準用ス

第二條　前條第一項ニ依ル貸付ニ付テハ尋常高等小學校ニシテ尋常小學校ニ屬スル設備費ヲ區分シ難キモノニ在リテハ其ノ總費額ノ五分ノ四ヲ以テ尋常小學校ノ設備費ト看做ス

第三條　貸付ヲ受ケムトスル者ハ別紙樣式ニ依ル調書ヲ添付シ理由ヲ具シ知事ニ出願スベシ但シ第七條第一項但書ニ依リ利率ノ低減ヲ受ケムトスル者ハ正副二通提出スベシ

第四條　貸付金交付ノ時期及其ノ金額ハ知事之ヲ指定ス

第五條　貸付ノ許可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期日迄ニ別紙書式ノ契約書ヲ提出スヘシ

第六條　貸付金額ハ百圓以上トス

第七條　貸付金ノ利率ハ一年百分ノ五トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ其ノ利率ヲ一年百分ノ四迄減ズ

前項ノ月數十一月以下ノ端數ニ就テハ月割ヲ以テ計算ス

貸付金ノ利子ハ貸付金交付ノ翌月ヨリ償還金納入ノ當月迄ニ就キ之ヲ計算ス

第八條　貸付金ノ償還期限ハ特別ノ事情アルモノノ外十年以内トス

前項ノ期限ハ貸付ヲ爲シタル年度ノ翌年度ヨリ起算ス

第九條　貸付ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テ當該小學校設備費用總額當初ノ豫算額ヨリ減少シタルトキハ之ニ伴ヒ貸付金額ヲ減少シ其ノ既ニ貸付金ヲ交付シタル場合ニ在リテハ期限ヲ指定シ之ニ相當スル金額ヲ繰上償還セシムルコトアルヘシ

前項ニ依リ貸付金額ヲ減少シ又ハ繰上償還ヲ爲サシムルトキハ償還ノ方法ヲ更定セシム

第十條　貸付金償還及利子納入ノ期月ハ毎年度九月及三月トス但シ第九條ニ依リ繰上償還ヲ命シタルトキハ該金額ニ對スル利子ハ元金ト同時ニ納付スルモノトス

第十一條　償還金額又ハ利子ノ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ四捨五入ノ法ニ依リ錢位ニ止ム

第十二條　貸付ノ出願ヲ爲シ又ハ其ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テ設備費用ノ總額ニ變更アリタルトキハ十日以内ニ當該市町村長又ハ組合長ヨリ其ノ要領ヲ知事ニ報告スヘシ

設備費ノ支拂ヲ結了シタルトキ亦同シ

第十三條　知事ニ於テ必要アルトキハ貸付ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條　公立小學校正教員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾

病ニ罹リ休職ヲ命セラレタル者ニハ勤續年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以上貳百五十圓以下ノ疾病療治料ヲ給ス

第十五條　公立小學校正教員ニシテ兒童ノ衞生上特ニ考慮ヲ要スヘキ疾病ニ罹リ退職ヲ命セラレタル者ニハ勤續年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ貳百圓以上四百圓以下ノ疾病療治料ヲ給ス但シ休職中退職ヲ命セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　公立小學校准教員ニハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ疾病療治料ノ額ハ百圓以上貳百五拾圓以下トス

第十七條　公立小學校代用教員ニシテ第十五條ニ準スヘキ者ニハ勤續年數其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ百圓以下ノ疾病療治料ヲ給ス

第十八條　知事ニ於テ疾病療治料ヲ給與上必要アルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ身體檢査ヲ行ハシム

第十九條　公立小學校教員ノ奬勵其ノ他普通教育ノ普及改善ニ關シ費用ヲ支出スヘキ事項左ノ如シ

一、公立小學校教員ニシテ效績顯著ナリト認ムル者ノ選奬

二、公立小學校ニシテ他ノ模範ト爲スニ足ルト認ムル者ノ選奬

三、市町村、市町村組合、町村組合、市町村學校組合及町村學校組合ノ吏員學務委員等ニシテ普通教育上效績顯著ナリト認ムル者ノ表彰

四、市町村、市町村組合、町村組合、市町村學校組合、町村學校組合ノ普通教育ニ關スル施設ノ助成及同上ノ施設佳良ナリト認ムル者ニ對スル奬勵金ノ下付又ハ其ノ表彰

五、教育會其ノ他ノ公私團體ニシテ通俗教育上ノ施設宜シキヲ得タリト認ムル者ニ對スル奬勵金ノ下付

六、普通教育ノ普及改善ニ關シ奇特ノ行爲アリト認ムル者ノ表彰

七、小學校教育效績狀況程ニ依リ選奬セラレタル者ニ對スル行賞

八、普通教育視察員ノ派遣又ハ派遣費ノ補給

九、普通教育ニ關スル講習會ノ開催又ハ開催費ノ補給

十、青年團婦女會等指導ニ關スル費用

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年一月縣令第四號教育資金使用規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ貸付中ノモノハ仍從前ノ規定ニ依ル

（契約書々式）

契　約　書

一金何　程　　借入總額

內

金何　程　　大正何年何月何日受領スヘキ金額

金何　程　　〃〃〃〃〃〃〃〃

本市（町、村、組合）ニ於テ何小學校設備ノ爲石川縣教育資金前記ノ通貸付ノ許可ヲ受ケ候ニ付テハ左記ノ事項ヲ契約候也

大正何年何月何日

石川縣何市（町、村、組合）長名印

石川縣知事宛

一、本借入金ニ關シテハ石川縣教育資金使用規程ヲ遵守ス

二、本借入金ノ償還及利子ノ納入ハ左ノ區分ニ依ル

期月	元金償還額	利子納入額	利子計算期間
大正何年何月	何百何拾圓	何百何拾圓	自大正何年何月至大正何年何月
〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃	〃〃〃〃

三、石川縣教育資金使用規程第九條ニ依リ借入金ノ繰上償還ヲ命セラレ其ノ償還ヲ爲シタルトキハ前項ノ區分中最終ノ償還期ヨリ順次遡リ其ノ期ノ償還額及利子ハ自ラ減少ス但シ別段ノ方法ヲ指定セラレタルトキハ其ノ指定ニ依ル

四、石川縣教育資金使用規程第十三條ニ依リ貸付ノ許可ヲ取消サレタルトキハ借入金ハ之ニ對スル利子ヲ添ヘ指定セラレタル期日迄ニ之ヲ返納ス

第一樣式

教育資金借入金償還年次表

年度	償還元金	利子（年利率　厘　分）	計
何年度	圓	圓	圓
何年度			
合計			

備考

本表ハ今回借入ルベキ教育資金ノ償還年次表トス

第二樣式

市町村負債調

昭和　年　月　日現在

起債ノ目的	何々ノ爲	何々ノ爲	何々ノ爲	何々ノ爲	計
借入金額					
起債額　償還額					
起債額　償還未濟額					
年利率					
借入年月日					
借入先					
償還方法					
償還ノ財源					
償還終了ノ期限					

第三樣式

市町村債償還年次表

年度	元金償還額	利子支拂額	計
何年度			
何年度			
何年度			

備考

本表ハ第二號樣式ニ記載セル償還未濟額ニ付調査スルコト

第四樣式

基本財産調

昭和　年　月　日現在

種別	數量	金額	備考
市基本財産			
町村基本財産			
小學校基本財産			
何々			
合計			

備考

一、本表ハ土地、建物、現金、預金、有價證券等ニ區分シ調査スルコト

二、基本財産中一般會計其ノ他ヘ運用セルモノアル場合ハ其ノ用途及金額ヲ備考欄ニ記載スルコト

三、基本財産中現金及預金アリテ之ヲ起債事業費ニ運用シ能ハザル特殊ノ事由アルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト

第五樣式

市町村稅納稅成績調

昭和　年　月　日現在

稅目	何年度			何年度			何年度		
	調定濟額	納入額	納入割合	調定濟額	納入額	納入割合	調定濟額	納入額	納入割合
地租附加稅									
營業收益稅附加稅									
所得稅附加稅									
何々									
何々									

何々	同	同	同	同	同	同	同
合計	同	同	同				

備考

一、本表ハ資金借入年度ノ前年度ヨリ既往三ケ年間ニ付調査スルコト

二、納入額ハ本調書調製當時迄ニ納入シタル分ヲ計上スルコト

三、納入割合ハ四捨五入法ニ依リ小數第三位マデ算出スルコト

第六樣式

災害調書

一、被害ノ期日

二、被害ノ程度

本項ハ具體的ニ計數ヲ示シテ特ニ詳記スルコト

三、災害ニ對スル應急善後處置

四、災害ニ因リ被リタル市町村歳入豫算ノ缺陷及臨時支出見込額（各其ノ内譯）

五、其ノ他參考トナルベキ事項

備考

本調書ハ第七條第一項但書ニ依リ利率ヲ減ズルノ必要アル場合ニ限添付スルモノトス

○教育資金使用規程改正ニ關スル件

（昭和十一年二月八日
發學第一八七九號通牒）

學務部長ヨリ市町村長學校組合管理者宛

今般石川縣令第五十五號ヲ以テ標記規程改正相成候處右ハ市町村長ノ小學校設備ノ費用負擔ヲ緩和シ其ノ助長ヲ爲ス目的ヲ以テ從來借入ノ日ノ屬スル翌年ヨリ五年以内ニ償還スベキヲ十年以内ニ年限延長シ非常災害其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テハ貸付利率ヲ四分迄低減出來得ル事ト相成タル義ニ付希望ノ向ハ使用規程ニ依リ申請相成度候也

○市町村義務教育費國庫負擔法制定ノ義ニ關スル件

（大正七年四月二十四日
石川縣訓令甲第八號）

（郡）市役所、町村役場、市町村立小學校

今回市町村義務教育費國庫負擔法ヲ制定シ國費ヲ以テ義務教育費ノ一部ヲ支辨スルノ制度ヲ確立セラレタリ

惟フニ近時我國義務教育ノ進歩ニ伴ヒ市町村ノ經費著シク增加シ之カ輕減緩和ノ途ヲ講スルノ必要アリ而モ又將來益義務教育ノ改善ヲ圖リ其ノ振興ヲ促シ以テ國家ノ根抵ヲ鞏固ニシ國力ヲ充實シ國運ヲ伸張セシムルノ方策ヲ樹立スルハ洵ニ一日ヲ緩クスヘカラサルノ急務タリ是レ本法制定ヲ見ルニ至レル所以ナリ

義務教育ノ改善振興ヲ策スルノ途素ヨリ一ニシテ足ラスト雖要ハ直接薫陶ノ任ニ當ル小學校教員其ノ人ヲ得ルニ在リ今ヤ國事愈滋ク國費益多キヲ加フルノ時ニ方リ國庫カ特ニ本法ニ依リ小學校教員俸給ノ一部ヲ負擔スルニ至レル所以ノモノ實ニ小學校教員ノ待遇ヲ改善シテ益優良ナル人物ヲ招致シ以テ國家ノ要望ニ副ハシメムカ爲ニシテ本縣カ小學校教員ノ俸給ニ關スル規定ヲ改正シタル趣旨亦之ニ外ナラス若夫レ今次戰亂ノ結果トシテ必然來ルヘキ列國情勢ノ推移ト其ノ國民思想ノ變化トニ想到スレハ戰後ニ處スヘキ我カ小學教育施設ノ綱領ハ教育ニ關スル　勅語ノ聖旨ヲ奉體シテ益力ヲ國民道德ノ振興ニ致シ牢乎拔クヘカラサル國家的精神ヲ養ヒ又克ク時勢ノ進歩ニ順應シテ内ハ國運ノ發達ニ貢獻シ外ハ國際競爭場裡ニ立チテ帝國ノ使命ヲ完ウスルニ足ルヘキ國民ヲ作ルニ在リ小學校教員タルモノ須ク其ノ職責ノ重大ナルヲ自覺シ常ニ德操ノ向上ト學力ノ進歩トニ努メ拮据勵精其ノ天職ヲ盡サムコトヲ期セサルヘカラス

（郡長）ハ本法制定ノ趣旨ヲ體シ小學教育ノ實況ニ鑑ミ指導督勵其ノ宜シキヲ制シ以テ本法ノ施行ヲシテ最モ適切有效ナラシメ國民教育改善ノ效果ヲ擧ゲムコトヲ努ムヘシ

○市町村義務教育費國庫負擔法施行手續

（大正十二年六月二十八日
石川縣訓令甲第三十二號）

（郡）市役所

（改正）大正一五年石川縣訓令甲第六一號、昭和四年同第一〇號、八年同第九號

第一條　市町村長、市町村學校組合長、町村學校組合長ハ毎年六月一日ニ於ケル市町村立尋常小學校ノ教員數及市町村ノ就學兒童數ヲ左ノ各號ニ依リ調査シ第一號表ノ樣式ニ依リ六月十日限リ之ヲ知事ニ報告スヘシ

一、町村組合ハ之ヲ町村ト看做シテ調査スヘシ

二、市町村立尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ之ヲ市町村立尋常小學校ト看做シテ調査スヘシ

三、本科正教員ニシテ市町村立尋常高等小學校ノ學校長ヲ兼ヌル者ハ尋常科ノ教授ヲ受持タサル場合ト雖之ヲ尋常小學校本科正教員數ニ算入スヘシ

四、市町村立尋常高等小學校ノ正教員及准教員ニシテ尋常科及高等科ニ渉リ教授ヲ受持ツ者ハ之ヲ尋常小學校ノ教員數ニ算入スヘシ

五、市町村立尋常小學校ニ勤務スル代用教員並ニ市町村立尋常高等小學校ニ勤務スル代用教員ニシテ尋常科ノミノ教授ヲ受持ツ者及尋常科高等科ニ渉リ教授ヲ受持ツ者ニシテ尋常科ノ教授時數ガ高等科ノ教授時數ヨリ多キ者ニ限リ之ヲ尋常小學校ノ教員數ニ算入スベシ

六、教員ニシテ他ヨリ勤務スル者、休職中ノ者及短期現役兵トシテ服役中ノ者ハ之ヲ教員數ニ算入スヘカラス

七、市町村ノ就學兒童數ハ六月一日ニ於テ市町村立尋常小學校ニ在籍スル兒童ニ付居住スル市町村ニ於テ之ヲ調査シ計算スヘシ

八、町村組合ノ設置ニ係ル尋常小學校ノ在籍兒童ハ之ヲ町村組合ノ就學兒童トシテ計算スヘク關係各町村ノ就學兒童トシテ計算スヘカラス

九、町村一部ノ兒童教育事務委託ノ場合ニ於テハ其ノ兒童ハ委託町村ノ就學兒童トシテ計算スヘク之ヲ受託市町村ノ就學兒童トシテ計算スヘカラス

十、市町村義務教育費國庫負擔法第三條ノ特例ニ關スル法律ノ適用ヲ受ケタル市ノ市立尋常小學校ノ教員數及就學兒童數ハ同法ヲ適用セラレタル舊町村ノ地域別及市ノ舊地域ニ區分シ之ヲ調査スベシ但シ二以上ノ地域ノ兒童ヲ收容スル市立尋常小學校ノ教員數ハ該地域別就學兒童數ニ比例シテ之ヲ各地域ニ區分スベシ

第二條　市町村長町村學校組合長ハ前前年十二月三十一日現住人口五萬以下ノ市及人口三萬以上ノ町村ニ付前年度小學校教育費其ノ他ノ狀況ヲ調査シ第二號表ノ樣式ニ依リ毎年二月十五日限之ヲ知事ニ報告スベシ

第二條ノ二　町村長、町村學校組合長ハ前年度町村立小學校教育費其ノ他ノ狀況ヲ調査シ第三號表ノ樣式ニ依リ毎年二月十五日限之ヲ知事ニ

報告スヘシ

第三條　六月一日以後ニ於テ市町村ノ設置分合又ハ境界變更アリタルニ依リ市及町村ノ教員數、就學兒童數ニ異動アリタル場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ都度第一條ニ準シテ左ノ事項ニ付調査シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

一、六月一日ニ於テ當該市町村立尋常小學校ニ勤務シタル本科正教員、專科正教員、准教員及第一條第五號ノ代用教員ノ異動數

二、當該地域ノ所屬別トシタル六月一日居住ノ就學兒童數

町村組合ノ設置、組織變更若ハ解散アリタル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルヘシ

第一號表

市町村立尋常小學校教員數及就學兒童數調

（昭和　　年六月一日現在）

學校名	勤務別	義務教育費國庫負擔法ニ依ル教員數 本正	專正	准	代用	計	同上以外ノ教員數 本正	專正	准	代用	計	合計	就學兒童數	學級數
何々尋														
何々尋高	尋常科ノミ勤務者													
	尋常科及高等科ニ渉リ教授ヲ受持ツ者　尋常科勤務ニシテ高等科ノ教授ヲモ受持ツ者													
	尋常科及高等科ニ渉リ教授ヲ受持ツ者　高等科勤務ニシテ尋常科ノ教授ヲモ受持ツ者													
計														

調査上ノ注意

一、尋常高等小學校ノ學校長ヲ兼ヌル者ハ尋常科ノミ勤務者本正欄ニ合算計上スヘシ

二、尋常高等小學校教員中高等科ノミ勤務者ハ高等科勤務ニシテ尋常科ノ教授ヲモ受持ツ者同上以外ノ教員數欄ニ計上スヘシ

三、市町村一部ノ兒童教育事務委託ノ場合ハ委託市町村ニ於テハ委託兒童數ヲ内書シ受託市町村名ヲ附記シ受託市町村ニ於テハ受託兒童數ヲ外書シ委託市町村名ヲ附記スヘシ

四、尋常高等小學校ニ在リテハ就學兒童數及學級數欄ニハ高等科ニ係ル數ハ夫々外書スヘシ

第二號表

昭和　　年度ニ於ケル人口五萬以下ノ市及人口三萬以上ノ町村ノ小學校教育費其ノ他狀況調

市名及郡町村名	戸數	人口	市町村歲出總額	小學校費 經常費 教員俸給費	其ノ他經費	臨時費	計	市町村稅 特別稅戸數割額	其ノ他稅額	計	直接國稅 地租額	第三種ノ所得稅額	個人ノ營業收益稅額	乙種ノ資本利子稅額	計

調査上ノ注意

一、戸數及人口ハ前前年十二月三十一日現住ニ付計上スヘシ

二、市町村歲出總額及小學校費ハ前年度決算額ヲ計上スヘシ

市町村歲出總額中ニハ一般會計ノ外特別會計ヲモ加算スヘシ但シ一般會計ヨリ特別會計ニ補給セル場合ハ其ノ補給額ヲ重複計上スヘカラズ

三、市町村稅及直接國稅（地租、第三種ノ所得ニ對スル所得稅個人ノ營業收益稅及乙種ノ資本利子稅ニ限ル）ハ前年度調定濟額ヲ計上スヘシ

四、特別稅戸數割中ニハ家屋稅附加稅、特別稅戸別割、特別稅家屋稅、特別稅特別所得稅及市町村稅タル所得稅附加稅ノ調定濟額ヲモ算入ス

ベシ

第三號表

昭和　年度町村小學校教育費其ノ他狀況調

町村名	戸數	人口	町村歲出總額	小學校費					町村稅			直接國稅			
				經常費			臨時費	計	特別稅戶數割	其ノ他稅額	計	地租額	第三種ノ所得稅額	個人ノ營業收益稅額	乙種ノ資本利子稅額	計
				教員俸給費	其ノ他經費											

調査上ノ注意

一、第二號表ノ調査上ノ注意ニ準シ調査スベシ

○市町村義務教育費國庫負擔法施行規程中疑義ノ件

（昭和二年三月二十九日　普通學務局長通牒　官普四四號）

標記ノ件ニ關シ甲號ノ通某縣ヨリ照會有之タルニヨリ本日乙號ノ通回答シタルニ付此段通知ス

甲　號

市町村義務教育費國庫負擔法施行規程中左記疑義ニ付御教示相成度及照會候也

記

一、規程第一條第五項教員數ノ調ハ小學校長ヲ兼務スル本科正教員ヲ除キ凡テ尋常科ノ學級數ニ準スルマヽ代用教員モ算入スヘキモノト思考セラルルモ例ヘハ單級ノ小學校ニ於テ本科正教員ノ校長一人ト裁縫專科ノ代用教員（月俸三圓乃至十圓位ノモノ）一人トアル學校モ教員數二人ト調査スヘキヤ

二、規程第一條第七項市町村ノ就學兒童數ノ調ハ其ノ市町村立尋常小學校ニ在籍スル兒童ニ付當該市町村ニ於テ調査スヘキモノト思考セラルルモ行政區畫ニ限定セラレス例ヘ他市町村立小學校ニ通學シ居ルモノト雖モ苟クモ就學シ居ルモノハ全部居住地市町村ニ於テ調査スヘキヤ

例ヘハ甲村居住ノ兒童カ教育事務委託又ハ寄留等何等手續ヲ了セス乙市立尋常小學校ニ入學シ居ルモノハ何レノ市町村ニ於テ調査スヘキヤ

乙　號

大正十五年十二月十六月官教第一四九九號御照會標記ノ件右ハ左記ノ通御了知相成度此段回答ス

記

一、市町村立ノ單級小學校ニ於テ學校長ヲ兼務スル訓導ノ外ニ代用教員一人アルトキハ右代用教員ハ御意見ノ通市町村義務教育費國庫負擔法ニ依ル教員數ニ計上スルコト

二、兒童ノ教育事務委託又ハ寄留等ノ手續ヲ了セスシテ兒童ノ居住スル市町村以外ノ市町村立尋常小學校ニ就學スル兒童ハ其ノ居住スル市町村ノ兒童トシテ計上スルコト

○短期現役小學校教員俸給費國庫負擔法施行手續

（大正十一年二月七日　石川縣訓令甲第六號）

（改正）昭和四年四月訓令甲第一二號

（郡）市役所　町村役場　町村學校組合

第一條　短期現役小學校教員俸給費國庫負擔金ハ概算渡ノ方法ニ依リ之ヲ當該市町村、町村學校組合ニ交付ス

知事ニ於テ前項ノ交付金ニ剩餘ヲ生スト認メタル場合ハ額ヲ定メテ隨時之カ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第二條　前條ノ交付金ヲ受ケタル市町村長又ハ町村學校組合長ハ別表ニ依リ前年度ニ於ケル短期現役小學校教員俸給費國庫負擔金ニ關スル精算ヲ了シ四月十日限之ヲ知事ニ提出スヘシ

（別表）

短期現役小學校教員俸給費國庫負擔金精算表

收入		支出		
交付ヲ受ケタル年月日	交付ヲ受ケタル金額	別調		備考
		俸給		
		月俸額	人員及月數	
			支出金額	
計				

差引金

備考

一、俸給支給ニ關シ特ニ參考トナルヘキ事項ハ之ヲ備考欄ニ記入スヘシ

二、月俸額ハ本俸額ヲ記載スヘシ

○市町村立小學校教員住宅費補助規程

（大正六年二月七日　石川縣令第二號）

第一條　市町村、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ市町村立小學校教員ノ住宅ヲ新築、改築、增築又ハ購入シ若ハ教員ニ住宅ヲ供スル爲賃借料ヲ支拂ヒ又ハ教員ニ住宅料ヲ給與スルトキ知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本規程ニ依リ其ノ費用ノ一部ヲ補助ス

第二條　前條ノ補助金額ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

一、住宅ノ新築、改築、增築又ハ購入スル場合ニ在リテハ其ノ支出精算額ノ二分ノ一以內

二、住宅料ヲ支給シ又ハ賃借料ヲ支拂フ場合ニ在リテハ其ノ三分ノ一以內

第三條　本規程ニ依リ補助ヲ受ケムトスルトキハ住宅ノ新築、改築、增築ノ場合ニ在リテハ左記第一號乃至第六號住宅購入ノ場合ニ在リテハ第一號乃至第三號第六號及第七號住宅料支給ノ場合ニ在リテハ第六號及第八號賃借料支拂ノ場合ニ在リテハ第一號乃至第三號第六號及第九號ノ事項ヲ具シ每年度四月三十日限リ知事ニ出願スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ期限後ト雖モ出願スルコトヲ得

一、教員住宅ノ位置（市町村大字、地目、地番、土地所有者及小學校トノ距離ヲ記スヘシ）及附近ノ見取圖

二、敷地建物平面圖（縮尺百分ノ一ニ認メ敷地內ニ住宅ヲ配置シ方位、庭園、菜園、建物ノ坪數、各室ノ名稱、窓、押入、出入口等ヲ記入スヘシ）

三、建物ノ主要部分斷面圖

四、建物設計書（仕樣書、內譯書）

五、工事ノ著手及竣工豫定期日

六、當該年度歲入歲出豫算書

七、住宅購入價格（購入後模樣換ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ費額竝設計書）

八、住宅料支給方法及其ノ金額

九、賃貸借契約書寫

第四條　補助ノ許可ヲ受ケタル後前條各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　工事竣功シタルトキ又ハ住宅ノ購入ヲ了シタルトキハ精算書ヲ添ヘ補助金ノ交付ヲ請求スヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工事ノ變更ヲ命シ若ハ補助ノ許可ヲ取消シ又ハ補助金ノ減額ヲ爲スコトアルヘシ

一、工事不適當ト認ムルトキ

二、設計ニ違反スト認ムルトキ

三、豫定ノ期限內ニ竣功セサルトキ

四、支出精算額過當ト認ムルトキ

五、支拂上不都合ノ所爲アリト認ムルトキ

第七條　教員住宅ニハ相當ノ庭園及菜園ヲ設クルコトヲ要ス

第八條　教員住宅ハ之ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ之ニ對シ教員ヨリ使用料修繕料等ヲ徵收スルコトヲ得ス

第九條　教員住宅ハ知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ廢止シ又ハ賣却等ノ處分ヲナスコトヲ得ス

第十條　第二條ノ規定ニ違背シタルトキハ補助金ノ一部又ハ全部ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條　本規程ニ依リ町村、町村學校組合又ハ其ノ區ヨリ提出スヘキ書類ハ郡長ヲ經由スヘク郡長ハ之ニ對シ意見ヲ添申スヘシ

附　則

本令ハ大正六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年五石川縣令第三十七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ從前ノ規定ニ依ル教員住宅ニ對シテハ本規程ヲ準用ス

○青年學校費補助規程

（昭和十一年三月二十八日
石川縣令第六十四號）

第一條　公立青年學校ニシテ知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ本規程ニ依リ補助金ヲ交付ス

私立青年學校ニシテ特ニ必要アリト認ムルトキハ本規程ニ準シ補助金ヲ交付スルコトアルベシ

第二條　補助金ハ專任教員俸給又ハ手當其ノ他ノ經費及學校敷地ニ生徒數等ヲ考慮シ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ之ヲ交付ス

前項ノ專任教員ハ青年學校教員資格規程第一條第二條及第四條ニ該當スルモノトス

第三條　本規程ニ依リ補助ヲ受ケントスルトキハ其ノ設置者ヨリ別表青年學校調査表ヲ添ヘ知事ニ申請スベシ

第四條　補助ノ許可ヲ受ケタル設置者ハ翌年度四月十五日限リ知事ノ定ムル條件ニ從ヒ補助金ノ交付ヲ請求スベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

青年學校設備補助ノ交付ニ付テ本規程ハ之ヲ適用セス

實業補習學校費補助規程ハ之ヲ廢止ス

別　表

一、專任教員調

青年學校調査表

資格	氏名	既設、新設增置ノ區別	俸給又ハ手當月額	同上年額	備考

二、專任教員以外ノ教員ノ手當額調

職名	氏名	月手當額	同上年額	職名	氏名	月手當額	同上年額

三、生徒數調（四月末日調）

	普通科					本科研究科		總計
	一年	二年	一年	二年	三年	四年	五年	一年	二年	
男子										
女子										
計										

四、學校費收支豫算調

昭和　年度收支豫算表

收入

科目	本年度豫算	前年度豫算	比較		備考
			增	減	

授業料ヲ雜收入ニ計上セル場合ハ其ノ旨備考ニ記入スルコト

支出

科目	本年度豫算	前年度豫算	比較		備考
			增	減	

第十編　教職員

第一章　檢定及免許

○小學校教員試驗檢定參考書

（昭和五年七月九日石川縣告示第三百九十六號）

大正五年二月石川縣告示第九十八號小學校教員試驗檢定參考書左ノ通改正ス

小學校本科正教員

科目	書名	著者	發行所
修身科	師範修身講義　自卷一至卷五	西晋一郎	東京市小石川區小日向水道町　開成館
教育科	最近教育學　改訂版	篠原助市	同
	最近論理學　改訂版	佐藤熊治郎	同
	最近心理學　改訂版	小川正行	同
	最近近世教育史　改訂版	同	同
	最近小學校管理法　改訂版	同	同
	最近各科教授法　改訂版	同	同

國語及漢文科	師範國文	訂正再版	自卷一至卷一〇	吉田彌平
	國文法綱要		全	吉田彌平 小山左文二
	十八史略鈔本		全	兒島獻吉郎
	論孟鈔本		全	同
	重訂漢文新編		自卷一至卷五	鹽谷温
英語科	モダンイングリツシユーリーダー		自卷一至卷四	小日向定次郎
	コンサイス、イングリツシユ、グランマ		修正版 全	書木常雄
歷史科	師範學校用歷史教科書日本歷史		上、中、下	峰岸米造
	新制東洋歷史		全	桑原隲藏
	新見西洋歷史		全	新見吉治
地理科	中等日本地理		全	田中啓爾
	最近日本地圖		新訂版	三省堂
	中等外國地理		全	田中啓爾
	最近世界地圖		新訂版	三省堂
	新選地理　地理概說		全	守屋荒美雄

師範教育	日本國勢地理		全	西田奥四郎
數學科	中等教育幾何學教科書	平面之部全 立體之部全		林鶴一
	新撰師範教育代數學教科書		上、中、下	國技元治
	算術教科書		上、下	薩澤利喜太郎
博物科	中等植物新教科書		三	三好學
	新制動物教科書		全	野村益太郎
	改訂鑛物界新教科書		全	中村新太郎
	六訂石川生理衛生教科書			石川日出鶴丸
物理及化學科	中等教育物理學教科書		全	野田貞
	中等教育化學教科書		全	龜高德平
法制及經濟科	中等教育法制經濟編		各一冊	小林清貞
習字科	新撰習字教本		自卷一至卷三	日高秩父書
圖畫科	改訂大成圖畫		自卷一至卷五	阿部七五三吉

師範國文	訂正再版	自卷一至卷一〇	吉田彌平	東京市神田區裏神保町六番地
國文法綱要		全	吉田彌平 小山左文二	同 光風館
十八史略鈔本		全	兒島獻吉郎	同
論孟鈔本		全	同	同
重訂漢文新編		自卷一至卷五	鹽谷温	東京市神田區北神保町十一番地 弘道館
モダンイングリツシユーリーダー		自卷一至卷四	小日向定次郎	東京市神田區表神保町三丁目 文獻書院
コンサイス、イングリツシユ、グランマ		修正版 全	書木常雄	東京市神田區南神保町二番地 修文館
師範學校用歷史教科書日本歷史		上、中、下	峰岸米造	東京市日本橋區鐵砲町三番地 六盟館
新制東洋歷史		全	桑原隲藏	東京市小石川區小日向水道町 開成館
新見西洋歷史		全	新見吉治	東京市日本橋區鐵砲町三番地 六盟館
中等日本地理		全	田中啓爾	東京市京橋區南傳馬町二丁目 目黑書店
最近日本地圖		新訂版	三省堂	東京市麴町區大手町一ノ一 三省堂
中等外國地理		全	田中啓爾	東京市京橋區南傳馬町二丁目 目黑書店
最近世界地圖		新訂版	三省堂	東京市麴町區大手町一ノ一 三省堂
新選地理　地理概說		全	守屋荒美雄	東京市神田區仲猿樂町三十番地 帝國書院
師範教育日本國勢地理		全	西田奥四郎	東京市牛込區市ヶ谷甲良町三十九番地 文中館
中等教育幾何學教科書	平面之部全 立體之部全		林鶴一	東京市小石川區小日向水道町 開成館
新撰師範教育代數學教科書		上、中、下	國技元治	東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地 文寶館
算術教科書		上、下	薩澤利喜太郎	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地 大日本圖書株式會社
中等植物新教科書		三	三好學	東京市神田區裏神保町九番地 富山房
新制動物教科書		全	野村益太郎	東京市小石川區小日向水道町 開成館
改訂鑛物界新教科書		全	中村新太郎	京都市下京區丸太町通堀川西入西丸太町百七十一番地 星野敬一
六訂石川生理衛生教科書			石川日出鶴丸	東京市神田區裏神保町九番地 富山房
中等教育物理學教科書		全	野田貞	東京市小石川區小日向水道町 開成館
中等教育化學教科書		全	龜高德平	同
中等教育法制經濟編		各一冊	小林清貞	京都市下長者町油小路西入招提町二十一番地 文獻書院
新撰習字教本		自卷一至卷三	日高秩父書	東京市神田區錦町一丁目十番地 明治書院
改訂大成圖畫		自卷一至卷五	阿部七五三吉	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地 大日本圖書株式會社

	現代新圖法	改訂版 自卷一至卷三	圖畫教育研究會	東京市麴町區大手町一ノ一三	含堂
音樂科	教科適用樂典精義	訂正再版	渡邊彌藏	東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地	寶文館
	尋常小學唱歌	自第一學年用至第六學年用	文部省	東京市日本橋區新右衛門町十六番地	國定教科書共同販賣所
	高等小學唱歌		同	東京市麴町區飯田町一丁目	國定教科書共同販賣所
體操科	學校體操解說	全	體育研究所	東京市麴町區元衛町文部省構內日本體育聯盟	
	體操科の理論	全	吉田章信	東京市神田區表神保町三番地	文友館
	陸上競技法	全	野口源三郎	東京市京橋區南傳馬町二丁目	黑目書店
	チームゲームス	全	大谷武一 安川伊三	同	
	步兵操典	全	陸軍省	東京市麴町區隼町三番地	兵用圖書株式會社
	陣中要務令	全	同	同	
農業科	師範教科改訂農業教科書	上卷 中卷 下卷	佐藤寬次	東京市日本橋區鐵砲町三番地	六盟館
商業科	改訂版 新編商事要項	全	古舘市太郎	東京市日本橋區本銀町三丁目	文寶館
	改訂商業簿記教科書	下	吉田良三	東京市神田區神保町一番地	文同館

手工科	新手工教科書	上下	岡田秀吉 阿部七五三吉 伊藤信一郎	東京市神田區錦町三丁目	培風館
家事科	家事新教科書	上下	石澤吉磨	東京市外中野町大塚一七五二	集成堂
	家事實習案內	全	大江スミ	東京市四谷區坂町七番地	文光社
裁縫科	現代裁縫教科	一、二、三、四	吉村千鶴	東京市小石川區小日向水道町	開成館
	中等教育、裁縫教科書	卷三	成田順	東京市小石川區久堅町八十五番地	大成書院
	三訂新撰裁縫教授法		山本キク	東京市牛込區市ヶ谷甲良町三十九番地	中央館書店

其他小學校用各科教科書

尋常小學校本科正教員

科目	書名	著者	發行所
修身科	師範修身要義 自卷一至卷三	西晉一郎	東京市小石川區小日向水道町 開成館
	輓近教育學 改訂版	篠原助市 佐藤熊治郎 小川正行	東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地 文寶館

教育科	輓近心理學	改訂版	同	同	同
	輓近各科教授法	改訂版	同	同	同
	輓近小學校管理法	改訂版	同	同	同
國語科	師範國文	自卷一至卷六	吉田彌平	光風館編輯所	同
	簡明日本文典				
算術科	算術教科書	上、下	藤澤利喜太郎	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地大日本圖書株式會社	同
歷史科	新體國史	上、下	中村孝也	東京市仲猿樂町三十番地帝國書院	同
地理科	新選地理日本ノ部		守屋荒美雄	東京市仲猿樂町三十番地帝國書院	同
	新選地理世界ノ部		同	同	同
	最近日本地圖　新訂版		三省堂	東京市麴町區南大手町一ノ一三省堂	同
	最近世界地圖　新訂版		同	同	同
理科	新理科教科書	（博物編）	佐藤禮介	東京市神田區今川小路二丁目十一番地港堂	同
	同	（物化編）	根岸福松	同	同

習字科	新撰習字教本	自卷一至卷二	日高秩父	東京市神田區錦町一丁目十番地明治書院	
圖畫科	改訂大成圖畫	自卷一至卷三	阿部七五三吉	東京市京橋區銀座一丁目二十二番地大日本圖書株式會社	
音樂科	尋常小學唱歌	自第一學年用至第六學年用	文部省	東京市日本橋區新右衛門町十六番地國定教科書共同販賣所	
	教科樂典講義	訂正再版	渡邊彌藏	東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地文寶館	
裁縫科	現代裁縫教科書	自卷一至卷三	吉村千鶴	東京市小石川區小日向水道町成館	
	中等教育裁縫教科書	第三卷	成田順	東京市小石川區久堅町八五大成書院	
體操科	學校體操解說	全	體育研究所	東京市麴町區元衛町文部省構內日本體育聯盟	
	體操科の理論	全	吉田章信	東京市神田區表神保町三番地友文館	
	步兵操典	全	陸軍省	東京市麴町區皇町三番地兵用圖書株式會社	
	陣中要務令	全	同	同	

其他小學校用各科教科書

小學校專科正教員

各科トモ小學校本科正教員ニ同シ

小學校准教員			
教育科	輓近教育學	篠原助市 佐藤熊治郎 小川正行	東京市日本橋區本銀町三丁目十四番地 文寶館
	輓近各科教授法	同	同
尋常小學校准教員			
教育科	新教育教授法	乙竹岩造	東京市神田區錦町三丁目 培風館
保姆			
保育科	幼稚園 託兒所育兒法	森川正雄	東京市神田區表神保町二番地 東京東洋圖書株式會資會社

其他ノ科目ハ尋常小學校本科正教員ニ同シ

其他ノ科目ハ尋常小學校本科正教員ニ同シ

其他ノ科目ハ小學校用各科教科書

○小學校教員檢定ニ關スル件

（大正十一年二月二日　發普二三號）

普通學務局長通牒

留今小學校教員ノ檢定取扱上ニ關シ臺灣總督府朝鮮總督府樺太廳關東廳管內師範學校（特科ヲ除ク）官公立中學校高等女學校卒業者竝青島守備軍司令官ノ設置セル青島中學校及青島高等女學校卒業者ニ對シテハ小學校令施行規則第百七條第一項第四號同第百十三條第六號第七號ノ中學校及高等女學校ノ卒業者ニ準シ取扱相成差支ナキコトニ省議決定致シタルニ付キ御了知相成度

○小學校教員免許狀授與調査標準及報告方ニ關スル件

（大正十年八月十三日　發普三二〇號）

普通學務局長依命通牒

今般小學校令施行規則第百十八條削除セラレタルニ就テハ爾今貴官ニ於テ同第百七條第六號ニ依リ小學校正教員免許狀ヲ授與セラレルコトニナリタルカ右ノ場合ニ於テハ別記ノ調査標準ニ依リ愼重調査ヲ遂ケ其ノ成績特ニ優秀ナル者ニ限リ授與セラレル樣致度此段依命通牒ス

追テ本文ニ依リ授與セラレタル場合ハ直ニ別紙書式ニ依ル取調書（甲號、乙號、丙號）履歷書及實地視察復命書寫ヲ添付シテ御報告相成度尙明治四十年五月三日未發普一四六號及同年十二月九日未發普四三一號通牒ハ自然廢止ト御承知相成度

記

査標準

甲、小學校本科正教員

左ノ事項ニ該當シ小學校令施行規則第百八條ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ補修ノ經歷アル者

一、尋常小學校本科正教員又ハ小學校准教員免許狀受領ノ後五箇年以上小學校ノ教育ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者

乙、尋常小學校本科正教員

左ノ事項ニ該當シ小學校令施行規則第百十一條ノ試驗科目及其ノ程度ニ準シ補修ノ經歷アル者

一、小學校准教員又ハ尋常小學校准教員免許狀受領ノ後五箇年以上小學校ノ教育ニ從事シ現ニ其ノ職ニ在ル者

丙、小學校專科正教員

左ノ事項ノ一ニ該當シ高等小學校卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ現ニ小學校ノ教育ニ從事スル者

一、免許スヘキ學科目ニ就キ五箇年以上小學校ノ專科ノ教授ニ從事シタル者

二、音樂體操裁縫手工農業商業家事圖畫外國語ノ一科目若ハ數科目ニ關シ師範學校本科第一部ノ學科程度ト同等以上ノ程度ニ於テ之ヲ教授スル學校ノ卒業者但シ免許スヘキ學科目ハ卒業シタル科目ニ限ル

履歷書

住所　族籍「原籍及現住地ヲ列記スヘシ」

現職名　　氏名　　何年何月生

學業

年月	年月數
自何年何月至何年何月	何年何箇月（各學科目別ニ時數記入）
何年何月	
何年何月	
何々	〃

學業

官(公)(私)立何學校ニ於テ何學科修業若クハ講習

「府縣立ハ其ノ府縣名、郡市立ハ其ノ府縣郡市名其ノ他公立私立ハ府縣郡市町村名ヲ學校名ノ上ニ冠スヘシ以下之ニ倣フ」

官(公)(私)立何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク證書寫別紙ノ通

何學校何學科ノ教員免許狀ヲ受ク免許狀寫別紙ノ通

〃　〃　〃

業務

年月	年月數
自何年何月至何年何月	何年何箇月

業

何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校訓導(准訓導)(教員)在職月俸何圓

但本科(專科何學科目)正(准)教員勤務

「同一學校ニ在職中增俸ノモノハ月俸「何圓乃至何圓」トシ最初ノ額ト最終ノ額トヲ記入スヘシ以下之ニ倣フ」

何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校代用教員勤務月俸何圓

但本科(專科何學科目)擔當

何府(縣)何郡(市)何町(村)立(私立)何尋常(高等)(尋常高等)小學校長兼勤

官(公)(私)立何學校何職在職月俸何圓

但何學科擔當

〃　〃　〃

賞罰

年月日	事項
自何年何月至何年何月	何年何箇月
自何年何月至何年何月	何年何箇月
自何年何月至何年何月	何年何箇月
何々	〃

年月日	事項
何年何月日	何縣ニ付何々ヨリ何賞ヲ受ク
何年何月日	何縣ニ付何々ヨリ何賞ヲ受ク
何々	「懲戒書等アラハ其ノ寫ヲ添フヘシ」
	〃　〃　〃

雜

年月	事項
自何年何月至何年何月	「前諸項ニ記載シ難キ事項ハ此部ニ記載スヘシ」
何々	〃　〃　〃

以上

備考

履歷書記載上ノ注意

一、取調書甲號ニ添付スヘキ履歷書ノ學業欄中講習ニ關スル事項ハ尋常小學校本科正教員又ハ小學校准教員免許狀受領ノ後ニ於テ小學校本科正教員試驗科目及其ノ程度以上ニ依リ補修シタルモノニ限リ記載スルコト

二、取調書乙號ニ添付スヘキ履歷書ノ學業欄中講習ニ關スル事項ハ小學校准教員又ハ尋常小學校准教員免許狀受領ノ後ニ於テ尋常小學校本科正教員試驗科目及其ノ程度以上ニ依リ補修シタルモノニ限リ記載スルコト

三、賞罰欄ニハ年末給與等ノ如キ恒例ノモノハ之ヲ省略シ特ニ著シキモノニ限リ記載スルコト

四、學科補修ノ時數ハ年月數欄ニ各學科目別ニ記入スルコト

取調書甲號

小學校本科正教員

記載上ノ注意

既得免許狀	同狀受領後小學教育從事年數	學科補修ノ時數																			職名	氏名	年齡
1.尋正 2.小准	(五年以上)	修身	教育	國語	英語	歷史	地理	算術	代數	幾何	博物	化學	理科	法經	習字	圖畫	手工	音樂	體操	裁縫			
	年ヶ月	30	100	50	30	50	50	70	30	30	50	70	30	30	乙	30	30	30	50	乙			年ヶ月

一、學科補修ノ時數欄ノ數字ハ最低標準時數ヲ示シタルモノニシテ各學科目ニツキ該配當標準時數以上ノ補修經歷ヲ有シ習字裁縫ハ乙以上ノ者ヲ合格トスルコト

二、學科補修ノ時數ハ官公私設ノ講習又ハ學校等ニ於テ學習シタル時數ヲ記載シ獨習個人教授通信教授及之ニ類スル學習時數ハ之ヲ算入スヘカラサルコト

三、學力補修ヲ目的トスル學科ノ講習ト各科教授法ノ講習トハ明ニ之ヲ區別シ前者ノ補修時數ハ當該學科目ニ後者ハ教育科ノ補修時數ニ算入スルコト

四、試驗檢定ニ依リ某學科目ニ關シ成績佳良ノ證明書ヲ授與シアル者ニ在リテ當該學科目欄ニ「證」ノ字ヲ記載スルコト但シ講習修了ノ結果成績佳良ナル者ニ對シ證明書ヲ授與シタル者ニ在リテハ講習時數並「證」ノ字ヲ記載スルコト

五、某學科目ニ關シ專科正教員ノ免許狀ヲ有スル者ニ在リテハ當該學科目欄ニ「專」ノ字ヲ記載スルコト

六、裁縫習字ノ二科ハ實地調査ノ際ノ認定ニ依リ甲、乙、丙等ノ評語ヲ附スルコト

七、氏名欄ニハ女子ニ限リ右肩ニ「女」ト朱書スルコト

八、英語、習字、圖畫、手工、音樂、農業及商業ノ七科目中四科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

取調書乙號

尋常小學校本科正教員

既得免許狀	同狀受領後小學校教育從事年數	學科補習ノ時數																			職名	氏名	年齡
1.小准 2.尋准	(五年以上)	修身	教育	國語	算術	歷史	地理	理科	圖畫	音樂	體操	裁縫											
	年ヶ月	30	100	70	100	50	50	100	30	30	50	乙											年ヶ月

記載上ノ注意

一、取調書甲號記載上ノ注意一乃至七ハ本表ニモ之ヲ適用スルコト

二、本表記載ノ學科目中音樂ヲ闕クコトヲ得

取調書丙號　其ノ一

小學校專科正教員

小學校ニ於テ專科トシテ教授シタル學科目	同上教授ノ年數（五年以上）	普通ノ學力	授與ノ學科目	職名	氏名	年齡
	年　ケ月					年　ケ月

記載上ノ注意

一、普通ノ學力欄ニハ高等小學校卒業者及修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認定シタル者ニ在リテハ「有」ト記載シ然ラサル者ハ「無」ト記載スルコト

二、氏名欄ニハ女子ニ限リ右肩ニ「女」ト朱書スルコト

取調書丙號　其ノ二

小學校專科正教員

卒業シタル學校名	卒業シタル學科	同上修業年限	同上每週教授時數	小學校ニ於ケル教授ノ年數	普通ノ學力	授與ノ學科目	職名	氏名	年齡
				年　ケ月					年　ケ月

記載上ノ注意

一、取調書丙號其ノ一ニ同シ

○小學校教員免許狀授與ニ關スル件

（昭和四年十月二十二日
岐普三號普通學務局長通牒）

標記ノ件ニ關シ岐阜縣ヨリ別紙甲號ノ通照會有之タル處乙號ノ通回答致置タルニ付御了知相成度

甲號

文部省普通學務局長殿　　岐阜縣知事

二學第一九五二號
二四四八號　　昭和三年二月二十七日

小學校教員免許狀授與ニ關スル件

客年十二月二十六日二學第一九五二號及二學第二四四八號ヲ以テ標記ノ件報告候處客月二十四日岐普四六號ヲ以テ免許狀授與シ難キ旨通牒有之候固ヨリ大正十年八月發普三二〇號通牒了知候處大正十五年五月二十七日發普九六號師範教育改善補助ニ關スル通牒ニヨル尋常小學校本科正教員講習實施要項ニ依リ講習終了者中成績佳良ナル者ニ對シテハ當然免許狀授與スヘキ義ト存候然ルニ客月二十四日岐普四六號通牒ニ依ルトキハ客年五月發普九六號通牒ノ御趣旨ニ反シ候尚今後右講習生募集スルモ希望者無之義ト存セラレ候處客年五月發普九六號通牒ニ基キ免許狀授與スヘキニ就テハ如何ナル方法ニ依ルヘキ儀ニ候哉何分ノ御指示相成度此段伺上候

乙號

岐普三號
昭和四年十月二十二日

文部省普通學務局長

岐阜縣知事殿

小學校教員免許狀授與ニ關スル件回答

昭和三年二月二十七日二學第一九五二號二四四八號ニ依リ標記ノ件御照會ノ處小學校令施行規則第百七條第六號ニ依リ小學校教員免許狀ヲ授與セラルル場合ハ總テ大正十年發普三二〇號通牒ノ調査標準ニ依ルヘキ筋ニ有之大正十五年發普九六號師範教育改善補助ニ關スル通牒ニ依ル尋常小學校本科正教員講習實施要項第四項第二號中「其ノ成績ヲ考査シ」ノ趣旨ハ大正十年發普三二〇號通牒調査標準ニ依リ其ノ成績ヲ考査スヘキ儀ニ付御了知相成度

第二章　待遇及任免

○小學校長及教員名稱及待遇改正ニ付注意

（明治四十四年十一月十一日
石川縣訓令甲第五十九號）

（郡）市　役　所　　市町村立小學校

今般勅令第二百七十三號ヲ以テ小學校長及教員名稱及待遇中ニ改正ヲ加ヘラレ市町村立小學校長ニシテ功勞顯著ナル者ニハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ賜フコトトナレリ是レ小學校ノ教育ニ從事スル者ノ任務極メテ重大ナルニ顧ミ特ニ優遇ノ意ヲ明ニセラレタルニ外ナラス小學校長及教員ハ勅令改正ノ趣旨ヲ體シ一層奮勵シテ其ノ本分ヲ盡シ以テ小學校教育ノ實績ヲ擧ケンコトヲ期スヘシ

（郡）市長ハ小學校長ノ待遇ヲ奏任ニ進ムルコトヲ内申スルニ際シテハ愼重ニ其ノ功勞ヲ審案シ勅令改正ノ趣旨ニ悖戻セサランコトヲ期スヘシ

○教員履歷書提出方ノ件

（昭和二年二月二十三日
發學第三三六七號通牒）

學務部長ヨリ支廳長市長市町村立小學校長宛

敍勳内申上必要有之候ニ付市町村立小學校等職員ニシテ其ノ經歷正教員其他判任待遇以上ノ官職ヲ通シ在官職二十五年以上ニ達スル者アリタル場合ハ別紙樣式ニ依ル履歷書ヲ徵シ御報告相成度候也

追テ右ハ曩ニ郡市長宛通牒セルモノナルニヨリ各學校ヘハ其旨徹底セルモノト被存候モ尙爲念及通知候又珠洲郡内小學校長及金澤市内小學校長ハ珠洲支廳或ハ金澤市長ヘ提出シ支廳長竝ニ市長ハ調査ノ上御進達相成度

記

履歷書

石川縣何郡何小學校訓導（兼校長竝勳爵）

氏　　名

生年月日

族籍……縣平民（士族）

現住所……番地

年	號	月	日	任免賞罰等	資格	在職年數	通算

〃〃〃	〃〃〃〃〃	任〃〃訓導何級何俸	判任待遇				
〃〃〃	〃〃〃〃〃	兼任〃〃校長	同				
〃〃〃	〃〃〃〃〃	何級何俸給與					
〃〃〃	〃〃〃〃〃	退職（事由）又ハ休職					
〃〃〃	〃〃〃〃〃	任〃〃〃〃〃〃					

備考

記載事項ハ年月日等正確ニ調査記入相成度准訓導、同心得ノ如キ無資格ノ事項ハ記載ニ及ハサルモ教員以外ノ官職ノ任免事項（判任待遇以上）ハ洩レナク記入ヲ要ス尚資格、在職年數、通算ノ三欄ハ空欄トシテ記入ニ及ハス又任免賞罰等ノ欄ニハ任免、俸給、俸給令規正（朱書）校名改正（朱書）等ヲ記入スヘク加俸、講習事項、輕易ナル賞等ハ記入ニ及ハス

○小學校教員叙勳內申履歷書記載事項ニ關スル件

（昭和三年六月六日
發學第八八三號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

昭和二年二月二十三日附發學第三、三六七號ヲ以テ通牒相成候標記ノ件

中左記事項ハ爾今履歷書ニ記載セサル樣御留意相成度此段及通牒候也

記

一、兼任ノ實業補習學校長又ハ教諭助教諭
二、兼任ノ市町村立圖書館長又ハ司書
三、兼任ノ市町村立裁縫學校長又ハ訓導

○小學校長及正教員ノ命免竝補職ニ關スル辭令式

（昭和七年七月二十三日
石川縣訓令甲第十二號）

市役所　町村役場
町村組合役場　市町村立小學校
町村組合立小學校

市町村立小學校長及正教員ノ命免竝補職ニ關スル辭令式左ノ通定メ昭和七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

記

一、新任職記式

（何官職）位勳功爵　何　某

石川縣公立小學校訓導ニ任ス

本俸（專科）正教員勤務

何級上（下）俸（當分月俸何圓）給與

一、兼任職記式

石川縣公立小學校訓導位勳功爵　何　某

石川縣公立小學校長ニ兼任ス

一、補職辭令式

石川縣公立小學校訓導
（兼）（石川縣公立小學校長）　何　某

石川縣何郡（市）何小學校訓導（兼）（石川縣何郡（市）何小學校長）ニ補ス

但シ市立若ハ市町村學校組合立ノ小學校長若ハ訓導ニ補スル場合ニ於テハ當該市長若ハ市町村學校組合管理者ノ申請ヲ俟チテ之ヲ行フモノトス

一、俸給辭令式

石川縣公立小學校訓導　何　某

何級上（下）俸（當分月俸何圓）給與

一、休職辭令式

石川縣公立小學校訓導
（兼石川縣公立小學校長）　何　某

小學校令施行規則第百二十二條第何號（第百二十七條）ニ依リ休職ヲ命ス

（但シ俸給ヲ支給セス）

一、退職辭令式

（休職）石川縣公立小學校訓導
（兼石川縣公立小學校長）　何　某

小學校令施行規則第百二十六條第何號（前段又ハ後段）（第百二十七條）ニ依リ本職（竝兼職）ヲ免ス

一、復職辭令式

休職石川縣公立小學校訓導
（兼石川縣公立小學校長）　何　某

復職ヲ命ス

○市町村立小學校教員履歴書記入ノ件

（明治三十四年三月二十九日
石川縣訓令甲第十六號）

内務部長ヨリ金澤市長宛

（郡）市役所、町村役場、市町村立小學校

（郡）市町村長ハ左ノ書式ニ依リ管内市町村立小學校教員ノ履歴書ヲ徵シ其ノ任免進退賞罰等異動アル毎ニ逐次記入スヘシ

明治二十六年石川縣訓令第十四號明治三十二年石川縣訓令甲第二十七號ハ之ヲ廢止ス

（履歴書式）

年號	月日	任免進退賞罰等	官衙學校	氏名㊞ 生年月日	原籍 族籍

備考　任免進退賞罰等ノ欄ニハ年月日ノ順序ニ依リテ其辭令文ヲ掲ケ且ツ卒業證書及免許狀等ニ關スル事項ヲモ併セ記載スルモノトス

○教員進退申請ニ關スル件

（大正十三年十月七日
發學第一三〇一號通牒）

内務部長ヨリ金澤市長宛

教員ノ退職ニ關シテハ爾今特ニ左記各項ニ關シ詳細承知致度候條御了知相成度候也

追テ取扱ノ都合上別紙申請ノモノニ對シテモ右據御取計相成度書類一先及返戻候

記

一、本人ヨリ提出シタル退職願書ニツキ調査シタル經路ヲ詳記スルコト
二、退職願意ノ内容ニハ意見ヲ附スルコト
三、退職申請ノ理由
四、兼職名ハ必ス退職願書ニ記載セシムルコト
五、實業補習學校職員ヲ兼務スル者ハ小學校ノ分ノ外實業補習學校職員退職願書ヲ併セ徵スルコト
六、退職願書ニ對スル添申ハ各人別紙ニ認ムルコト
七、休職ヲ申請スル場合ハ退職申請ノ場合ニ準ス
一、添申ノ始メニ出願者ノ職（兼職名共）氏名ヲ明記スルコト
一、退職願書ニツキ調査シタル經路
當該學校長及履歴書或ヒハ本人ニツキ調査シタル場合ノ詳況（勤務、服務、成績等ノ具體的實狀）ヲ記スコト
一、退職願意ノ内容ニ關スル意見
結婚ノ爲メ或ハ某々地ヘ轉居ノ爲メ等ト先ツ退職願意ノ内容ヲ具體的ニ記載シ之ニ關シ意見ヲ附スルコト
一、退職申請ノ理由
休職ニセシシテ全然退職トナサンニハ重大ナル理由ノ存在ヲ必要トス其理由ヲ適確ニ記載スルコト

小學校教員進退申請書

事由	現在俸給（何圓）	增俸等級（何圓）	任用學校職名	現在職名	現俸トナリタル年月日	當該關係學校教員定數及（現在數）	加俸額	氏名

○小學校教員進退申請ニ關スル件

（大正八年十月二十八日
發學第一九五號通牒）

内務部長ヨリ（郡）市長宛

小學校教員進退申請書樣式中左記ノ通改正致候條御了知相成度候也

記

一、當該關係學校教員俸給總額ヲ現俸トナリタル年月日ニ改ム
二、同上現在教員數ヲ當該關係學校教員定數及現在數ニ改ム現在數ニハ括弧ヲ付スヘシ

○小學校教員ニ兼務方内申ニ關スル件

（昭和九年四月二十一日
發學第二〇六號通牒）

學務部長ヨリ町村長小學校長宛

補習學校等ノ教員ヲ小學校教員ニ兼務セシメムトスル場合ハ當該小學校長ニ於テ管理者ト協議ノ上左記樣式ニ依リ遲滯ナク内申相成度

記

兼務セシメムトスル職名	免許狀ノ種類	前任地ニ於テ公立小學校訓導兼務ノ有無	手當額	發令年月日	希望現職名	氏名

○教員任用ニ關スル件

（大正二年三月七日發學第六九號依命通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

從來正教員又ハ准教員ノ免許狀ヲ有スル者ヲ准教員又ハ代用教員ニ採用シタル向有之候處右ハ爾今其ノ資格ニ依リ任用方申請相成候樣致度候也

追テ代用教員又ハ准教員ニシテ准教員又ハ正教員ノ免許狀ヲ受得シタル時ハ遲滯ナク其ノ資格ニ依リ任用方申請相成候樣致度此段申添候也

○尋常小學校ニ高等小學校ノ教科併置ノ際ニ於ケル教員進退方

（昭和八年三月十一日石川縣訓令甲第二十八號）

市役所　町村役場
市町村立小學校

市町村立尋常小學校ニ高等小學校ノ教科ヲ併置シタルトキハ其ノ尋常小學校ノ校長及教員ハ當然尋常高等小學校ノ校長及教員トナリタルモノト見做ス

明治二十六年八月一日石川縣訓令甲第二十九號ハ之ヲ廢止ス

○神職ト小學校教員トヲ交互兼務スルノ件

（大正三年一月十日發社第二號依命通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

土地ノ情況ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テ縣社以下神社ノ神職ト小學校教員トヲ交互兼務セシムルノ必要アルトキハ左記各項ニ依リ御取扱相成度依命此旨申進候也

記

一、現任神職ヲ小學校教員ニ兼務セシメムトスルトキハ其ノ任用セムトスル學校ノ兒童數學級數、教員配置ノ狀況及奉仕神社數、社務ノ繁閑等ヲ調査シ教授上並神勤上支障ナキヤ否ヤ詳細具申相成度

一、現任小學校教員ヲ神職ニ兼務セシムル爲メ氏子總代若ハ崇敬者總代ヨリ提出シタル推薦書ヲ進達セムトスルトキハ前項ニ依リ詳細添申相成度

○教員兼務ニ關スル件

（大正十年十二月十四日石普七八號）

文部次官回答

本年六月二十四日發學第一三七號ヲ以テ小學校ニ併設シタル農業補習學校專任教員ヲシテ該小學校ノ專科訓導ヲ兼務セシムルノ件御照會ノ處右ハ差支無之ニ付御了知相成度

○小學校教員休職取扱方ニ關スル件

（大正十三年四月二十三日東師普八二號）

普通學務局長通牒

爾今小學校教員ニシテ高等師範學校本科及他ノ各科ニ入學ノ爲小學校令施行規則第百二十二條第一項第三號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者卒業後休職期間內ニ高等師範學校ノ各科ニ入學スル場合ニ限リ其ノ在學中休職繼續ノコトニ御取扱相成度

追而明治四十四年十月愛普九四號大正元年十月口普一三五號通牒ハ自然消滅ノ義ト御了知相成度

○師範學校卒業者身上異動ニ關スル件

（昭和四年五月八日發學第四七五號）

學務部長ヨリ小學校長宛

兵役事務處理上必要ニ付爾今貴校職員中退職願出ノ場合左記該當者ハ同人ノ本籍地、生年月日、退營年月日添申相成度此段通牒候也

追テ小學校令施行規則第百二十六條第一號、同第百二十八條第二號ノ場合ハ其ノ退職年月日、休職滿期年月日ヲモ記載セラレ度

記

本縣師範學校卒業者ニシテ短期現役兵ニ徵集セラレ服役ヲ終リ年齡二十八年迄ノ者

○教員休職期間ニ關スル疑義ノ件

（大正十一年四月十四日石普二二號）

普通學務局長回答

本年四月八日發學第一五號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ御意見ノ通ト御了知相成度

大正十一年四月八日
發學第一一九號

知事ヨリ普通學務局長宛照會

本縣立實業補習學校教員養成所ヘ入學ノ爲休職ヲ命セラレ其ノ事故止ミ尙休職期間中更ニ官立農業教員養成所ニ入學セル者ノ休職期間ハ其ノ卒

業後三ケ月間繼續スルモノトシ取扱可然ト被認候處聊カ疑義ニ渉リ候ニ付何分ノ御回示相成度此段及照會候也

○公立學校職員任用方內申ニ關スル件

（明治三十八年五月十八日
石川縣訓令甲第十一號）

（郡）市　役　所

公立學校職員ノ任用方內申ノ際ハ豫メ本人ノ本籍地市町村長等ニツキ其經歷等ニ於テ學校職員タルニ不都合ノ行爲ナキヤ詳細調査ヲ遂ケタル上內申スヘシ

○公立青年學校ノ職員ノ任命並ニ補職ニ關スル辭令式

（昭和十年四月十七日
石川縣訓令甲第七號）

市　役　所
町　村　役　場
公立青年學校

公立青年學校ノ職員ノ任命並ニ補職ニ關スル辭令式左ノ通定メ補職辭令、休職及復職辭令、俸給辭令ハ石川縣公報ニ登載シ辭令ノ交付ニ代フ

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

一、新任又ハ轉任ノ職記式並ニ補職辭令式

石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）ニ任ス　官職位勳功爵　何　某

何級俸給與

石川縣何郡（市）何青年學校（各當該學校名ヲ記ス）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス　石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

二、兼任職記式並ニ補職辭令式

石川縣公立小學校訓導兼石川縣公立小學校長　位勳功爵　何　某

石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）ニ兼任ス　石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

石川縣何郡（市）青年學校（各當該學校名ヲ記ス）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス

三、轉補辭令式

イ、專任者ノ場合

石川縣何郡（市）何青年學校（各當該學校名ヲ記ス）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス　石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

ロ、兼任者ノ場合

石川縣何郡（市）何小學校訓導兼石川縣何郡（市）何小學校長兼石川縣何郡（市）何青年學校（各當該學校名ヲ記ス）長（教諭、助教諭、書記等）ニ補ス

四、退職ノ辭令式

イ、專任者ノ場合

石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

願ニ依リ本職ヲ免ス

ロ、兼任者ノ場合

石川縣公立小學校訓導兼石川縣公立小學校長兼石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

（願ニ依リ）兼公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）ヲ免ス（（願ニ依リ）兼職ヲ免ス）

五、休職ノ辭令式

石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

公立學校職員分限令第八條第一項第何號ニ依リ休職ヲ免ス

六、復職ノ辭令式

休職石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

復職ヲ命ス

七、俸給ノ辭令式

石川縣公立青年學校長（教諭、助教諭、書記等）　何　某

何級俸給與

○公立學校幼稚園及青年學校教員養成所職員死亡申報ノ件

（大正十五年十二月八日
石川縣訓令甲第八十三號）

（改正）昭和一〇年石川縣訓令甲第九號

市　役　所
町　村　役　場
學校組合役場
公立學校
公立幼稚園
青年學校教員養成所

公立ノ學校幼稚園及青年學校教員養成所ノ職員死亡シタルトキハ當該學校長幼稚園長又ハ青年學校教員養成所長ニ於テ知事ニ卽報シ後、死者ノ遺族ヨリ戸籍謄本ヲ徵シ遲滯ナク送付スヘシ但シ（支廳長）又ハ市長ノ任命スル職員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ公立學校職員トハ公立學校職員制ニ依ル職員、小學校令及小學校令施行規則ニ規定セル職員及明治三十六年石川縣令第四十八號第一條ノ二ニ揭クル者ヲ謂フ

明治三十六年石川縣訓令甲第十七號ハ之ヲ廢止ス

○社會教育委員囑託及解囑ニ關スル件

（昭和九年五月十九日
發社教第一一一號通牒）

學務部長ヨリ市町村長中等學校長小學校長
實業補習學校長社會教育委員會長宛

爾今學校職員ニ對シ社會教育委員ノ囑託及解囑ヲ爲ス場合ニ限リ縣公報ニ登載ヲ以テ辭令ノ交付ニ代フベク候條御了知相成度此段及通牒候也

第三章　服務及分限

○小學校教員心得

（明治十九年五月八日
石川縣丙第五十五號）

郡區役所、戸長役場、町村立小學校

町村立小學校訓導准訓導ヘ豫テ小學校教員心得交付致置候處尙心得ノ條件別紙ノ通相定ム

右相達候事

（別紙）

普通教育ノ得失ハ之ヲ大ニシテハ國家ノ强弱世運ノ隆替之ヲ小ニシテハ一身ノ安危一家ノ興廢ニ關スル者ナレハ教師タルノ責任重且大ナリト謂フヘシ蓋維新ノ始ヨリ政府ノ教育ヲ重セラルヽヤ其奬勵督責一ニシテ足ラス近時教育令ノ改正アル亦其普及實功ヲ期セラルヽニ外ナラス然ルニ世ノ父兄未タ教育ノ貴ムヘキヲ知ラス勤モスレハ學費ヲ厭ヒ學事ヲ不急トシ教師ヲ蔑如スルノ弊止マス是世ノ貧困ナルト父兄ノ無學ニ因ルト雖モ抑又教育ノ未タ實地ニ著カサルノ致ス所タルヲ免レス苟モ教師能ク其責任ヲ盡シ教育ヲシテ能ク其正鵠ヲ誤ラス世人ヲシテ益ク其效益ヲ感セシメハ何ノ父兄カ之ヲ信セサラン何ノ子弟カ之ヲ敬セサラン然則教育ノ消長ハ全ク教師ノ努力如何ニ因ラサル無シ切ニ望ム自今自任自重ノ精神ヲ奮起シ一層勉勵國家教育ヲ重セラルヽノ誠意ニ踏スル所アランコトヲ茲ニ教師ノ心得ヲ示ス左ノ如シ

一教師タルモノハ衆兒童ノ父母ナレハ慈愛懇到一擧一動赤子ヲ保スルノ實ナカルヘカラス

一教師タル者ハ國民ノ模範ナレハ忠愛孝友ノ德義明鋭敏達ノ智識困苦ニ耐ユルノ體力ト艱難ニ當ルノ氣象等凡ソ國民ノ模範タル資格ヲ先ツ自ラ備ヘ暗裏ニ兒童ヲ薰陶スル覺悟ナカルヘカラス

一教育ノ主眼ハ人間生活スヘキ天賦固有ノ財本タル智德體此ノ三者ノ實力ヲ啓發擴充セシムルニアレハ一月一歲ト雖苟モ學ニ就ク者虛弱ハ强壯痴鈍ハ明敏姦惡ハ善良タラシムルノ實效ヲ期セサルヘカラス

一授業ノ要ハ教師先ツ自ラ得ル所ノ智德體ノ實力書籍ト方法トニ依テ生徒ノ心身ニ移ス覺悟ニ非サレハ生徒ハ徒ラニ之ヲ耳目口舌ノ間ニ留メ貴重ノ金錢ト歲月ヲ費シ高等ノ課業ヲ卒ルト雖モ其得ル所ハ少シク文字ト事理ヲ知ルニ過キスシテ却テ教育ノ本旨ニ悖リ失フ所ヲ償ハス是レ現今教育ノ世人ニ信セラレス教育ノ父兄ニ尊ハレサル所以ノ根元ナリ

一教師タル者ハ日々校内ニ業ヲ授ル而已ニシテ止ムヘキモノニ非ス校外居常萬般ノ行爲如何ヲ注視シ教エタル事ハ必ズ實行セシムルヲ力メサルヘカラス凡校內ノ教育ヨリ寧ロ校外教育ニ力ヲ用ヒ心ヲ盡スニ非サレハ決シテ其功ヲ見ル能ハス

一教師タルモノハ半言片行モ每ニ仔細ニ注意シ燕居獨座モ教育ヲ忘ルヘカラス凡ソ兒童ハ模倣ノ性太タ盛ニシテ生徒ハ卽教師ノ寫眞ナレハ其教ユル所ノ事ヨリ教ヘサル所ノ事長スル所ノ事ヨリ長セサル所ノ事却テ深ク惡染浸入スル者ナリ

一人ハ天然ニ良知能アツテ凡百ノ事問ヘハ必ス教ヘ思ヘハ心得ル者ナレハ之ヲ存養スルノ方即省察工夫ノ習慣ヲ幼時ニ養成シ置クハ授業中ノ要點ナリ

一教師タル者ハ日々教フル所ノ子弟ヲ以テ教エサル所ノ父兄ヲ感化セシムルノ精神ナカルヘカラス

一教師タル者ハ第二ノ風俗ヲ作ルモノナレハ現在校下ノ風習モ著々改良匡正スルノ丁簡ナカルヘカラス

一教師ノ一家ハ第二ノ學校ナレハ其學校ニ於テ教授セシ所ノモノ〻模範ハ勿論勤儉貯蓄ノ慣習ノ如キモ教師自ラ其家ヨリ示サヽルヘカラス

一教師ハ飽マテ校下民間ノ好學心ヲ作興シ其他開明ニ導ク所ノ事業ニシテ苟モ己ノ能クスヘキモノハ必ス之ヲ奬シテ人心ヲ醒起シ各自ニ義務ヲ會得スルニ至ラシムヘシ然ルトキハ教師ノ職務ヲシテ益々盛大貴重ナラシム

一教育ノ實效ヲ益々顯著ナラシメ學校ノ信用ヲ彌々增大ニスルハ教師永ク其職ニ安ンシテ其品位ヲ貴クスルニ在リ苟モ教師タル者己レ自ラ其職ヲ輕視シ去就常ナク遷轉相踵クカ如キハ人モ亦之ヲ賤業視シ教育何ニ由テ其實效ヲ奏セン學校何ニ由テ其信用ヲ得ン故ニ教師タル者最其去就ヲ愼重セサルヘカラス

一教師タル者ハ專心一意政府教育ノ旨趣ヲ體認遵奉シ毫モ疑惑逡巡スル所アルヘカラス若シ夫レ法令條規改正ノ爲メ世間誤解若クハ附會揑造ノ蜚說等ヲ唱フル者アレハ教師ハ協心戮力シテ其迷惑ヲ解キ國家ノ安寧幸福ヲ增進スルコトヲ務メサルヘカラス

○地域外居住ニ關スル件

（昭和三年四月十四日　發學第一六〇號通牒）

學務部長ヨリ小學校長宛

近時小學校長ニシテ正規ノ手續ヲ經ス潛ニ地域外ヨリ通勤スル者有之ヤニ付右ハ職務上甚不都合ニ有之候條貴今學校所在地域內ニ居住ノ樣嚴重ニ履行相成度

追テ從前認可ヲ受ケシ者ニシテ引續キ地域外ヨリ通勤セムトスル場合ハ此際改メテ認可申請ノ手續ヲ了セラレ度

○小學校教員服忌ニ關スル件

（大正四年八月二十三日　發學第一五七號通牒）

內務部長ヨリ各郡市長宛

今般縣令第四七號ヲ以テ小學校令及同令施行規則實施ニ關スル細則中改正ヲ加ヘラレ候處右ハ事務簡捷ノ趣旨ニ外ナラス候條御了知ノ上之カ服忌ニ關シテハ大凡別表ニ準據相成度候也

小學校教員服忌表

本人トノ關係	忌引又ハ遠慮日數
父母	十日
祖父母	五日
夫妻	七日

伯叔父母	三日
兄弟姉妹	四日
子	五日
其ノ他	一日乃至三日

特別ノ事情アルトキハ本表ノ日數ヲ伸縮スルコトヲ得

○小學校教員私宅教授及贈遺受領取締ノ件

（明治三十二年十月七日　石川縣訓令甲第四十八號）

〔郡〕市役所

小學校教員私宅ニ於テ教授時間外ニ小學校生徒ヲ教授スルトキハ生徒心身ノ發達ヲ害スルノミナラス徒ニ教授ノ標準ヲ高メ生徒管理上偏愛ノ嫌疑ヲ受クルニ至リ且教授ノ準備ヲ妨クルコト尠カラサルヘシ又教員小使等ニ於テ生徒若ハ父兄ノ贈遺ヲ受クルカ如キハ是亦生徒間ノ惡情ヲ害シ一般就學ノ妨ト爲ル等教育上弊害尠カラサルニ依リ厚ク注意ヲ加ヘ嚴重ノ取締ヲ爲スヘシ

○職服廢止ニ關スル件

（昭和三年九月二十六日　發學第一八四四號通牒）

學務部長ヨリ市町村立小學校長宛

今般石川縣訓令甲第十九號ヲ以テ市町村立小學校長及教員ノ職務廢止相成候處右ハ從前制定ノ職服ハ時代ニ相應セズ隨テ之カ勵行ノ適當ナラサルヲ被認タル儀ニ有之候條將來校長及教員ノ服裝ニ關シテハ特ニ學校教員ノ體面上將又執務上經濟上等ニ考慮ヲ拂ヒ萬遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

○公立學校長職務規程

（大正十五年二月二日　石川縣訓令甲第二號）

（改正）昭和二年石川縣訓令甲第二三號、同第三〇號、八年同第一九號

市役所
町村役場
町村學校組合役場
公立學校

第一條　左ニ揭クル事項ニ就キテハ知事ニ上申スヘシ

一、職員ノ進退賞罰ニ關スル件

二、教授ノ囑託並ニ解任ニ關スル件

三、生徒募集ニ關スル件

第二條　左ニ揭クル事項ニ就キテハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

一、制服徽章ニ關スル件
二、學校長ノ縣外出張及賜暇若ハ歸省等ニ關スル件
三、（削除）
四、一時限ニアラサル校地、校舍、校具ノ貸與ニ關スル件
五、經費豫算ノ流用及豫算外支出ニ關スル件
六、（削除）
七、其ノ他重要ナリト認ムル事項

第三條　左ニ掲クル事項ニ就キテハ知事ニ開申スヘシ
一、學校長ノ縣內出張及職員ノ出張ニ關スル件
二、生徒ノ縣外修學旅行ニ關スル件
三、卒業證書授與式擧行ニ關スル件
四、生徒入學ノ狀況ニ關スル件
五、水泳教師及常傭員ノ採用解任ニ關スル件

第四條　第一條第三號、第二條第四號及第五號竝ニ第三條第五號ノ規定ハ縣立學校長ニ在ラサル公立學校長ニ之ヲ適用セス

第五條　本規程ニ於テ學校長、職員ト稱スルハ公立學校職員制ニ依ル職員及實業補習學校教員養成所令ニ依ル職員ノ外明治三十六年石川縣令第四十八號第一條ノ二ニ掲クル者及知事ニ於テ辭令ヲ須ヒ當該學校ニ採用シタル者ヲ謂フ但シ實業補習學校ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條　本規程ニ依ル文書ハ縣立學校ニ在ラサル公立學校ニ在リテハ管理者ヲ經由スヘシ
但シ第一條第一號及第二號ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

左ノ訓令ハ之ヲ廢止ス
大正十年石川縣訓令甲第二十六號縣立學校長事務章程
大正十年石川縣訓令甲第二十七號縣立學校長事務章程及縣立學校職員服務細則ヲ縣立實業補習學校教員養成所ニ準用スルノ規程

○女教員竝幼稚園保姆ノ產前產後ノ休養ニ關スル件

（大正十一年十一月十一日
石川縣訓令甲第三十七號）

郡市役所
私立學校
私立幼稚園

女教員竝幼稚園保姆ノ產前產後ニ就キ特ニ保護方法ヲ講スルハ頗必要ナル事ニシテ若シ其方法宜シキヲ得サレハ母體胎兒竝嬰兒ノ健康障害ヲ來スノミナラス直接間接ニ教育上不其ノ影響ヲ及ホシ國民保健上竝教育上忽ニスヘカラサル問題ナレハ其ノ休養ニ關シテハ左ノ各號ニ依ル樣努メラルヘシ

一、分娩後六週間休養ヲ爲サシムルコト
二、醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間休養ヲ爲サシムルコト但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ產婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルヲ得
三、前號ノ分娩豫定日ヲ超エテ尙分娩セサル場合ニハ事實分娩アルマテ休養ヲ繼續セシムルコト

○教員ノ產前產後ニ於ケル休養實施ニ關スル件

（大正十一年十一月十八日
收學第九三五號依命通牒）

內務部長ヨリ縣立學校長郡市長宛

今般縣令第四十九號、縣令第五十號、縣令第五十一號、訓令甲第三十六號及訓令甲第三十七號ヲ以テ女教員竝幼稚園保姆ノ產前產後ニ於ケル休養ニ關シ發令相成候處右實施ニ就テハ尙左記事項御了知ノ上可然御取計相成度候也（縣立學校長宛ノ分ニハ第二號ヲ省カ）

記

一、該休養ヲ爲ス教員及保姆ノ擔任セル授業ノ補充ニ關シテハ教授上保育上ノ支障ヲ來ササル樣豫メ補充ノ職員ヲ置ク等適宜ノ方法ヲ講スルコト
一、私立學校竝私立幼稚園ニ於テ該休養ヲ爲ス教員保姆アル場合ニハ其ノ者ニ給與スヘキ給料ノ額ヲ減額スルコト無カラシメ又教授上支障ヲ來ス等ノ理由ニ依リテ解職スルカ如キ事無カラシムル樣適宜ノ方法ヲ講スルコト
一、該休養ヲ爲サシムル外教員保姆ノ月經時姙娠時ニハ體操、遊戲、運動會、修學旅行、遠足等ニ於テ過激ナル運動ヲ爲ス等凡テ其ノ身體ノ異狀ヲ起シ易キ職務ヲ隨時輕減又ハ免除スル等適宜ノ保護方法ヲ講ス

○女教員產前產後休養ニ關スル件

（大正十五年一月二十九日
收學第一七九三號通牒）

內務部長ヨリ各郡市長女子中等學校長宛

今般某縣左記甲號ノ如キ照會ニ對シ文部省ニ於テ乙號ノ如ク回答ノ旨牒有之候ニ付參考ノ爲メ及通牒候

記

甲號
女教員產前產後ニ於ケル休養ニ關シテハ大正十一年九月文部省訓令第十八號ヲ以テ御明示有之候處左記ノ場合ニ於ケル取扱方ニ關シ疑義有之候間至急御指示相煩度此段及照會候

乙號
十月三十日附學收第五四〇六號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ人工姙娠中絕ヲ爲シタル場合ト雖醫師ニ於テ姙娠第二十八週以後ナルコトヲ證明セル者ニツキテハ大正十一年九月文部省訓令第十八號ニ依リ產後休養トシテ取扱ハル可キモノト御了知相成度

○同上ノ件

（昭和二年二月二十三日
教學第三三七〇號通牒）

學務部長ヨリ中等學校長、小學校長、實業學校長、裁縫學校長、幼稚園長宛

今般某經ヨリ左記甲號ノ如キ照會有之タルニ對シ乙號ノ如ク回答セシ旨文部省ヨリ通牒有之候條御了知相成度

記

甲　號

女教員姙娠三ケ月ニシテ流產シタル時ト雖大正十一年九月十八日貴省訓令第十八號第一項「イ」ニ基キ取扱可然哉

母體健康保持上ノ精神ヨリスレハ右「イ」ニヨリ支障ナキモノノ如クナルモ「イ」ハ分娩トアリ流產ハ分娩トハ認メ難ク疑義相生シ候條何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

乙　號

九月二十三日教第一〇三五七號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ大正十一年九月文部省訓令第十八號第一項「イ」ニ該當セサル儀ニ付御了知相成度

追テ姙娠第二十八週以前ニ於ケル流產、失產、人工姙娠中絕等ハ總テ本件ノ通御取扱可然ニ付爲念申添フ

○學校職員徽章竝ニ佩用規程

（昭和十一年八月二十六日
石川縣訓令甲第二十一號）

市　長　公私立學校長
育成院長　公私立幼稚園長

第一條　本縣內學校職員タルノ身分ヲ表シ一層其ノ職務ニ自覺精勵スルト共ニ相互間ノ親和ヲ圖ル爲別記圖式ノ徽章ヲ定ム

第二條　左記ノ者ハ本徽章ヲ佩用スルモノトス

小學校長竝ニ教員
靑年學校長竝ニ專任教員
中等學校長竝ニ教員

第三條　左記ノ者ハ本徽章ヲ佩用スルコトヲ得ルモノトス

縣市教育行政關係職員
中等學校書記
靑年學校指導員
學校醫　學校歯科醫
學校看護婦
幼稚園長竝ニ保姆
育成院教職員

第四條　本徽章ハ左胸部ニ佩用スルモノトス

（別紙圖式略ス）　銀地金文字（教）

第四章　俸給旅費及諸給與

○市町村立小學校教員加俸給與細則

（明治三十三年七月二十七日
石川縣令第九十一號）

（改正）　明治四二年石川縣令第六〇號、大正一五年同第一三九號、昭和六年同第二三號

明治三十三年勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第九條ニ依リ市町村立小學校教員加俸給與細則左ノ通相定ム

市町村立小學校教員加俸給與細則

第一條　加俸ハ其ノ年額ヲ二分シ每年四月十日ニ於テ前六箇月分ヲ支給ス但休職若クハ退職ヲ命セラレ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ加俸ヲ止メラレタルトキハ年額ヲ月割計算トシ當月分マテノ金額ヲ其ノ際支給ス

第二條　加俸ノ支給、增額、減額ハ發令ノ翌月ヨリ計算ス

市町村立小學校教員加俸令第七條第一項及第四項ノ場合ハ其受給事由ノ發生シタル月ヨリ計算ス

第三條　加俸ハ疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ缺勤スルモ之ヲ減給スルコトナシ

第三條ノ二　僻陬地ニ指定セル小學校竝分教場ニ勤務スル教員ニシテ自宅ヨリ通勤スル者ニ對シテハ市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ニ依ル特別加俸ヲ支給セス

第四條　市町村立小學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ遲滯ナク知事ニ報告スヘシ

一、市町村立小學校教員加俸令第七條第二項ニ該當スル者アルトキ
二、市町村立小學校教員加俸令第七條第二項ニ依リ特別加俸ヲ受クル者其ノ事由ノ消滅シタルトキ
三、僻陬地ニ指定セル分教場ノ勤務ヲ命ジタルトキ
四、僻陬地ニ指定セル分教場ノ勤務ヲ解キタルトキ
五、僻陬地ニ指定セル尋常高等小學校ノ尋常科ノ勤務ヲ命ジタルトキ
六、僻陬地ニ指定セル尋常高等小學校ノ尋常科ノ勤務ヲ解キタルトキ

第五條　特別加俸ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ別ニ辭令ヲ用ヰスシテ其ノ加俸ヲ失フモノトス

一、單級小學校ノ多級小學校ニ變更シタルトキ
二、他ノ學校ニ轉任ヲ命セラレタルトキ
三、市町村立小學校教員加俸令第七條第二項ノ事由消滅シタルトキ
四、僻陬地ニ指定セル尋常高等小學校ノ尋常科勤務ヲ解カレタルトキ
五、僻陬地ニ指定セル分教場ノ勤務ヲ解カレタルトキ
六、僻陬地ノ指定ヲ取消サレタルトキ
七、市町村立小學校教員加俸令第七條第三項ニ依ル特別加俸ヲ受クル者自宅ヨリ通勤スルニ至リタルトキ

附　則

本則施行ニ際シ本年四月以後ニ於テ單級小學校ニ勤務シタル者ニハ其ノ當月ヨリ特別加俸ヲ支給ス

市町村立小學校教育費國庫補助法第六條第一項ニ依リ支給スヘキ金額ニ關シテハ本則第一條、第二條及第四條第一項ヲ適用ス

○僻陬地小學校指定

（昭和六年三月十一日
石川縣告示第百六號）

明治四十四年五月石川縣告示第二百十號ニ依リ指定シタル明治三十三年勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第七條僻陬地小學校ヲ左ノ通改正指定ス

一、江　沼　郡

片谷尋常小學校
九谷尋常小學校
大内尋常小學校
荒谷尋常高等小學校杉水分教場
荒谷尋常高等小學校大土分教場

一、能　美　郡

白峰尋常高等小學校
桑島尋常小學校
尾添尋常小學校
新保尋常小學校
新丸尋常高等小學校

一、石　川　郡

内川尋常高等小學校後谷分教場
内川尋常高等小學校堂分教場
白山尋常高等小學校内尾分教場
白山尋常高等小學校金間分教場
犀川尋常高等小學校大平澤分教場
犀川尋常高等小學校二又分教場
市原尋常高等小學校中宮分教場

一、河　北　郡

醫王山尋常高等小學校荒山分教場
町尋常小學校小原分教場

一、羽　咋　郡

針山尋常小學校
入釜尋常小學校

一、鹿　島　郡

鵜浦尋常高等小學校
上湯川尋常小學校
清水平尋常小學校
鰻目尋常高等小學校
野崎尋常高等小學校
西島尋常高等小學校
南大呑尋常高等小學校熊淵分教場
德田尋常高等小學校多根分教場
越路尋常高等小學校石動山分教場
越路尋常高等小學校蟻ケ原分教場
向田尋常高等小學校島別所分教場
西岸尋常高等小學校別所分教場

一、鳳　至　郡

上中尋常小學校
武連尋常小學校
北河内尋常小學校
中寄尋常小學校
小山尋常小學校
寺山尋常小學校
下唐川尋常小學校
輪島尋常高等小學校鵜倉島分教場
南志見尋常高等小學校東山分教場
黒川尋常小學校十郎原分教場
柳比尋常高等小學校猿橋分教場
諸岡尋常高等小學校深見分教場
三波尋常高等小學校猪平分教場
西保尋常高等小學校西二又分教場
西保尋常高等小學校下山分教場

一、珠　洲　郡

清水尋常小學校
狼煙尋常小學校
東山中尋常小學校
高屋尋常小學校
折戸尋常高等小學校
馬緤尋常小學校
上黒丸尋常小學校
馬渡尋常小學校
不動寺尋常小學校國重分教場
櫃原尋常小學校小屋分教場

○單級小學校ニ勤務スル正教員ニ支給スヘキ加俸ノ件

（明治三十三年七月二十七日
石川縣訓令甲第三十六號）

〔郡　役　所〕

明治三十三年勅令第百三十三號市町村立小學校教員加俸令第七條ニ依リ町村立單級小學校ニ勤務スル正教員ニ支給スヘキ金額ニ就キテハ（郡長）ニ於テ意見ヲ附シ知事ニ上申スヘシ

○市町村立小學校教員加俸令ニ關スル疑義ノ件

（大正十四年一月六日
發普四九二號）

普通學務局長通牒

今般某縣ヨリ別紙甲號ノ通照會アリタルニ對シ別紙乙號ノ通回答シタルニ付御了知相成度

（甲　號）

市町村立小學校教員加俸給與取扱ニ關シ左記事項疑義相生シ候條何分ノ

御回示相煩度此段照會候也

記

一、准訓導ニシテ新ニ年功加俸（年額貳拾四圓）ヲ受ケタル後尚五ケ年以上勤續シ增加々俸（年額拾貳圓）ヲ受ケタル者本科訓導又ハ專科訓導ニ轉任シタルトキハ市町村立小學校教員加俸令第三條第二項ノ新加俸及同條第二項但書ノ增加々俸ヲ併給シ可然哉

（乙　號）

大正十三年十二月一日秘第一〇七六號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通ト御了知相成度

○出征應召ノ場合ニ於ケル小學校教員休職者ニ對スル加俸支給ニ關スル件

（大正四年七月二十一日發普三八〇號）

普通學務局長通牒

本年一月二十二日佐普第一號ヲ以テ市町村立小學校教員休職者ニ對スル加俸給與ノ件ニ關シ及通牒置候處右ハ出征應召ノ場合ニ限ラス總テ休職中俸給ヲ受ケル者ニ對シテハ加俸ヲ給セラレ可然趣旨ニ有之候條御了知相成度爲念此段及通牒候也

甲

小學校職員ニシテ今回ノ開戰ニ就キ出征及應召セシモノニ對シテハ本年八月二十三日文部省訓令第八號並同月二十六日發普三五〇號通牒ノ趣旨ニ依リ本縣ニ於テハ出征應召ノ休職訓導ハ勿論准教員代用教員モ可成現職ノ儘トシ俸給ノ差額ヲ給與スルコトニ致居候ヘハ年功加俸モ同樣給與致度候處明治三十三年六月四日子普甲一五二八號ヲ以テ休職者ニハ總テ不支給ノ旨宮崎縣ハ御問答ノ次第モ有之聊疑義相生シ候條至急何分ノ御回示煩シ度此段及照會候也

乙

客年九月十一日發佐學第二五三號ヲ以テ小縣校教員休職者ニ對スル加俸給與ノ儀ニ付御照會ノ次第有之候處右休職者ニシテ俸給ヲ受クル者ニ對シテハ其休職中年功加俸及特別加俸ノ三分ノ一ヲ給セラレ可然コトニ省議決定候條御了知相成度此段及回答候也

追テ本文ノ趣旨ニ依リ貴縣市町村立小學校教員加俸給與ニ關スル細則中相當改正セラレ度尚明治三十三年六月四日子普甲一五二八號宮崎縣ニ對スル回答ハ取消サレタルモノト御承知相成度又本文加俸ハ當然加俸賞金ヨリ支出可相庁儀ニ有之候爲念此段申添候也

○小學校教員年功加俸支給上ニ關スル疑義ノ件

（大正九年四月三十日東普五二九號）

普通學務局長通牒

市町村立小學校教員年功加俸支給上ニ關スル疑義ノ件ニ就イテ東京府ヨリ左記甲號ノ通リ照會カアリマシタノテ今般乙號ノ通リ回答致シマシタ

カラ御參考ノ爲通牒致シマス

記

乙　號

大正六年十二月二十七日己學甲第四七九〇號テ御照會ニナリマシタ市町村立小學校教員年功加俸支給上ニ關スル疑義ノ件ハ御意見ノ通リテ差支アリマセヌ右回答致シマス

甲　號

小學校令施行規則第百二十二條第二號前段學校編制ノ變更ニ依リ休職ヲ命セラレ一年ノ後休職期退職トナリタルモノ六十日以內ニ同一府縣內小學校訓導ニ任用セラレタルモノト見做シ市町村立小學校教員加俸令第四條後段ニ依リ爾後ノ在職年數ヲ勤續年數ニ通算スヘキ義ニ有之候哉聊カ疑義相生シ候ニ付折返シ何分ノ御回示相煩度候

○市町村立小學校教員年功加俸ニ關スル件

（大正十一年十月二日熊普一一一八號）

普通學務局長通牒

標記ノ件ニ關シ熊本縣ヨリ左記甲號ノ通リ照會ニ付本日熊普一一一八號ヲ以テ乙號ノ通リ回答セリ

（甲　號）

大正九年十月二十八日勅令第五一九號公立學校職員年功加俸令第七條第一項ニ依レハ公立學校職員加俸支給ニ關スル勤續年數算定ニ方リ小學校正教員准教員勤續年數ハ公立學校職員勤續年數中ニ算入スト有之候處公立學校職員ヨリ市町村立小學校教員ニ轉シタル場合ニ於テモ右ニ準シ勤續年數ト認メ可然哉何分ノ御回示相煩度念キ及御照會候也

（乙　號）

九月二十三日號外ヲ以テ首題ノ件御照會ノ處右ハ左記ノ通リ御了知相成度

記

一、公立學校職員ヨリ市町村立小學校教員ニ轉シタル場合ニハ公立學校在職年數ハ勤續年數ニ通算セス

○市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數通算ニ關スル疑義ノ件

（昭和二年三月三十一日口普六七號）

普通學務局長通牒

標記ノ件ニ關シ山口縣ヨリ別記甲號ノ通照會有之ノ本日乙號ノ通回答シタルニ付右御了知相成度此段通牒ス

甲　號

市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數算定方ニ關シ左記ノ通疑義相生シ候條何分ノ儀御指示相煩度此段及御伺候也

記

一、市町村立小學校教員加俸令ニ依ル勤續年數算定方ニ關シ加俸令第三條ニ於テハ小學校教員ニシテ五年以上同一府縣內ノ市町村立小學校ニ勤續シ云々トアリ市町村立小學校ニ付テハ其ノ勤續年數ノ算定ヲ同一府縣內ニ限定シアルモ同令第五條ニ於テハ道廳府縣視學、島廳郡視學及師範學校訓導ニ在職シタル年數ハ之ヲ勤續年數ニ通算ストアリ別ニ同一府縣內ト限定シアラサルニ付他府縣(視學及師範學校訓導)ヨリ本縣市町村立小學校ニ轉任シタルモノハ同樣勤續年數ニ通算シ可然哉

乙　號

大正十五年十一月四日視第一五七三號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ件了承右ハ不可然儀ト御了知相成度

○特別加俸給與ニ關スル件

(明治四十四年八月十五日)
(編普六七號)

普通學務局長通牒

特別加俸給與方ニ關シ左記甲號某縣照會ニ對シ乙號ノ通回答致候ニ付爲御參考此段及通牒候也

(左　記)

甲　號

多級ノ尋常小學校ニ於テ一學年ヨリ四學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ニシテ偶々或學年ノ兒童一名モ就學セサルニ至リタル場合ニハ市町村立小學校教員加俸令第七條第二項ニヨリ特別加俸ヲ給與スル限ニアラサルモノト解シ可然哉聊疑義ニ渉リ候條至急何分ノ御回報相成度此段及照會候也

乙　號

本年六月二十九日玄學發第六二號ヲ以テ多數ノ尋常小學校ニ於テ一學年ヨリ四學年ニ至ル兒童ヲ以テ編制シタル學級ニシテ偶々或學年ノ兒童一名モ就學セサル場合ニ於テ特別加俸給與方ニ關シ御照會相成候處右ハ給與セラレ可然トノ含議ニ有之候條御了知相成度此段及回答候也

○同上ノ件

(昭和二年四月十八日)
(新普五號)

普通學務局長通牒

今般某縣ヨリ別紙甲號ノ通リ照會アリタルニ對シ別紙乙號ノ通リ回答シタルニ付御了知相成度

甲　號

師範學校卒業(一年現役兵)トシテ服役スル者ニハ小學校令施行規則第百五十三號ノ二ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二ヲ減スト有之候處右ノ場合加俸令第七條ニ依ル特別加俸ヲ支給ノ學校ニ任用シタルトキハ前條ニ倣ヒ特別加俸モ三分ノ二ヲ減シ支給可相成モノニ候哉疑義相生シ候條何分ノ御指示仰度此段及照會候也

乙　號

一月十七日學第二一七號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ處右ハ師範學校卒業後直ニ(一年現役兵)トシテ入營シ特別加俸支給ノ學校ニ於テ未タ勤務セサルカ如キ場合ハ特別加俸ヲ給與セサルコトニ御取扱相成度

○市町村立小學校教員ニ對スル特別加俸支給上疑義ノ件

(大正十二年三月二十九日)
(新普八號)

普通學務局長通牒

今般標記ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通リ照會アリシニ對シ乙號ノ通リ回答セリ

(別紙甲號)

小學校教員加俸令第七條第一項第二項第三項該當者ニシテ(一年現役)ニ服スルモノニ對シテハ該加俸支給ノ必要無之モノト被認候得共些カ疑義有之候條折返シ何分ノ御回示相煩ハシ度

(別紙乙號)

二月七日學收第二九一號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ趣了承右ハ御意見ノ通リト御了知相成度

○市町村立小學校教職員ノ年功加俸竝特別加俸ニ對スル納金ニ關スル件

(大正十五年十二月十一日)
(恩發第二六二號)

內閣恩給局長通牒

市町村立小學校等ノ教員職員ノ年功加俸竝ニ特別加俸ニ對スル納金ハ從來市町村ヨリ納付シタルモ恩給法第十八條第二項ノ解釋上同項ノ俸給中ニハ之等ノ加俸ハ之ヲ包含セス從テ之ニ對スル納金ハ加俸ヲ給スル經濟ニ於テ負擔スルコトトナリ市町村ハ其ノ部分ニ付納金ヲ要セサルモノト大藏省ト協議ノ上決定候ニ付將來ハ右ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度爲念右及通知候也

○市町村立小學校本科正教員月俸平均額

(大正九年三月二十日)
(石川縣令第二十四號)

(改正)　大正九年石川縣令第五九號

大正八年勅令第三百四十號ニ依リ當分ノ內明治三十年勅令第二號第三條ニ規定セル市町村立小學校ノ本科正教員ノ月俸平均額ヲ市ニ在リテハ六拾貳圓町村ニ在リテハ四拾八圓トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年石川縣令第五十六號ハ之ヲ廢止ス

○小學校教員俸給ニ關スル件

(大正九年三月二十日)
(發學第五八號依命通牒)

內務部長ヨリ郡市長宛

今般縣令第二十四號ヲ以テ市町村立小學校教員俸給義務額ニ關スル件公

布相成候處本件ニ關シテハ明治三十年勅令第二號ノ規定有之候ヒシモ大正八年勅令第三百四十號ヲ以テ市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他ノ諸給與ニ關スル件公布相成候ニ付爾來必要アル町村ニ對シテハ同令ニ依リ特ニ義務支出額ヲ令達相成居候得共近時物價ノ昂騰其ノ他ノ情況ニ鑑ミ一般小學校教員ノ待遇ヲ高ムルノ必要ヲ認メラレ本月十五日附收學第二八五號ノ二ヲ以テ師範學校卒業者初任給等ニ關スル件通牒致候ニ就テハ從來ノ義務額ヲ超エテ支出セシムヘキ市町村勿カラサルヘケ是等ノ中ニハ從前ノ手續ニ依ルニ於テハ必要ノ支出ニ同意セス爲ニ教員ノ任用增俸上困難ヲ來サシムル向モ或ハ可有之ト存シ今回特ニ義務額ヲ規定セラレタル義ニ有之候條御了知相成度尚今回規定ノ義務額ニテハ俸給支出上不足ヲ告ケ結局更ニ別段ノ命令ヲ必要トスル町村有之候ハハ左記事項ヲ具シ御上申相成度又專科教員及補助教員ノ俸給ニ關シテハ依然勅令第二號ノ規定ニ依ルヘキ儀ニ付同令ニ依リ定メタル從前ノ俸給額ヲ增加シテ定ムル必要アリト認メラルル町村ニ對シテハ貴官ニ於テ明治三十年勅令第二號第五條ニ基キ町村長、町村學校組合長ノ意見ヲ聞キ其ノ答申書寫及別記事項ヲ具シ御上申相成度候也

記

一、教員定數
二、一人平均月俸義務額
三、現在俸給一人平均月額
四、增俸後ノ一人平均月額
五、命令支出セシムヘキ一人平均月額
六、支出ヲ要スヘキ年度ノ町村教員俸給總算一人平均月額
七、命令ヲ必要トスル事由

（注意）第三號乃至第五號一人平均月額ハ第一號ノ定數ニテ除シタル額

別記

一、教員數
二、現在月俸定額
三、增加支出セシムヘキ月俸額
四、增加支出ヲ要スル事由

（注意）各號トモ專科教員ト補助教員トヲ區別記載スヘシ

○小學校令施行規則第百五十三條中「特別ノ事情アル場合」ノ意義ニ關スル件

（大正三年十二月二日　發普四七七號）

普通學務局長通牒

過般改正相成候小學校令施行規則第百五十三條中「特別ノ事情アル場合」ノ意義ニ關シ某縣ヨリ本省ヘ照會有之右ニ對シ省議ヲ經左記ノ通回答致置候條御了知相成度爲念此段及通牒候也

記

客月二十三日教第六一四九號ヲ以テ小學校令施行規則第百五十三條中特別ノ事情アル場合ノ意義ニ關シ御照會ノ處右ハ主トシテ市町村等ノ財政狀態ヲ顧慮セラレタルモノニシテ非常災害等ノ爲當該市町村等ニ於テ休職給ヲ支出スルヲ得サル力如キ場合ヲ指シタル儀ト被存候條御了知相成度此段及回答候也

○〔一年現役〕小學校教員ニ關シ注意スヘキ事項

（大正十五年五月十五日　壹學第五〇五號通牒）

内務部長ヨリ郡市長宛

〔一年現役兵〕トシテ現役ニ服スル小學校正教員ニ對スル俸給ノ給與竝ニ增俸ニ關シテハ左記ノ通御了知相成度

記

一、〔一年現役兵〕ニシテ〔一年現役兵條例第四條及第六條〕ニ規定スル事故ニ依リ現役年期ノ起算日以後ニ入營シタル者アル場合ニハ其ノ者ノ俸給ハ其ノ起算日ヨリ服役シタルモノトシテ取扱フコト

二、〔一年現役兵〕トシテ服役スル市町村立小學校正教員ニ對シ增俸ノ必要アル場合ハ成ルヘク入營前又ハ除隊後增俸スルコト

○小學校教員俸給支拂ニ關スル件

（昭和七年七月三十日　收學第一〇〇號通牒）

學務部長ヨリ町村長町村學校組合管理者宛

小學校教員俸給ノ支拂ニ關シテハ曩ニ及通牒置キタル次第モ有之支障ナク實行相成居リ候コトト存候處尚財界ノ影響等ニ依リ時ニ小學校教員俸給ノ不拂又ハ支拂延期等チナシ甚タシキニ至リテハ市町村義務教育費國庫負擔金ヲ教員俸給以外ノ費途ニ流用スルカ如キコトアラハ國民教育上洵ニ遺憾ニ有之候條斯ル事態ヲ招來セサル樣充分御留意相成度内務文部兩省ノ注意ノ次第モ有之此旨特ニ通牒候也

追テ小學校教員俸給支拂ニ關シ爾今四月七月十月一月ノ各月末ニ其ノ月迄三月分ノ貴町（村）立尋常小學校教員俸給支拂狀況及國庫下渡金調左記樣式ニ基キ御取調ノ上報告相成度

何郡何町村

月別		教員				俸給		國庫下渡金	
何月分		支拂所要額	支拂年月日	支拂濟額	支拂未濟額	同上未濟額ノ支拂見込年月日	支拂未濟事由	下渡年月日	下渡金種別	下渡金額
		円		円	円					円

何月分	何月分	計

○教員旅費減額支給ニ關スル件

（昭和三年八月十八日發學第一五七六號通牒）

學務部長ヨリ市町村長町村學校組合長宛

市町村立學校敎員ニシテ公務ノ爲メ旅行スル場合市町村豫算ノ關係上已ムヲ得ス其ノ旅費減額支給ヲ爲サムトスルトキ之カ認可申請書ニハ減額支給ノ已ムヲ得サル事由ヲ詳記シ且ツ左記樣式ノ調書ヲ添付シ提出相成度及通牒候也

記

正規ノ旅費額									減額支拂額	旅行地及用件	學校職氏名
鐵道賃	船賃	車馬賃	日當	宿泊料	赴任手當	移轉料	家族移轉料	合計			
何哩 何圓	何浬 何圓	何日 何圓	何泊 何圓	円	円	円	円	円			

備考　1、旅行地及用件欄中ニハ出發竝歸著月日ヲ明カニスルコト

2、樣式中該當ナキ欄ハ省略シ差支ナシ

○師範學校卒業生ノ新任旅費支給ニ關スル件

（大正七年四月十六日發學第九三依命通牒）

內務部長ヨリ郡市長宛

師範學校卒業生ニシテ新ニ赴任スル場合ハ內國旅費規則第六條及第十條ニ依リ居住地又ハ滯在地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給スヘキ處ニ有之候處右居住地及滯在地ニ關シテハ從來其ノ見解區々ニ涉リ起算點ヲ誤ル向有之候就テハ將來左記ニ依リ支給ノ事ニ御注意相成度候也

記

一、內國旅費規則ニ居住地ト稱スルハ居住地タル本籍地及居所寄留地又ハ住所寄留ノ屆出ヲナシタル地ヲ云フモノト解ス故ニ從來單ニ師範學校ノ所在地、辭令書ノ交付ヲ受ケタル地、本籍地又ハ旅行中ノ或ル地點ヲ以テ直ニ居住地ト解スルハ妥當ナラス卽チ左記ノ通リ起算點ヲ定メラレタシ

イ、卒業後本籍地ニ復歸屆出ヲナシテ其ノ他ニアルモノナラハ內國旅費規則第六條ニ依リ居住地タル本籍地ヨリ起算スヘク、屆出ヲナサスシテ本籍地ニアル者ナラハ同則第十條ニ依リ居住地以前ニ滯在スルモノトシテ其滯在地タル本籍地ヨリ起算スヘシ

ロ、卒業後本籍地ニ復歸ノ屆出ヲナサス又他ニ居住地移轉ノ屆出ヲモナササル者ハ師範學校在學中屆出ノ通リ尙引續キ同學校所在地ニ有ルモノナラハ同則第六條ニ依リ居住地タル同學校所在地ヨリ起算スヘク其他ニ滯在スルモノナラハ同則第十條ニ依リ居住地以前ニ滯在スルモノトシテ其ノ實際滯在スル地ヨリ起算スヘシ

ハ、卒業後他ニ居所又ハ住所ノ寄留屆出ヲナシタル者ニシテ其他ニ在ルモノナラハ同則第六條ニ依リ居住地タル其ノ地ヨリ起算スヘク若シ其ノ地ヲ離レテ他ニ滯在スルモノナラハ同則第十條ニ依リ居住地以前ニ滯在スルモノトシテ其ノ實際滯在スル地ヨリ起算スヘシ

滯在地ヨリ赴任スル場合ニ於テ其旅費額カ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費額ヨリ多キトキハ居住地ヨリ新任地ニ至ル旅費ヲ支給スヘキハ同則第十條ノ示ス所ナリ

一、新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニ對シテハ內國旅費規則第十一條ニ依リ新官相當ノ旅費ヲ支給スヘキコトニ注意セラレタシ但シ赴任ノ途中其ノ順路內ニ於テ而モ日數ヲモ增ササル範圍ニ召喚セラレタル場合ノ如キニ在リテハ新任旅費ト召喚旅費トヲ重復支給スルノ限リニアラス

○公立學校職員年功加俸支給ニ關スル規程

（大正十年一月十七日石川縣令第五號）

（改正）　大正一二年石川縣令第一七號、一五年同第一三八號

大正九年十月勅令第五百十九號公立學校職員年功加俸令第九條ニ依リ公立學校職員年功加俸支給ニ關スル規程左ノ通相定ム

公立學校職員年功加俸支給ニ關スル規程

第一條　公立學校職員年功加俸支給ニ關シテハ明治三十六年勅令第六十六號公立學校職員俸給令ノ外明治三十六年縣令第四十八號石川縣公立學校職員等名稱及俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則中俸給ニ關スル規定ヲ準用ス

第二條　公立學校職員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ當該學校長ニ於テ關係事項ヲ具シ知事ニ上申スヘシ

一、年功加俸ヲ支給スヘキ事由ノ生シタルトキ

二、年功加俸ヲ增給シ又ハ減給スヘキ事由ノ生シタルトキ

三、年功加俸ノ支給ヲ停止スヘキ事由ノ生シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公立學校職員年功加俸令附則第二項ニ該當スル者ニ支給スヘキ年功加俸ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ計算ス

大正九年十月一日以後本令施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ於テ勤續五年ニ達シタル者ニ支給スヘキ年功加俸ハ其ノ勤續五年ニ達シタル日ノ翌日ヨリ之ヲ計算ス

○公立學校職員年功加俸ニ關スル件

（昭和三年三月七日　發學第四二六八號通牒）

學務部長ヨリ公立中等學校長公立實業補習學校長宛

標記年功加俸ノ支給スヘキ事由ノ生シタルトキ其ノ他支給事由ニ異動アリタル場合ニ於テハ大正十年一月石川縣令第五號公立學校職員年功加俸支給ニ關スル規程第二條ニ依リ夫々上申可相成筈ニ有之候處中ニハ數ケ月ヲ經テ漸ク其ノ手續ヲ爲ス向モ有之整理上差支不尠候條將來右該當事項發生シタルトキハ直ニ上申相成度候也

○石川縣公立學校職員等名稱及俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則

（明治三十六年七月二日　石川縣令第四十八號）

（改正）明治三八年石川縣令第二九號、四三年同第五四號、四四年同第六〇號、大正二年同第二二號、三年同第五九號、同第六九號、四年同第一三號、六年同第五號、七年同第五八號、八年同第六四號、九年同第三八號、同第五二號、同第六〇號、一〇年同第一八號、同第五二號、同第六〇號、同第七一號、一一年同第二二號、同第五〇號、一二年同第一六號、一三年同第一三號、一五年同第九九號、昭和五年同第五五號、六年同第四六號、八年同第七四號、一〇年同第七號

第一條　石川縣公立學校職員等名稱及俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ法令ニ規定アルモノノ外ハ本令ノ規定ニ依ル

前項ノ公立學校ニハ市町村立小學校幼稚園其他小學校ニ類スル各種學校ヲ包含セス

第一條ノ二　職員ノ名稱左ノ如シ

一、教諭心得　公立學校職員制ニ依ル教諭ニ代用スヘキ者ノ名稱トス

二、助教諭心得　公立學校職員制ニ依ル助教諭ニ代用スヘキ者ノ名稱トス

三、訓導心得　師範學校ノ訓導ノ事務ヲ助クル者並盲唖學校及聾唖學校ノ訓導ニ代用スヘキ者ノ名稱トス

四、保姆心得　師範學校ノ保姆ノ事務ヲ助クル者ノ名稱トス

五、書記心得　公立學校職員制ニ依ル書記ニ代用スヘキ者ノ名稱トス

六、舍監心得　公立學校職員制ニ依ル舍監ニ代用スヘキ者ノ名稱トス

第二條　前條ノ職員ノ月俸ハ左表ニ依ル

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
教諭心得	一三五円	一二五円	一一五円	一〇五円	九五円	八五円	七五円	六五円	六〇円	五五円	五〇円	四五円	四〇円
助教諭心得	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇						
訓導心得	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五					
保姆心得	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇				
書記心得	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇				
舍監心得	六〇	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇	二五	二〇				

第三條　公立學校職員俸給令第五條第八條乃至第十條及第十一條本文第十二條第一項第十三條第一項第二項第四項ノ規定ハ第一條ノ二ノ職員ノ俸給ニ關シ之ヲ準用ス

特別ノ事情ニ依リ前項第十一條本文以下ノ規定ヲ準用シ難キ場合ニ於

テハ特別ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　前條ノ外第一條ノ二ノ職員ノ俸給支給ニ關シテハ判任官俸給令第十三條及第十四條ノ例ニ依ル

第四條ノ二　陸軍給與令又ハ海軍給與令ニ依リ俸給又ハ給料ヲ受クル職員ニシテ其ノ額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルモノトス

第五條　轉任者ノ俸給ハ其ノ發令ノ當日マテハ前任ノ學校ニ於テ其ノ翌日以後ハ新任ノ學校ニ於テ各日割ヲ以テ當月分ヲ給ス

第六條　減給ノ者休職、解職、廢職及死亡シタルトキハ其ノ減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ給ス

第七條　俸給支給ノ定日ハ毎月二十一日トシ日曜日、祝日、大祭日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス但シ支給定日以前ニ於テ休職、解職、廢職及死亡シタル者、他ヘ轉任シタル者又ハ支給定日以後ニ於テ新任、增俸及他ヨリ轉任シタル者アルトキハ其ノ際給スルモノトス

支給定日以後ニ於テ他ヘ轉任シタル者及減俸シタル者アルトキハ過渡ノ俸給ハ其ノ際之ヲ追徵スヘシ

第八條　休職ノ者其ノ月中ニ復職スルトキハ復職後ノ俸給ヲ給セス但シ前後ノ俸給額ニ異動アルトキハ增俸減俸ノ例ニ依リ日割ヲ以テ增俸ハ追給シ減俸ハ追徵スヘシ

休職ノ者其ノ月中他ノ官職ニ任セラレタルトキハ轉任ノ例ニ依リ其ノ發令翌日以後ニ屬スル俸給ヲ追徵スヘシ

第九條　事務引繼、殘務調理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ校務ニ從事シタルトキノ俸給ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス但シ俸給ヲ受ケタル月ハ支給セス

第十條　公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ執務セサル場合女教員及保姆ニシテ産前産後ノ休養ノ爲別ニ定ムル期間內ニ於テ執務セサル場合及忌引ノ場合ハ疾病若ハ私事ノ故障ト連續スルモ減給トナルヘキ闕勤日數中ニ算入セス

第十一條　俸給ヲ給スルニ當リ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其ノ月支給スヘキ俸給額ニ俸給ヲ給スヘキ日數ヲ乘シ其ノ月ノ日數ニテ除スルモノトス

第十二條　特別ノ學識技能ヲ有スル者又ハ他ニ職務ヲ帶フル者ニ教授ヲ囑託スルトキハ月額百五拾圓以下ノ手當ヲ給ス

第十三條　學校職員ニ兼職ヲ命シタルトキハ本俸ヨリ多カラサル手當金又ハ加俸ヲ給スルコトアルヘシ

第十四條　前二條ノ手當金及加俸ノ支給方法ハ俸給支給ノ例ニ依ル

第十五條　縣立學校諸傭員ノ給料ハ月給又ハ月手當金五拾圓以下日給貳圓以下トス但特別ノ技能ヲ要スル者ニハ月給又ハ月手當金ヲ百圓マテニ日給ヲ四圓マテニ增額スルコトヲ得

第十六條　前條ノ月給又ハ月手當金ハ就職及增給ノ場合ニ於テハ其翌日ヨリ解職ノ場合ニ於テハ其ノ當日マテ日割ヲ以テ之ヲ支給ス但シ其ノ支給方法ハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

月給又ハ月手當金ヲ受クル者ニシテ疾病ノ爲闕勤スルコト二十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ闕勤スルコト七日ヲ踰ユルトキハ其ノ以後ニ係ル月給又ハ月手當金ヲ給セス但シ死亡ノトキハ其ノ月ノ全額ヲ給スヘシ

月給又ハ月手當支給ノ定日ハ毎月二十一日トシ日曜日、祝日、大祭日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス但シ解職又ハ死亡ノトキハ其ノ際給ス

第十七條　日給ハ勤務日數ニ應シテ之ヲ給ス但シ闕勤中ノ休業日ヲ除キ其ノ他ノ休業日ハ勤務日數ニ通算ス

日給支給ノ定日ハ毎月二十一日トシ前月二十一日ヨリ其ノ月二十日マテノ分ヲ給ス但シ支給ノ定日、日曜日、祝日、大祭日ニ當ルトキハ順次繰下ケ解傭ノトキハ其ノ際給ス

第十八條　市町村立小學校諸傭員ノ給料及其ノ支給方法ハ管理者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十九條　職員及諸傭員ノ旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料、赴任手當、移轉料及家族移轉料ノ八種トス

鐵道賃及船賃ハ別表ノ一ニ掲クル所ノ實際ノ料金ニ依リ車馬賃日當及宿泊料ハ別表ノ二移轉料ハ別表ノ三ニ掲クル所ニ從ヒ各定額ニ依リ之ヲ支給シ赴任手當及家族移轉料ハ別表ノ四ニ掲クル標準ニ從ヒ計算シタル額ヲ支給ス但シ當分給ヲ受クル者ニ在リテハ本給ニ對スル相當ノ旅費額ヲ支給ス

第十二條ノ囑託者ニシテ其ノ本職ノ俸給若ハ手當ヨリ少キ手當ヲ受クルモノ及第十三條ノ兼職者其ノ用務ノ爲旅行スルトキハ當該本職ニ付定マリタル所ニ依リ旅費ヲ支給ス

在勤學校所在地ノ町村內ノ出張ニシテ往復四里未滿ノ旅行ニ付テハ旅費ヲ支給セス四里以上ノ旅行ニ付テハ定額半額ノ日當ノミヲ支給ス

在勤學校所在地ノ市町村外ノ出張ニシテ往復二里未滿ノ旅行ニ付テハ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタル場合ヲ除クノ外定額半額ノ日當ノミヲ支給ス但シ鐵道賃又ハ船賃ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ鐵道賃又ハ船賃ヲモ支給ス

前二項ノ場合ニ於テ特別ノ事情アルトキハ縣立學校長又ハ市町村長ニ於テ知事ノ認可ヲ受ケ別ニ必要ナル費用ヲ支給スルコトヲ得

第十九條ノ二　講習若ハ縣內ニ於ケル集會ノ爲ニ出張シタル場合ニ在リテハ日當及宿泊料ハ定額ノ半額ヲ給ス但シ別ニ手當ヲ受クル場合ニ於テ其ノ手當額カ本文ノ日當及宿泊料ノ額以上ナルトキハ之ヲ給セス未滿ナルトキハ其ノ差額ヲ給ス

生徒ヲ引率シテ出張スル場合ハ前條ノ例ニ依ラス市町村立實年學校ニ在リテハ日當一日ニ付金六拾錢宿泊料一夜ニ付金壹圓貳拾錢其ノ他ノ學校ニ在リテハ日當一日ニ付金八拾錢宿泊料一夜ニ付金壹圓六拾錢ヲ給シ鐵道賃、船賃、車馬賃ハ其ノ旅行ニ由リテ要シタル實費ニ依リ之ヲ給ス但シ日當ハ往復四里未滿ノ旅行ニ付テハ之ヲ給セス

第十九條ノ三　職員及諸傭員ノ旅費ハ縣立學校ニ在リテハ學校長其ノ他ノ學校ニ在リテハ市町村長ニ於テ其定額ヲ減シ又ハ其ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十九條ノ四　一旅行縣內用務ト縣外用務トヲ兼ヌル場合ハ縣內用務ヲ終リ若ハ始ムル地ヲ以テ行路ヲ區分シ旅費ヲ計算ス其ノ端數ハ最後ノ旅行規程ニ併算ス

一旅行郡內用務ト郡外用務トヲ兼ヌル場合ニ於テモ前項ノ例ニ依ル

第二十條　旅費ノ支給方法ハ本令ニ規定スルモノノ外ハ內國旅費規則ノ例ニ依ル